

成田山事業年報  
昭和七年

258. 2-101



2582

別庫

101



始



258.2  
101

成田山事業年報

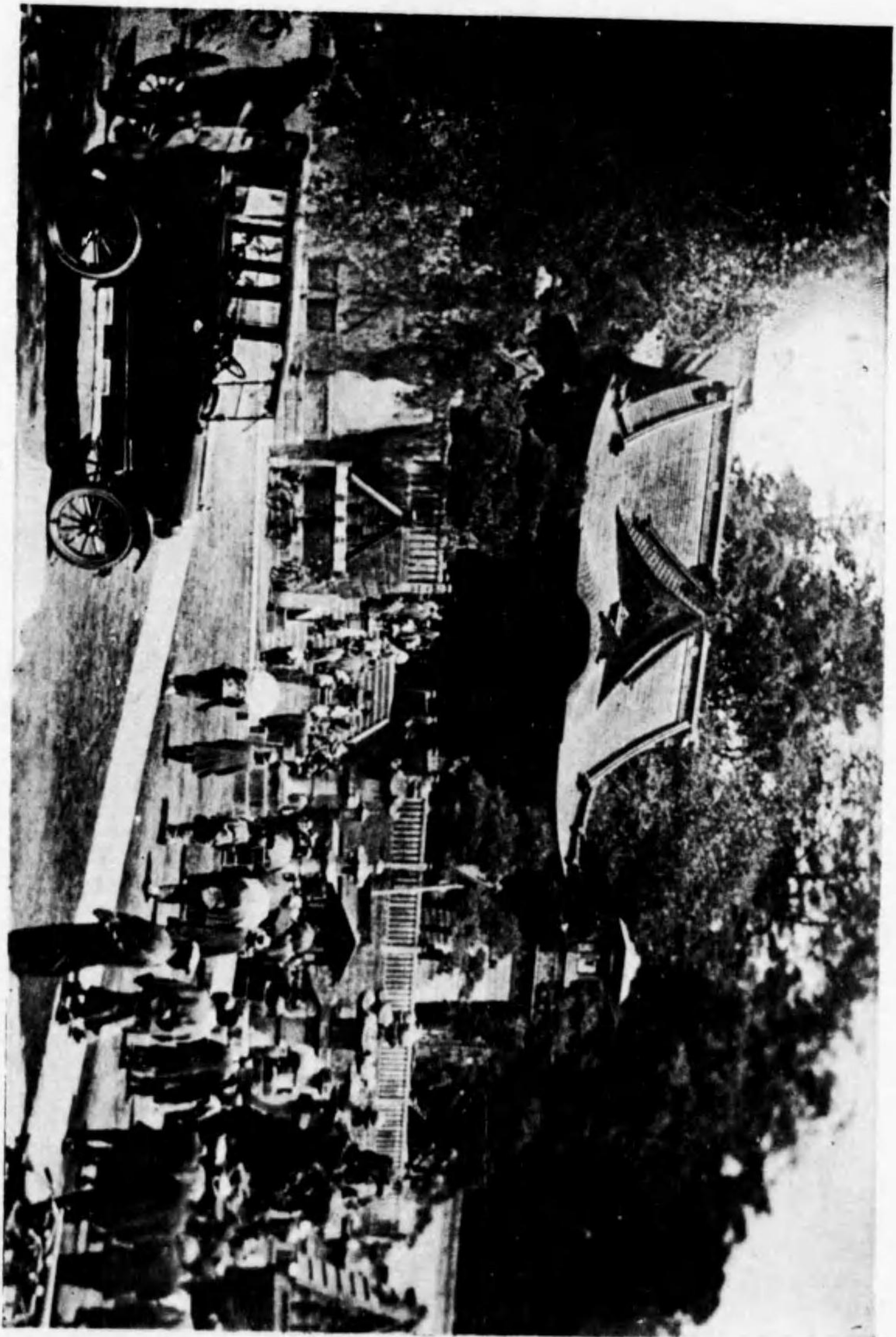
昭和七年

目次

成田中學校一覽	自一頁至四八頁
成田高等女學校一覽	自一頁至二六頁
成田幼稚園一覽	自一頁至八頁
成田學園一覽	自一頁至一六頁
成田圖書館一覽	自一頁至一四頁
新更會一覽	自一頁至二三頁



荒木山主



門 玉 仁 山 田 成

# 成田中學校一覽

設立の趣旨	一
教育方針綱領	一
本校學生精神	一
本校學生精神に就て告ぐ	三
沿革大略	五
學 歴	六
成田中學校々則	七
職 員 表	一二
生 徒 表	一三
英漢義塾卒業生人名	二〇
卒業生人名及現況表	二一
卒業生及生徒郡別表	四八
經 費	四八

成田圖書館寄贈本

東京女子高等師範學校教授  
文學博士 柴尾上八郎氏作歌

學習院教官

殿玉 小松耕輔氏作曲

(一) 東の海の夜あけて

うねりよる思想の怒濤

大八洲岸をもとよす

さめよさめよ成邱の健兒

(二) 靈域は不落のとりで

御すがたは降魔の守

葉牡丹の校旗のもとに

つとへつとへ成邱の健兒

(三) 勤勉と克己と慈悲と

忠勇と剛毅と素朴

楯となし劍となして

立てよ立てよ成邱の健兒

(四) すさまじき主義のたゝかひ

おそろしき智識のいくぢ

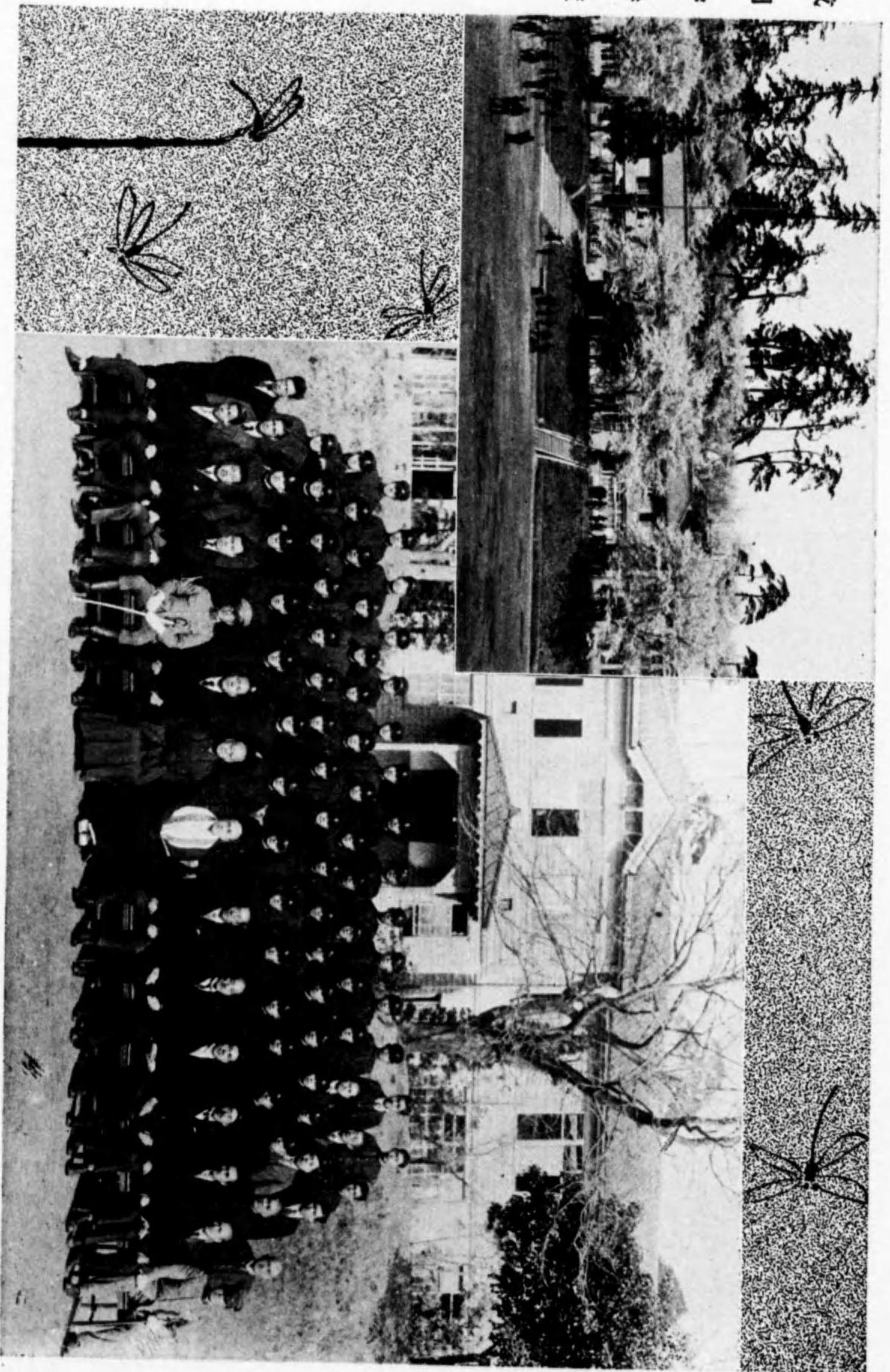
國のため勝利の冠

とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

備(音域高き時はへ調にて歌ふも可なり  
考)メトロノーム 1 84

成田中学校



生業卒回一十三第及員職教

258.2-101

# 私立成田中學校一覽

(昭和七年四月現在)

## ◎ 設立の趣旨

本校は國家的文化教育の見地によりその本旨を宗教の羈絆の下に置かず偏に日本民族の精華たる國家有用の材を育成せんが爲めに創立せられたるものなり。

## ◎ 教育方針綱領

(昭和三年九月諭告)

一切の人間は、其の個性的發展に伴ふ職業的社會參與によりて、社會の構成に發達に貢獻する所の本質的任務を有す。本校は、かゝる任務を果すべき基礎として、先づ、紳士たる品性を育成するを以て當面の目的とす。而して紳士教育は、その内容を、皇國固有の民族精神の躍動として現代にまでその精華を發揮せる士道の精神に基きて、特に剛毅禮節を重んじ、品性の核心を確に定むる所の一大校風を樹立せんとするものなり。

惟ふに、勇往果敢に人生の第一義に生きん熱望する事は、正しき青年の特質にして、青年自身の文化はまたこれによりて純粹道徳の建設に維持をなし得るものなり。

この凜烈にして莊重なる國民的氣魄の下に統一せられざる徳操は、吾等國民としての徳操に非ず。三千年間の吾等民族の中

私立成田中學校一覽

に流動發展せる人間當行の道としての士道の精神は、かくてその國民道徳としての意義を發現し得たるものなり。

本校生徒は、自らを磨くに、常にこの精神を自己の内に顯現せん事を力め、精進怠るなかれ。人格の偉大さの第一義は、實にかゝる精神を發揮せんとして常に自己改善の爲めに邁進する所に存するものにして、單なる世の賞讃非難、若くは人として止むなき過失有無等には存せざるなり。

苟も本校生徒にして、遂にこの見易き事理を解する能はず、反省自ら努むる所なきものは、速に去つて他に適從の事求めべし。

## ◎ 本校學習精神

以上述べたる士道精神は、教育の出發點にしてまた歸着點なり。之を根幹として、近代的叡智の練磨體得と共に、それによりて更に次代の民族文化の伸展に資せんとするは、學習の究竟の目的なれども、分たれたる學科には、また各々その特殊性あり。學者は各々先づその特殊性を究めん努力して、單なる技能學科、記憶學科、理解學科等從來用ひられたる淺薄なる評





價の下に、その本質を誤らざらん事を要す。  
武道は、その剛毅、禮讓、果敢の體得によりて、一般體育競技並に軍事教練に相俟ちて、吾等祖先が熱血單めて建設せる國民的德操としての精神的血潮の流れの跡を如實に體認せんむべきものなり。

學科は、大凡ちて人文系統に屬するもの、自然科学系統に屬するもの二つをなすを得。雖も、總じていへば、何れも其究むる所に於て、人生知の問題として近代の聰明さを増進せんとするものに外ならず。而もその各々の分科は、何れもその唯一無双なる特殊の價值を以て真理を究めんとするものなれば、學科自體の上より論ずれば輕重の差ある事なし。殊に從來單なる記憶學科として考へられたる弊風あるものは特にその本質を知るを要す。例へば、國史の如きは、皇祖發祥以來吾等の祖先が累代努力創建せる磅礫たる國民的意氣の發現として、民族理想の深奥を明にし、以て皇國の使命を知るに共に、博大の識見と明徹の洞察とを併せ養はんとするものなり。末梢的記憶の學科と心得るが如き謬見は、直ちに取つて以て捨つべきなり。國文の研究に於ても亦然り。苟も價値の充實せる創作には、創作者の意識の潜在と顯在とに論なく、それを通じて、その個性の中に織込まれたる歴史と社會との影響あり。直覺的なる思想を僅か一連の文字に托すに雖も、その中に潜む香高き個性は純

一無二なる輝きを有つものなれば、その眞の意味を體認せんとする事を研究の對象と心得べきなり。

外國の歴史、外國の文學、若くは一般藝術に關しても亦同じ更に數學、物理化學、地理、博物等の如き世界知に關する學問にありては、常に宇宙認識の過程をその中に藏するものにして一木一草の末にも一塊の土石の存在にもその神祕は世界哲理の謎として深く吾等の好奇と探究とを促すものなり。

是等世界知の研究も、その極まる所は、更に一轉して人生知に關する一層深き解釋となつて吾等の前途を指示するものなれば、各學科の最究極に於ては、その目的は歸一するものなり。雖も、それは各科最終の意義にして、學ぶものは先づその特殊の價值を飽くまで究めんとして精進努力する事を要す。

惟ふに、人生は眞理を追及する無限の一大道場なり。疑惑も混迷も懊惱も一途突進につぐ突進を以て之を擊破せざるべからず。眞理の扉は之を開かんとするものによりてのみ開かる。男子學に志しては、自ら立案し、計畫し、工夫し、努力し、目的を貫徹せざれば一步も退くべからざるなり。

近代的睿智と國民的氣魄との二つは、相俟ちて吾等國民の教養の精華を發揮し得べき二大要素なり。その一つを欠けば、一は頑冥固陋となり、一は輕佻浮華となる。現代國家を眞に双肩に擔つて立たんことを志す青年はこの理を十分に辨へて誤るべからず。

### 本校學生精神に就いて告ぐ

(昭和七年四月諭告)

予は前に、昭和三年九月、本校教育精神、學習精神につきて、全校生徒に布告し、之を生徒心得の中に載せて、諸子の以て、就き赴く可き道を指示せり。

爾來、星霜既に三年有半、諸子の力むる所、必ずしも少しもせず。しかも、予より之を觀れば、内に未だ志操の確立強しとは言ふべからず、操守また、毅然として自覺の大道に仍つて皎々たる一路、不滅の光明を放つものは斷ずべからず。

茲に、再び、その精神の所由を説きて、諸子研鑽努力の方向に誤りなからん事を期す。

日本國民の節操は、建國當初より發展せる士道精神にある事前回の述べたり、この士道精神の首徳は、忠にあり、齡の多少を論ぜず、苟も日本民族の精神を有するものは、胸中常に深く之を藏し、時あつて發すれば、金鐵に雖も尙之を粉碎して皇國の守りならんとするものなる事、諸子は、諸子自らの胸奥を探らば、自ら肯くものあらん。

而して、士道精神に於ける恒常の徳の中、特に、重要なものにして剛毅と禮節とを選びて、諸子の研鑽あらん事を期待せり。

剛毅の精神は、その顯現を、内外二つの意義に従つて、思料

する事を得。

その外に現はる、や、萬難不屈の形象を具し、その目的を立つて進むや、波濤、脚下の砂礫を奪ひて、將に倒れんとするも、盛返し、又盛返し、最後まで屈するの事なきが如く、練磨、久しうすれば、遂に、如何なる困苦に遭ふも、泰然として崩る、なし。

人生の希望は、夢幻にもあらざれば僥倖にも非ず、若し、不屈不撓の精神によつて導かれざるならば、それは、青春の一朝の幻影か、一時の低き歡樂のみ。

剛毅の精神内に發動すれば、良心の命令に従つて、内面の自我を規正し、毅然として、善の規範の下に服し、聊も懈怠あるべからず。

行に、陰陽、表裏ある者あるは、痴愚の輩に非んば、かゝる内面的剛毅の欠けたるに由る。

任務を遂行しては決して誤らず、その負責の任を全うするも學を修めては決して怠らざるも、或はまた惡聲嘲罵の聲は論ずるまでもなし、亂舞歡樂の誘惑にも、耳を傾けずして、我が信念を守らんとするも皆この精神の發露による。

青少年の慎んで戒むべきもの二つあり。一つは内心に起る諸欲情にして、一つは逸樂を求むる遊惰心なり。

この時、自ら端然として操守、斷乎自己を崩さざる大精神こ

そ、諸子を、より高き人間に創造し行く、唯一不二の道を知るべきなり。

禮節の道は、禮儀、辭讓の精神によつて、表現せらる、之を以て、禮讓といふも可なり。

禮の最大精神は、人格の畏敬にあり、人格は人生に於ける最高の價值なり、禮は、この自他、人格の尊嚴に對する畏敬なり

人格とは、自覺による反省の無限の統一力を謂ふ。洋々として、限りなき海にも比すべき我が心に、省みて過ちあれば、決然として再びせざらん事を誓ひ、正しくんば、益々その向上を思ふ奮發勉勵、常に前を望んで一步をも忽にせざる精神の大小高下は即ち人格の大小高下を決定す。

人格は自敬の精神に出發して自敬に終る、自己の人格に對する畏敬なきものは、また、他の人格に對する畏敬をも理解する能はず。

自敬の本質は、我がまごこをたづぬるなり。故に禮は、我が内面に存する、まごこの客觀的にして且つ必然の表現なり。

禮に非んば視ず、禮に非んば聽かず、禮に非んば動かざるは、聰明睿智、情操の高潔俊邁を具ふるものに非んば、知ることも行ひ得ざるなり。

禮は、かく人間性の高き根本的要素の上に立脚するが故に、

内心を整へ、内心を清らかにすべきなり。辭讓は、外には、先輩を敬する道にして、内には已れを緊しむるの道なり。先輩後輩を論ぜず、他人の言は常に傾聽するの雅量なかるべからず、如何なる言も雖もこの言、眞摯ならば味ふ可き眞理必ず内に含まれん。

我はまた、正しき理由に必要を、有せざる限り、妄りに輕卒なる言動に及びて、徒らなる自己表現の愚に陥る勿れ。内に藏するもの少なきものは、由來口舌の輩なる事多し。

以上、述べたる剛毅も禮節も、人間精神の深奥より出づるものなれば、若し、之が自覺の精神より出づるに非ざればそれは醜を蔽ふ表面の假裝に過ぎず。青年には、青年特有の文化精神あり青年文化の本源は常に純粹道徳より出づ。

純粹道徳の本源は、利によつて動かず、道によつて動くの精神にあり、かくて、自我の審判は自我にあり。

本校生徒たるものは、行動苟も、利によつて動くべからず、道によるべし、己れを利する事も、他人を利する事も、道にかなへばよし、かなはざれば悪なり。

而して、その最後の審判は常に諸子の胸に聽け。

(本校自治會規約昭和三年九月制定せラレタルモ五年十月一日之ヲ停止ス)

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、學園及び新更會と共に成田山新勝寺の施設せる社會文化事業の一に屬す。

(一)英漢義塾時代

明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎じ、石川甚兵衛(先代)諸岡勝太郎(先代)の兩氏に謀りて設立せる、中學程度の學塾にして修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れ同等以上の學力ある者を收容するこゝせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり、宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選科履修生を卒業せしむるこゝ貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和師は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事阿部浩氏の實地視察となり、遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこゝ實に十年五ヶ月。此間塾長の交迭は宮村三多以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及び。當時塾舎は成

田町字東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二)現中學校時代

明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらる、や、直ちに現校舎の新築工事を起し、三十三年六月竣功す、是より先き同年三月には徴兵猶豫の特典を附與せられ。又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらる、あり。遂に六月二十七日を卜して落成式を舉行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、三十一回卒業生を送り、其數千〇三十三名に及び此間文部次官奥田義人商工局長木内重四郎、板垣退助伯、文部省普通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原己一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會文化の努力に深甚の敬意を寄せらる。明治二十一年英漢義塾創立以來年を閲するこゝ實に四十五年其中學と改稱せしより三十五ヶ年に及び。

本校制度として理事を置いて之を管理す、三橋金太郎氏本校創立以來より、理事として勤務し昭和三年四月石川甚兵衛氏本校専務理事として今日に及び校舎の擴張教育の振興に努力す。校長及び校務主監の去就に左の如き記録を有す。

喜田 貞吉 明治三十一年十一月學校長就任

私立成田中學校一覽

竹内 楠三 明治三十二年八月喜田氏に代はる  
石川 照勤 明治三十四年七月竹内氏辭任に付學校長兼任  
(此時より校主自ら校長を兼ね)

栗根 鐵藏 明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる  
白鳥 庫吉 明治四十一年九月本校顧問を囑託す  
葛原運次郎 明治四十一年九月栗根氏に代り校務主監として就任

(校主は中學校長女學校長を兼ね各校には主監を置き  
て校務を統督す)

佐竹 元二 大正三年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる  
佐藤 禮云 大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる  
濱田丑之助 大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる  
名川 彦作 大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる  
笹川 種郎 大正十三年一月學校長に任ぜらる  
(再び學校長を獨立に任命して校務を統督す)  
小林 力彌 大正十四年三月學校長に任ぜらる  
増田 榮 昭和三年五月小林氏に代りて校長に任ぜられ  
現在に到る

◎學 曆

八月 第一學期開始、始業式、入學式

二十六日 五年生父兄會  
二十九日 天長節祝賀式  
三十日 身体検査、口腔検査  
下旬 數學研究會

五月 身体検査、口腔検査 四年生父兄會

五日 武道大會  
二十一日 三年生父兄會  
二十七日 海軍記念日、剛健旅行

六月

十日 時ノ記念日  
十一日 學藝會、圖畫手工習字展覽會  
二十三日 二年生父兄會  
自二十四日 學期末考査  
至三十日

七月

十五日 一年父兄會  
十六日 野外演習(全校)  
二十日 終業式成績發表  
自二十日 水泳教練、武道暑中稽古、選手任命  
至二十九日 縣下野球庭球大會

八月

一日 縣下武道大會

九月

一日 始業式、縣下陸上競技大會

十月

六日 創立記念講演會  
七日 學藝會音樂會、圖畫手工習字展覽會  
八日 記念運動會  
自二十日 野外演習(三年以上)  
至三十日 勅語御下賜記念日、英語大會、國語研究會

十一月

自七日 體育週間  
至十七日 明治節祝賀式、剛健旅行、校内各運動部大會

自十九日 武道稽古  
至十九日 武道大會、書初展覽會  
二十九日 紀元節祝賀式、辯論大會  
三十一日 第五學年考査終了  
三十一日 第五學年成績發表  
一日 卒業式  
六日 地久節  
自七日 學期末考査  
至十三日 陸軍記念日  
二十日 終業式成績發表

成田中學校校則

第一章 總 則

第一條 本校生徒定員は四百五十名とす  
第二條 本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす  
但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

私立成田中學校一覽

自十四日 學期末考査  
至十七日 實彈射擊  
二十四日 終業式、成績發表  
一月 四方拜  
九日 始業式

學科課程每週教授時數表

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第四學年	第五學年	第五學年
時數	時數	時數	時數	時數	時數	時數	時數
修身	勸語 誦書 一個人生活 社會生活作法	社會生活 國家生活 作法	國際生活 國際生活 作法	道德原理 社會生活原理 國民道德作法	同上	同上	同上
公民科				家郷土府縣	同上	同上	同上
國語漢文	國語講讀 習作 文法	國語講讀 漢文講讀 習作 文法	國語講讀 漢文講讀	同上	同上	同上	同上
歷史	外國地理	外國史	外國史	外國史國史	同上	同上	同上
地理	外國地理	同上	日本地理	同上	同上	同上	同上
(英語)	聽方讀方解釋 書取 習作 文法	同上	聽方讀方解釋 書取 文法	同上	同上	同上	同上
數學	三綜合數學	三同上	三同上	三同上	三同上	三同上	三同上
理科	二一般理科	三博物物理化學	三同上	四同上	四同上	四同上	四同上
實業				工業意義發達 各種材料 製作 作業	同上	同上	同上
圖畫	一自在畫	一自在畫	一自在畫	同上	同上	同上	同上
音樂	一歌典樂典	一同上	一同上	同上	同上	同上	同上
作業科	二園藝及工作	二同上	二同上	同上	同上	同上	同上
體操	五體操 遊戲 武道	五同上	五同上	五同上	五同上	五同上	五同上
計	三〇	三〇	三三	三五	三三	三五	三四

第三條 一學年を分ちて三學期をす左の如し

第一學期 四月一日より八月三十一日に至る

第二學期 九月一日より十二月三十一日に至る

第三學期 一月一日より三月三十一日に至る

第四條 休業日左の如し

各日曜日、開校記念日(毎年十月七日)大祭日、祝日、

夏期休業(七月二十一日より八月三十一日に至る)冬期

休業(十二月二十五日より一月七日に至る)春季休業

(三月二十五日より四月七日に至る)

第二章 學科課程及授業時間

第一條 各學科の配當並に每週の時間數は左表に依る(前頁)

第三章 課程の選修

第一條 生徒は第四學年以後に於ては第一種課程若しくは第二

種課程の何れかを選修するものとする

第二條 課程の選擇は第三學年の終りに保證人連署の上願ひ出

て學校長の許可を受くべし

第四章 考査

第一條 各學年の課程の終了又は全學年の卒業は平素の學業成

績並に操行を考査して之を定む

第五章 入學退學休學及賞罰

第一條 生徒の入學は每學年の始す但缺員あるときは第二學

期の始めに於て募集することあるべし

第二條 本校第一學年に入學を許可すべきものは尋常小學校第

六學年卒業のもの及び入學資格檢定に合格せるものにつ

き入學考査を執行し選衡す

第三條 入學資格檢定は尋常小學校卒業程度に依り全學科に就

いて之を行ふ

第四條 第二學年以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達

し其學年に相當する學力檢定に合格したるものに限る

第五條 他の中學校より轉校せんことを欲する者ある時は缺員ある

場合に限り入學を許可することあるべし但全學科に就き

て檢定を行ふ

第六條 本校に入學せんことを欲するものは體格檢査に合格するを

要す

第七條 入學を希望する者は本校所定の用紙に必要事項を記入

の上願ひ出づべし

第八條 入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證

書並に戸籍謄本を差出すべし

第九條 保證人は二名を要し其の一名は親權者後見人親族とし

他の一名は成田町在住の一家計を立つる男子とする

在學證書 (用紙半紙)

印.....保證人ノ印

三錢  
收入紙

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則  
命令等堅く遵奉可仕候也

住 所 誰子弟 族 籍 姓 名 印

生 年 月 日

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規  
則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受  
可申候也

住 所

族籍職業

右保證人(父) 姓 名 印

住所千葉縣印旛郡成田町大字 番地

族籍職業

右保證人(母) 姓 名 印

年 月 日 右保證人 姓 名 印

成田中學校長 何 某 殿

右保證人(成田町在住)は丁年以上の男子にして本町  
内に於て一家計を立つる者に相違無之候也

年 月 日 千葉縣印旛郡成田町長 何 某 印

第十條 保證人の資格上不適當に認むるべきは之れを變更せし  
むるべきあるべし

第十一條 左の場合に於ては退學を命ず

(一) 性行不良にして改善の見込なしに認めたる者

(二) 學力劣等にして成業の見込なしに認めたる者

(三) 引續き一箇年以上缺席したる者

(四) 正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者

(五) 授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの

(六) 疾病事故に因り學業を履修する能はざるものに認む  
るもの

(七) 出席常ならざるもの

第十二條 中途退學せんを欲するものは保證人連署を以て其理由  
を具し願出づべし

第十三條 生徒兵役に服する場合は休學を許可す

第十四條 品行方正學術優等の者には賞品賞状を授與す但特に優  
秀なるものにおいては一學年間の授業料を免除するべき  
あるべし

第十五條 規則命令に違反し又は校紀を紊るものは戒飭謹慎停學

放校の罰に處す

第十六條 學校の建物器具器械標本を毀損又は亡失したるときは  
相當の賠償なさしむるべきあるべし

第六章 授業料及入學料

第一條 授業料は一ヶ月金參圓五拾錢とす

第二條 生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納む  
べし但毎年八月は納むるを要せず

第三條 授業料納附期日を過ぎ五日以内に尙ほ納めざるものは  
納入済まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ

第四條 入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得  
たるときは更に入學金壹圓を納むべし

第五條 左の各項に該當するものは授業料を減免す

(一) 學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの

(二) 戦時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟

(三) 貧困にして資力なく學力品行共に佳良なるもの

但第三項の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書  
を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六條 休學を許可したる場合は授業料を徵集せず

第七章 服 制

第一條 生徒登校の時はず制服制帽を用ふべし

第二條 制帽の地質は黒羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條 制服の地質は紺色又は黒色の小倉織にして詰襟ホック  
止めとす

但し夏服は霜降の小倉織とす

第四條 靴は黒色編上げを用ふべし

第五條 外套は指定の型により黒羅紗金ボタン付とす

但し一、二、學年生徒は調製せざるべきを得

第六條 制服を汚損したるもの若しくは身體上の故障により着  
用不能なるものは許可を得て代用服を着用するべきを得

第七條 代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第八條 新入學生に限り指定の期間中代用服を許可す

第八章 附 則

本校則は昭和六年四月一日より之を施行す

本校則施行に關する細則生徒取締に關する規程及び其他  
必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	氏名	族籍	就職年月
修身	校長兼教諭	荒木照定	千葉縣	大正拾三年二月
物理化學	教諭	瀧澤榮亮	靜岡縣	昭和三年五月
國語漢文	教諭	大石雅次郎	千葉縣	大正拾一年二月
數學	教諭	相田喜之助	福岡縣	昭和三年九月
物理化學博物	教諭	久住雅治	埼玉縣	昭和三年九月
圖畫作業	教諭	小川二郎	靜岡縣	昭和七年二月
地理法制經濟	教諭	寺內保朗	秋田縣	昭和六年四月
博物	教諭	辻和三郎	千葉縣	大正拾四年四月
國語漢文	教諭	片山辰雄	埼玉縣	昭和四年四月
英語	教諭	中山秀雄	長崎縣	昭和四年四月
英語	教諭	五味太郎	千葉縣	昭和七年一月
國語漢文	教諭	三門健一	京都府	大正拾五年四月
歷史	教諭	廣岡泉	兵庫縣	昭和四年九月
數學	教諭	伊藤優	大阪府	昭和六年四月
數學	教諭	藤田貞之助	千葉縣	昭和五年四月
體操教練	教諭心得	細矢末吉	千葉縣	昭和三年四月

英語	教授囑託	正六位勳六等	四原鹿之助	靜岡縣	昭和四年四月
劍道習字	教授囑託		邊田金治郎	千葉縣	昭和五年四月
音樂	教授囑託		岩本政藏	栃木縣	昭和六年四月
柔道	教諭兼書記		榎田正己	千葉縣	大正七年一月
劍道	教諭心得兼書記		南井榮助	千葉縣	明治三十四年十月
休職	教諭		淺尾早苗	千葉縣	昭和五年四月
教練	配屬將校	正七位步兵大尉	一駒達彦	山口縣	昭和六年十一月
校醫內科	校醫齒科		高川直三郎	千葉縣	明治三十三年十月
校醫齒科	助手		萩原村次郎	千葉縣	昭和五年五月
助手	助手		實川賢雄	千葉縣	昭和六年六月
理化	助手		小川貞雄	千葉縣	昭和四年一月

◎生徒表

(昭和七年四月現在)

(△印正副校長) (級長以下身長順)

第五學年A組 (二拾九名)		主任 片山辰雄	
△藤田勇印	豐住	佐久間榮一	同
鹽田俊夫	布織	荒木武雄	同
伊藤市郎	成田	木內武之助	同
伊藤茂	成田	塚谷正能	同
三橋千尋	成田	小川武夫	同
幡谷千尋	成田	小川武夫	同

石井 勝衛門 富里  
郡司 兵衛 香取 多古  
谷 崎 滿印 成田  
石井 寶同 公津  
澤田 演男 郡中 郷

第五學年B組

(三拾五名)

豐田 正三 同成田  
石橋 一太郎 同安食  
五十嵐 貫治 同香取  
遠藤 武男 同公津  
大口 政治 同東京  
大政 治東 龜戶

内保

吉岡 茂印 成田  
加藤 信之 同中郷  
山口 宏明 同遠山  
吉岡 巖同 豐住

萩原 英男 印 旗 豊住  
加藤 健同 成田  
山田 義一郎 同 安食  
鈴木 一 同 成田  
石橋 八郎 同 公津  
糸賀 二郎 同 金江津

第四學年A組

(二拾八名)

伊豆 藏增 則東京 荏原  
穴倉 精一 同成田  
淺井 武男 同成田  
村島 守正 同公津  
江森 己之助 同成田  
澤田 吉藏 同中郷

岡城泉

五木田 紀一郎 茨城 水海道  
矢野 豐三 郎 東京 京橋  
宮本 高雄 同 旗 富里  
丸修 三同 公津  
安達 三郎 同 遠山  
澤田 榮稔 同 中郷  
橋本 謙受 同 高岡

△小林 市郎 印 旗 遠山  
海保 活郎 同 久住  
野島 武夫 同 豊住  
横尾 優同 富里  
小關 義信 同 富里  
湯淺 欣一 同 安食  
石井 俊次 同 豊住  
藤崎 春男 同 安食  
平山 辰夫 同 千代田  
行方 正己 同 二川

第四學年B組

(二拾八名)

加藤 晴巳 同 中郷  
成毛 鐵二 同 安食  
桑原 喜久 同 成田  
竹本 信夫 同 安食  
小林 重一 同 本郷  
香取 茂同 久住  
久保 庭俊 同 成田  
萩原 友三 同 多古  
藤崎 義男 同 遠山  
出山 良同 公津

藤優

野平 靖香 取 八都  
矢萩 正司 同 旗 安食  
小高 辰雄 同 富里  
岩澤 七郎 同 武 千代田  
生駒 重雄 同 武 千代田  
河合 成訓 同 成田  
萩原 操印 旗 富里  
山田 武雄 同 千代田

△平野 照識 同 津 青堀  
出山 七衛 同 旗 豊住

第三學年A組

(三拾二名)

渡稻 葉精 同 功 同 成田  
功吾 同 同 公津  
主任 細

矢末吉

貝塚 信十 同 八生  
山本 信治 同 安食

菅澤 忠一 遠山 成田  
 南井 一方 成田  
 小倉 一三 成田  
 根本 政治 八生  
 野平 今夫 豐住  
 牧野 圭夫 成田  
 鈴木 資同 遠山  
 齋藤 八郎 遠山  
 渡邊 博同 成田

第貳學年B組

(三拾九名)

主任 小川

副主任 二朗

△渡邊 通雄 北三原 成田  
 高川 幸男 成田  
 淺岡 怡一 成田  
 川崎 浩一 成田  
 西內 光一 成田  
 古矢 元佑 成田  
 勝又 一郎 成田  
 武田 智信 成田  
 鬼澤 保行 成田  
 藤倉 高三 成田

後藤 忠雄 布生 成田  
 加藤 孫一 成田  
 大野 惠正 成田  
 加藤 巖博 成田  
 柏木 浩博 成田  
 龍崎 三山 成田  
 淺井 禮三 成田  
 山口 章同 成田  
 川崎 哉同 成田

櫻井 卓印 成田  
 成毛 平同 成田  
 石原 三夫 成田  
 城光 龍夫 成田  
 渡邊 洪印 成田  
 芝野 國男 成田  
 石井 健二 成田  
 渡邊 朝吉 成田  
 △遠藤 武同 成田

第貳學年A組

(三拾三名)

主任 藤西

副主任 田原

△黒川 順三 成田  
 湯淺 浩瑋 成田  
 小出 憲同 成田  
 小倉 善之丞 成田  
 相京 一郎 成田  
 野口 次郎 成田  
 加藤 貞同 成田  
 大谷 正一 成田  
 宮田 悅三 成田  
 潮田 恭三 成田  
 藤崎 重雄 成田

大場 善宮 古川 成田  
 小泉 好一 成田  
 鈴木 守雄 成田  
 信田 一博 成田  
 小泉 量夫 成田  
 石橋 裕三 成田  
 渡邊 吉三 成田  
 鈴木 鼎同 成田  
 小川 勇同 成田  
 谷川 武雄 成田  
 大須賀 三郎 成田

眞鹿 之助 成田  
 芝野 勘一 成田  
 佐久間 秀夫 成田  
 寺内 三郎 成田  
 湯淺 正吉 成田  
 遠藤 憲一 成田  
 大木 茂同 成田  
 柏木 壽同 成田  
 飯塚 嘉一 成田  
 沖田 謙正 成田  
 青柳 謙一 成田  
 香取 四郎 成田  
 △香取 四郎 成田

第貳學年B組

(三拾四名)

主任 藤西

副主任 田原

△篠田 忠義 豐住  
 齋藤 末吉 豐住  
 櫻井 健香 豐住  
 野平 正己 豐住  
 高橋 司同 豐住  
 小川 紀一 豐住

石川 清春 成田  
 川村 勇同 成田  
 土肥 晃同 成田  
 淺倉 龍一 成田  
 加藤 邦同 成田  
 齋藤 健次 成田

辻 照山 小石川  
 勝田 雄印 安食  
 相川 隆同 成田  
 大堀 喜三 成田  
 山本 勳同 成田  
 石原 巍一 成田



小野寺信夫	高塚源次	山田一	寺本馬之助	岡村武典	加藤
富里	布津	公津	成田	成田	成田

第一學年A組

(三拾五名)

主任

三西

原門

鹿健之一助

金子榮一	吉岡政一	關口信	小林嘉	淺井勇
正同	同	同	同	同
中郷	中郷	千代田	八生	遠山

角谷實夫	高柳正平	稻垣公亮	渡邊哲利
三重縣	同	同	同
川俣	住	成田	成田

飯田勝	日暮	長嶋	三橋	長齋	三亮	土里	湯井	大宮	淺井	岩澤	武田	森田
光香	深印	操同	助同	一助	亮同	克同	謹同	一	一	一	一	一
東大戸	本塾	佐倉	中郷	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

山本喜一	石川武	山田有	吉原俊	石川義	齊藤安	川村章	伊藤長	小川武	長谷川	酒井孝	岩澤
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
安食	成田	富里	源清	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

足立	中嶋	竹村	諸村	織田	藤崎	湯淺	池田	横田	野々宮
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
下金町	西巢鴨	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

第一學年B組

(三拾五名)

主任

三西

原門

鹿健之一助

宮崎廣	石橋義	大木甚兵	河崎	根本	加藤	大木	藤木	鈴木	長谷川	龍崎	藤崎
二	二	二	二	二	三	一	一	三	三	二	二
成田	安食	公津	豐住	神崎	中郷	成田	成田	成田	成田	成田	成田

鈴木義一	一	宮木	渡邊	芦田	齋藤	齋藤	香取	根本	諸岡	設樂	五木田
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
公津	中郷	遠山	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

諸岡愛介	吉岡	川嶋	武田	長谷川	新橋	後藤	山田	寺內	加藤
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田	成田

◎成田英漢義塾卒業生人名 (×死亡)

第一回卒業生 (明治廿三年三月)

法學士 北田彦三郎  
三橋金太郎  
高安元三郎

第五回卒業生 (明治廿八年三月)

× 山田兵治

第六回卒業生 (明治廿九年三月)

吉川松太郎

第三回卒業生 (明治廿六年三月)

法學士 石井佐治馬

穴倉高次郎

山田市太郎

石川英之助

× 岡本幸造

山田要之助

第四回卒業生 (明治廿七年三月)

少兵大佐

林政次郎

大野市太郎

湯淺眞二郎

藤崎仁三郎

第七回卒業生 (明治卅年三月)

赤谷由助

× 林田政吉

× 藤崎欽哉

× 多田喜助

× 山本家續

× 石川昌三

× 高梨盛太郎

× 根本太一

山崎傳七

惠口忠治

篠崎幸吉

林田恒藏

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

伊藤幸次郎

第九回卒業生 (明治卅二年三月)

◎中學校卒業生人名及現況表

第一回卒業生 (六名) (明治卅五年三月)

佐原中學校長 (帝大) 小野寺精一郎 印旛成田  
朝鮮總督府通信局工務課長 (帝大) 飯倉文甫 同 成田  
× 三橋信吉 同 成田  
× 竹尾丑之助 同 八生  
弘前中學校教諭 (早大) 秋山篤英 同 富里

第八回卒業生 (明治卅一年三月)

× 郡司喜太郎 弘  
並木 弘  
河津金四郎 保  
岡本 保  
× 山野 制  
× 堀井富五郎 制

選科履修生 (明治卅一年三月)

選科履修生 (明治卅二年三月)

(×死亡) ( ) 内は卒業學校名

日本石油會社東京本社 (早大) 黑田政吉 印旛成田  
第二回卒業生 (八名) (明治卅六年三月)  
× 京須 幸 印旛成田  
日本興業會社社員 (早大) 神崎義俱 同 遠山  
日本大學理事兼商工學校長 (日大) (藤崎改) 加納金助 同 遠山  
山口縣技師 (水産講習所) 高橋照文 山武南郷

私立成田中學校一覽

二三

東京時事新聞社社員  
實業 小川 克己 印旛八生  
吉岡 猛 同酒々井  
渡米實業 加藤芳之助 香取大須賀  
大成火保險株式會社員(早大) 黑川 信 印旛成田

第三回卒業生(十八名)(明治卅七年三月)  
實業 × 渡邊 政助 印旛成田  
小川源一郎 同 公津  
額賀清右衛門 鹿島白鳥  
飯倉 貞造 印旛成田  
海軍中佐 艦政本部出仕技術本部員 寺内 一夫 同 成田  
大 學 校 教 官 官 吏(慶大) 後藤 七郎 同 八生  
實業 × 瀧澤 德次郎 同 成田  
遠藤 與惣平 同 公津  
木内 茂助 同 成田  
小川 利太郎 同 公津  
藤倉 精助 同 成田  
佐々木 收治 千葉聖嘉  
高中 重衛 埼玉北足立  
加藤 右二 印旛中郷  
神崎 庄助 同 成田  
那須 文治 香取飯田

芝浦製作所技師(東京高工) 實業 大日本農會(帝大) 大日本紡績株式會社(帝大) 醫 師(千葉醫專) 金澤醫科大學教授 東京赤阪三聯隊歩兵少佐 實業 關東中學教諭(早大) 實業 醫 師(千葉醫專) 小學校教師 千葉縣々會議員 兵庫縣兵庫製繩株式會社員 實業(早大)

(田中改) × 山本 順 印旛成田  
多田 享 同 公津

第四回卒業生(廿貳名)(明治三十八年三月)  
實業 × 伊藤 昇 君津八重  
萩原 義重 山武千代田  
宮野源一郎 同千代田  
野村 竹男 茨城北相馬  
醫學博士 泉 仙助 香取滑川  
秋山 三省 印旛中郷  
(椎名改) 吉岡 保 同 富里  
大木榮次郎 同 中郷  
平井 節爾 千葉千葉  
秋葉 有一郎 山武千代田  
小幡 久 石川金澤  
(鈴木改) 安藤 胤治 山武千代田  
鈴木 亮 同 公津  
辻 英吉 東京荏原  
高中 喜代松 印旛遠山  
湯淺 儀三郎 同 八生  
藤崎 倭一 同 富里  
藤崎 宗平 同 遠山

實業 小川 明 印旛中郷  
實業 黒川 傳 同 成田  
實業 × 石原 泰次郎 同 成田  
松本 保 大分字佐

第五回卒業生(廿二名)(明治三十九年三月)  
實業 × 小倉 榮二郎 印旛成田  
長谷川 治吉 同 成田  
實業 (藤川改) 士肥 多助 同 富里  
三橋 英治 同 成田  
土屋 圓 山武瑞穂  
醫 師(慈惠醫大) 佐藤 重俊 安房由基  
日本生命保險會社々醫(京都醫專) 山野 衿三 印旛成田  
澤田 信三 同 久住  
小野寺英二郎 同 成田  
(京都高工) 仁科 一 靜岡靜岡  
北海道藤田組加比字牧場技師(東京農大) 鈴木 七郎 印旛八生  
鐵道省新宿驛員(日大) 山野 隆治 同 成田  
實業 × 萩原 長三 山武千代田  
丸 良輔 印旛公津  
實業 石原 清泉 同 成田  
南滿鐵道本社

實業 東京瓦斯會社芝營業所(慶大) 第三銀行本店員 東京府商店勤務 實業 實業 第六回卒業生(廿二名)(明治四十年三月)  
大塚 靜 印旛成田  
石川 芳太郎 同 安食  
石井 金次郎 同 安食  
櫻井 重助 同 遠山  
泉 顯藏 茨城行方  
伊藤改) 黒川 孝 印旛成田  
石橋 昇 同 豊住  
石井 孝司 同 豊住  
篠田 憲次郎 同 八生  
葛生 孝作 同 八生  
(小倉改) 川島 芳夫 市原瀧津  
藤崎源一郎 印旛遠山

實業 作田 紋平 山武鳴濱  
淺井 信之 印旛成田  
石橋 堯之助 同 成田  
松本 頼三 東京京橋  
古矢 誠助 印旛成田  
宮田七右衛門 同 八生  
清宮 俊平 同 八生

私立成田中學校一覽

二三

私立成田中學校一覽

實業	加藤光太郎	印藤成田	實業	丸武夫	印藤公津
下關不動銀行(慶大)	吉田新	同成田	水産講習所技手	藤田正己	同八生
小學校教師	(廣瀬改) 勝田海治	印藤木下	實業	三橋達也	同富里
小學校教師	(小川改) 大木義德	山武千代苗	實業	龍崎源	同酒々井
實業	(成毛改) 鈴木啓次郎	印藤安食	東勝寺貫主(國學院)	三好照嘉	山武千代苗
實業	丸善助	同公津	東洋拓殖株式會社哈爾濱支店次長(農大)	香取實	同二川
小學校教師	(山口改) 鈴木忠治	同遠山	下總御料牧場	石橋清	印藤富里
千葉縣農業技手	橋爪石民	茨木稻敷	信侶	飯倉汎三	同成田
實業	長谷川利吉	印藤成田	現代公論社	鈴木三郎	東京品川
官吏	藤崎勇三郎	同遠山	信侶	稻垣保治	印藤成田
第七回卒業生(廿二名)(明治四十一年三月)			(樽原改)	三好照正	同酒々井
(長谷川改)	五木田康吉	印藤成田	(大島改)	大島慎三	同成田
實業	石井延太郎	同遠山	實業	織原三郎	同八生
里小學校長	三橋治平	同富里	實業	林正四郎	同八生
實業(早大)	竹村克之	同富里	實業	篠原昇	同富里
實業	飯島貞雄	東京芝	實業	高野照寶	同成田
東京鐵道郵便局員	土井彌一	印藤公津	實業	本内喜右衛門	同成田
	藤崎翠	同遠山	實業	松本修一	高知安藝
	稻生恭平	同木下	實業	山々逸作	印藤八生
	三浦照芳	同佐倉	實業	石原岩治	同成田

第八回卒業生(廿二名)(明治四十二年三月)

步兵第二十六聯隊附陸軍一等主計	蛭田玄美	印藤登住	(明治大學)	小川潔	印藤八生
成田中學校教師	× 金澤光雄	香取多古	小學校教師	野平與衛	同豊住
東京復興事業局第四出張所	× 加藤保	印藤八生	實業	橋本修造	同公津
實業	櫻井千太郎	印藤佐倉	(加藤改)	× 竹村健	印藤中郷
實業	藤崎久太郎	同中郷	(土肥改)	諏訪原克己	同公津
公吏	土肥忠衛	同公津	實業(大阪高工)	大塚篤三	同成田
實業	平山勘一	印藤遠山	日本製粉會社下關支店(東京高商)(加藤改)	竹下清吉	同成田
實業	齋藤金吾	印藤公津	陸軍輕重兵大尉(目黒)	石井榮治	山武千代苗
實業	秋葉義之	山武二川	鐵道省青森函館連絡船乘組(東京商船)	坂宮浩	印藤八生
成田山新勝寺貫主(東洋大學)	荒木照定	山武綠海	小學校教師	加勢胖	愛媛宇和島
實業	永瀬謙吉	印藤八生	實業	× 高橋毅一	印藤公津
實業	鈴木五兵衛	同成田	實業	椎名憲三	同久住
芝鏡照院住職(東洋大學)	志田照猛	東京京橋	實業	鈴木重五郎	同中郷
縣屬	(秋葉改) 加藤昇	印藤富里	實業	(三橋改) 小川保	同彌富
實業	(遠藤改) 村島隆治郎	同公津	實業	(中村改) 卯之木照文	同公津
有僑生命保險株式會社社員	(大助改) 藤崎大八	同富里	實業	平野清司	市原高瀬
實業	石橋茂夫	同久住	實業	廣瀬保	印藤登住
實業	(本多改) 藤崎靜	同遠山	實業	日光清瀧製鋼所	小倉甚四郎
			實業	小學校教師	同成田

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

小御門農學校教諭(松戸高等園藝) 實業 小倉英次 印藤八生  
 實業 吉岡米吉 同酒々井  
 商科醫 宮島昇 同成田  
 東京日々新聞社販賣部次長 下村保 同八生  
 (渡邊改) 櫻井昇 同成田  
 澤邊保 同八生  
 第十回卒業生(廿三名)(明治四十四年三月)  
 千葉椎名病院(千葉醫專) 醫學博士 椎名泰三 印藤久住  
 (帝大) 石原貞三 同成田  
 日本鋼管株式會社(千葉醫專) 山口清 同八生  
 醫師(千葉醫專) 醫學博士(平三郎改) 藤崎公道 同遠山  
 海軍機關大尉(呂号潜水艦乘組) 藤田精一 同八生  
 醫師(千葉醫專) 織田貞 市原菊岡  
 (東京商船) (丸改) 内田省吾 印藤公津  
 小倉壯五郎 同中郷  
 林松之助 同八生  
 鈴木雄一 山武山邊  
 川島勝信 印藤富里  
 三橋衛 同成田  
 大阪商船會社(東京商船機關科) 三橋衛 同成田  
 小學校教師 額賀誠司 茨城白鳥  
 朝鮮銀行浦鹽支店(東洋協會專門學校) 小川清 山武二川  
 臺灣臺南大倉組 實業 河野毅一 長生東郷  
 (岡部改) 吉武秀澄 印藤遠山  
 (石井改) 小出清 同富里  
 野平四郎次 同豐住  
 (右馬助改) 秋葉昌己 同富里  
 額賀忠孝 茨城白鳥  
 蛭田眞民 印藤豊住  
 (備改) 吉岡七郎兵衛 同中郷  
 小川新 同成田  
 第十一回卒業生(卅二名)(明治四十五年三月)  
 內務省警保局保安課長兼高等課長(帝大) 三橋孝一郎 印藤成田  
 (秋山改) 鈴木靜 同中郷  
 (本宮改) 大友惟誠 宮城志田  
 (備一改) 梶谷光之助 印藤安食  
 (小野寺改) 瀧川俊雄 同成田  
 渡邊和一 同成田  
 渡邊山松 同成田  
 醫師(新潟醫專) 醫師(新潟醫專)

實業 河合清 印藤成田  
 蕨曙 同公津  
 篠田保 茨城稻敷  
 小山正義 同東茨城  
 織田順 印藤成田  
 小池嘉之 千葉實業  
 池田榮助 山武千代田  
 染谷恒次郎 印藤成田  
 石橋稔 香取滑川  
 稻垣恒藏 印藤成田  
 長谷川桂 同成田  
 新橋旭 同豐住  
 江副節藏 東京京橋  
 (須田改) 長谷川興仁 安房田原  
 河野和起 長生東郷  
 日暮太一郎 印藤中郷  
 岩館昌美 香取滑川  
 山崎秋平 同飯高  
 綿貫新作 印藤西井  
 大塚七郎 同成田  
 青柳公 同公津  
 實業 山田章吾 印藤安食  
 東京赤坂區役所 (中村改) 萩原廣 同宗像  
 實業 粟原照宣 東京八王子  
 鈴木廣雄 東京品川  
 第十二回卒業生(廿八名)(大正二年三月)  
 實業 齋藤義秀 印藤遠山  
 天龍川電燈會社(商船學校) (加藤改) 澤崎英一郎 同成田  
 東京府日本興證券株式會社(帝大) 石井鼎 同遠山  
 實業 鈴木佐太郎 同富里  
 小川浩平 山武千代田  
 內田毅 茨城行方  
 瀧澤榮亮 印藤成田  
 東美義照 東京淺草  
 鈴木明 印藤富里  
 辻愛吉 同遠山  
 內海嘉男 同八生  
 葛生清三郎 香取滑川  
 三橋有方 印藤富里  
 小柳秀吉 同成田  
 岩澤忠二 山武二川  
 日本綿花株式會社 在シヤバ(東京外語) 實業

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

實業 塚本憲一郎 香取滑川  
 僧侶 (智山大) 青木榮俊 同 富里  
 (早大) 櫻井和 同 富里  
 實業 (並木改) 池田一介 東京日本橋  
 實業 大木喜三郎 匝瑳野田  
 小學校教師 竹村和 印旛富里  
 小學校教師 飯塚英夫 香取多古  
 實業 淺岡惠太郎 印旛成田  
 醫師 鈴木高治 同 公津  
 實業 菅澤忠為 同 遠山  
 實業 三橋仙次 同 富里  
 實業 戶村正夫 同 川上

第十三回卒業生 (卅七名) (大正三年三月)

鹽水港製糖株式會社社員 (東京高商)  
 實業 (東京帝大) 早川重雄 印旛成田  
 警視廳保安部建築課內 (蛭田改) 藤崎源之助 同 富里  
 實業 平松白民 同 豊住  
 東京地方裁判所檢事 (帝大) 山田要 同 八生  
 實業 (東亞同文書院) 丸才司 同 公津  
 清水長陽 高知高知

報知新聞社 (東京外語)

實業 竹尾式 印旛八生  
 山田進 同 公津  
 (石崎改) × 三枝照光 君津中郷  
 僧侶 (智山大) 福島照瑞 同 中郷  
 千葉農事試驗場技師 (帝大) 大木顯一郎 同 中郷  
 實業 藤崎鑽 同 遠山  
 朝鮮全羅南道光州原蠶種試驗所技師 (上田蠶糸專門) 稻川義雄 愛媛松山  
 齒科醫 (東京齒科) 長竹彦次郎 印旛成田  
 東京不動銀行 (早大) 大木健 同 成田  
 實業 椿利一 香取滑川  
 實業 出山博 印旛成田  
 實業 貝原塚豐 同 八生  
 瀧澤誠 同 成田  
 瓜生勲之丞 香取多古  
 佐瀨旭 印旛八生  
 田島俊一 埼玉北足立  
 平澤平三 茨城鹿島  
 椎名勝美 印旛富里  
 多田喜平 同 公津

私立成田中學校一覽

實業 (宮内改) 清宮忠雄 印旛八生  
 實業 石井順 同 成田

第十四回卒業生 (卅二名) (大正四年三月)

海軍主計少佐 岡部美磨 印旛遠山  
 北海道苫小牧工業學校長 (帝大) 三橋藤太郎 同 成田  
 醫師 (千葉醫專) 醫學博士 木川浩逸 香取東條  
 東京商船株式會社社員 (拓殖大) 藤崎總三郎 印旛遠山  
 公吏 小倉要 同 成田  
 帝國電燈株式會社員 石井操 同 遠山  
 齒科醫 (東京齒科) 戶村晋 山武千代田  
 實業 大木嘉平 印旛中郷  
 小學校教師 茂手木篤三郎 同 遠山  
 僧侶 (智山大) 黑羽順教 栃木那須  
 小學校教師 丸善一 印旛公津  
 小學校教師 大須賀清光 同 酒々井  
 實業 (吉岡改) × 萩原正雄 香取多古  
 (東北帝大) 吉岡博 印旛中郷  
 (東北帝大) 加藤浩 同 八生  
 實業 藤崎源一郎 同 遠山  
 小學校教師 所晃一 香取多古  
 小學校教師 石井與四郎 印旛成田

實業

實業 (石橋改) 長谷川英一 印旛成田  
 實業 加藤健暢 同 公津  
 東京富澤町川崎銀行支店 (早大) 齊藤健雄 同 公津  
 內務省土木監督署河川工務事務所 京須芳雄 同 成田  
 印旛實業學校教諭 高柳榮三郎 同 豊住  
 實業 鈴木金候 山武二川  
 實業 岩井儀太郎 印旛富里  
 片野純三 岐阜大垣  
 鈴木民治郎 印旛成田  
 柳澤吉藏 同 成田  
 榎田正己 同 成田  
 高安盈仁 同 成田  
 藤波潔 同 成田  
 僧侶 若月義宏 安房西條

第十五回卒業生 (卅五名) (大正五年三月)

醫師 伊藤茂 香取飯高  
 栗林商船株式會社 (小樽高商) (大木改) × 藤澤武雄 印旛成田  
 小學校教師 板倉誠 長生茂  
 小學校教師 木村亮都 印旛遠山  
 佐倉中學校教諭 (東洋大) (石井改) 小川關次 同 安食  
 (大三川改)

私立成田中學校一覽

實業	湯淺健一	印藤八生	實業	伊藤保次	印藤成田
醫師(日本醫專)	戶村達郎	山武二川	實業	紺谷旭	同 遠山
佐倉川崎百銀行支店	藤崎穰	印藤遠山	實業	小川吉之助	同 成田
醫師(千葉醫專)	本多傳	同 遠山	實業	鈴木次郎	同 公津
(東京商船學校)	內田信一	山武二川	實業	池田喜一	同 富里
富山房編輯部(國學院大)	柏原富吉	印藤成田	實業	萩原賢治	同 富里
小學校教師	石川富士雄	同 成田	官吏	宇賀近治	同 白井
實業	安達國一	埼玉大宮	實業	岩井平男	同 大森
小學校教師	八角彌	山武千代田	實業	平山久一郎	同 成田
小學校教師	手島徹	同 千代田	實業	飯高多一郎	香取大須賀
小學校教師	大竹茂	香取滑河	第十六回卒業生(三十六名)(大正六年三月)		
古河電氣工業會社在上海(東京外語)	瀧澤榮一	印藤成田	銚子秋山病院(千葉醫專)	醫學博士	秋山寅雄
都留中學校教諭(早大)	河野八郎	同 八生	實業	堀田彌太郎	印藤久住
實業	秋葉一吉	山武蓮沼	(東京蠶絲專門)	(照保改)	諸岡市郎左工門
醫學研究中(京都醫專)	熊切儀一	夷阴古澤	大日本赤十字社病院	(仲改)	秋葉英世
千葉縣道路技手兼土木技手	片野春吉	岐阜大垣	產婦人科醫局	(能勢改)	長竹達三
實業	齊藤七司	印藤公津	鐵道省東部經理局員		鶴澤邦藏
小學校教師	阿部良策	同 豊住	明治生命保險株式會社々員(早大)		神山雅一
醫師(日本醫大)	伊藤功	同 富里			印藤成田
	山内誠	同 成田			

私立成田中學校一覽

日本電報株式會社(早大)	竹尾剛	印藤八生	小學校教師	篠田欣吾	印藤豊住
匯理中學校教諭(東京物理學校)	内藤達夫	茨城稻敷	實業	石橋健二	同 豊住
小學校教師	渡邊陸三	印藤成田	實業	土肥卓	同 公津
實業	池田義夫	同 富里	實業(早大)	方波見仲男	茨城鹿島
實業	大島文吉	同 八生	實業	秋葉三省	市原市東
ジャパンメカカロイド社(拓殖大)	堀越誠	山武二川	實業	櫻井斌敏	印藤公津
商科醫(東京商科)	池田伊重郎	同 千代田	實業	櫻井一郎	香取小門
小學校教師	石橋保	印藤富里	實業	宇井龍雄	印藤成田
小學校教師	小川斌	同 公津	第十七回卒業生(卅五名)(大正七年三月)		
	加藤久次郎	香取大須賀	(尖倉改)	木内貫一	印藤久住
	大木康	印藤成田	獨逸留學(慶應)	野平忠	同 豊住
	湯淺彦治	同 成田	櫻組製靴會社	西谷謙堂	同 豊住
	檜垣達也	同 久住	(慶應)	吉田善四郎	東京神田
	本多義	同 遠山	熊本縣立大津中學校教諭(東京高師)(山内改)	飯塚忠	香取多古
	土井平重	同 公津	遷信省通信技手	中野圭曦	東京多摩
	青柳忍	同 公津	醫師(千葉醫專)	高屋卯之助	印藤成田
	長谷川祐元	安房西條	實業	鈴木豊	同 成田
	森田元二	印藤公津	奈良縣政務中學校教諭	清水東四郎	同 成田
	根本東海男	同 公津	東神倉庫株式會社々員(慶應)	鈴木德治	同 成田
				日色四郎	香取滑河
				神戸隆太郎	印藤成田

私立成田中學校一覽

株式會社巖松堂書店 實業(早大)	後藤浩次 印磨安食	實業	宮原三郎 印磨久住
名古屋鐵道局運輸課 (早大)	(豐田改) 小野寺謹悟 同 成田	實業	(藤崎改) 神崎忍 同 遠山
小學校教師	山田好助 同 富里	實業	鈴木茂喜 同 久住
成田中學校教諭(日大)	(越川改) 松岡明 同 遠山	第十八回卒業生(卅七名)(大正八年三月)	
(早大)	寺內保 同 成田	東京三菱銀行(慶應)	湯淺三吾 印磨八生
實業	高橋巖 同 成田	大阪每日記者東亞部(東亞同文院)	湯淺武之助 同 八生
實業	田中藤治 香取小野門	實業	千脇辰 千葉更科
實業	小川總良 山武千代田	川崎銀行丸ノ内支店	篠原岩次郎 印磨成田
實業	古川廣 同 片貝	野田醬油株式會社(慶應)	石川順 同 成田
耕地整理技師	土井規矩藏 印磨公津	洋行中(明治大)	糸川平 同 久住
實業	長谷川藤市 同 成田	大阪日本生命保險株式會社(澤田改)	石橋正也 同 成田
實業	實川和男 山武千代田	小學校教師	葛生幸吉 同 安食
實業	(藤崎改) 吉岡英亮 印磨遠山	小學校教諭	藤崎信助 同 富里
南滿洲鐵道會社	安藤俊行 同 久住	(國學院大)	根本新一 茨城稻敷
第一生命保險會社(東京農大)	谷口一郎 印磨八生		林正雄 印磨成田
實業	日暮輝雄 同 豊住		平井武 同 中郷
實業	伊藤文亮 同 遠山		長坂了介 山武千代田
			(廣瀬改) 鈴木光亮 印磨豊住
			香取舜治 山武三川
			石橋孝三郎 印磨成田

(桐生高等工)	丸善衛 印磨公津	第十九回卒業生(卅四名)(大正九年三月)	福田郁次郎 茨城金江
實業	福田直四郎 東京本郷	京成電氣會社技師(東京高工)	深川陽 印磨旭
實業	(藤崎改) 飯泉隆二郎 印磨遠山	新潟醫科大學助手(新潟醫專)	岡本富郎 濱崎吉田町
成田高等女學校教諭(東京美學)(日暮改)	山内貞 同 中郷	靜岡西遠高等女學校教諭(帝大)(若命改)	岩立源一郎 香取滑川
實業	(迪田改) 山田春之助 同 富里	東京日本橋郵便局	高橋勇雄 印磨公津
千葉女子師範學校教諭(國學院)	伊藤公平 同 八生	實業	加藤武夫 同 成田
小學校教師	椎名操 香取本大須賀	海軍機關大尉出雲乘組	山崎一雄 同 永治
東葛我孫子鐵道省技手	小川太郎 印磨八生	醫師(新潟醫專)	鈴木藤吉 同 安食
實業	大三川弘之 香取多古	醫師(千葉醫專)	木内芳雄 同 成田
鐵道省東部管理局	瀧澤德治 印磨成田	實業	大野龜之助 同 酒々井
接骨醫	小倉仁 同 成田	神職(國學院)	宮崎廣則 同 成田
小學校教師	猪瀬堯澄 同 布織	(早大)	藤崎章 同 遠山
實業	武藤行敬 同 永治	實業	伊藤豐 同 久住
實業	山崎信男 香取高岡	實業	中臺俊一 同 公津
實業	檜垣省吾 印磨久住	齒科醫(東京齒科)	竹村秀壽 同 成田
實業	四宮操 同 富里	實業	下村好一 同 八生
實業	古川巖 同 中郷	實業	石井權之尉 同 遠山
實業	神崎俊之助 同 遠山	實業	石井庄平 同 酒々井
實業	相原理三郎 同 公津	齒科醫(日本醫科)	萩原英一 同 成田
實業	石橋進 同 富里	實業	小倉與市 同 遠山
實業	伊藤源右 同 中郷		

私立成田中學校一覽



私立成田中學校一覽

神奈川縣小田原高等女學校教諭(早大) 千葉 實乘 茨城五個  
 實業(早大) 林 稜 二 印旛八生  
 實業 平山 榮昌 香取多古  
 實業 石井 美雄 印旛富里  
 (明大) 山崎 守 同 木下  
 × 阿部 規矩治 同 豊住  
 小學校教師 竹村 利雄 同 富里  
 安田銀行芝支店 (篠崎改) 稻村 忠男 同 遠山  
 (神奈川縣藤澤時宗學林)(大貫平吉改) 吾江 淨光 同 遠山  
 實業 磯山 儀一 印旛公津  
 實業 寺内 五市 同 中郷  
 × 吉岡 彰 同 中郷  
 實業 藤崎 慶司 同 成田  
 實業 飯田 榮亮 香取大須賀  
 實業 齒科醫(日本齒科)  
 第二十回卒業生(卅六名)(大正十年三月)  
 神戸南歐貿易株式會社(東京高工)(荻原改) 泉野 良作 印旛豊住  
 東北帝國大學農學部在學 成田圖書館司書 (青柳政) 高田 定吉 同 成田  
 (文部省圖書館講習所) 安達 一郎 同 遠山  
 (東京商科大) 齋藤 光治 同 成田  
 慶應 日暮 勝重 同 遠山  
 (松岡改) 小學校教師 大多喜高等女學校教諭(早大) 鈴木 徐人 印旛大森  
 海軍中尉 高野 照典 同 成田  
 實業 菅澤 英 香取高岡  
 (大宮改) 松田 照應 印旛成田  
 內藤 榮 茨城金江津  
 和田 英 印旛酒々井  
 大貫 貞吉 同 安食  
 泉瑞 敏正 夷隅古澤  
 小倉 良太郎 印旛八生  
 椎名 永良 同 安食  
 小海川 昌則 同 久在  
 手島 英 山武千代苗  
 秋山 榮吉 印旛八生  
 齋藤 貞雄 同 公津  
 萩原 道三 海上銚子  
 後藤 慎平 印旛安食  
 山崎 信夫 同 遠山  
 磯山 宣 同 公津  
 福田 登 同 酒々井  
 藤崎 巖 同 遠山

實業 寺内 彌茂 印旛中郷  
 實業 宇井 聖 同 成田  
 實業(慶應) 山本 秀雄 同 成田  
 (石川改) 丸 善兵 同 公津  
 實業 山倉 文雄 同 久住  
 實業 關川 雅司 同 成田  
 實業 小倉 桂 同 成田  
 小學校教師 小川 勳 同 富里  
 永山 敬榮 同 富里  
 第二十一回卒業生(卅八名)(大正十一年三月)  
 東京帝國大學醫學部大學院在學 大島 仁 印旛成田  
 北海道三重閣北海製糖株式會社 根本 五郎 同 富里  
 (水産講習所) 竹村 猛壽 同 成田  
 (醫師慈惠會醫科大) 石橋 廣吉 香取滑川  
 實業 羽方 章 印旛成田  
 秋田縣立角館中學校教諭(帝大)(榎田改) 平山 諦 同 成田  
 青森縣弘前中學校教諭(帝大) 關谷 重雄 同 公津  
 (早大) 不動銀行東京乃木坂支店(大阪高商) 淺井 義一 同 成田  
 銚子合資會社勝味屋本店 島村 治助 同 成田  
 小學校教師 太田 家倚 同 公津  
 小學校教師 飯高 治夫 山武二川  
 (明治大) 實業 岩澤 丈夫 印旛遠山  
 藤崎 昇 同 和田  
 野平 統一 同 中郷  
 岩澤 多門 同 遠山  
 小林 博 同 成田  
 高橋 清 同 成田  
 (相川改) 坂田 巳二郎 同 富里  
 (安正改) 關川 博道 同 成田  
 木内 正夫 同 成田  
 渡邊 三郎 同 成田  
 桑原 啓次郎 同 安食  
 伊藤 巖 同 富里  
 芝山 克己 同 八生  
 本多 己代治 同 遠山  
 諸岡 一次 同 成田  
 加藤 曉治 同 成田  
 藤崎 勘司 同 遠山  
 石木 晃 廣島竹二  
 丸山 正臣 長野明盛  
 萩原喜知太郎 印旛豊住  
 湯淺 八郎 同 八生

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

實業  
 (朝鮮水原高等農林學校)  
 實業  
 實業  
 小學校教師  
 實業  
 第二十二回卒業生(卅八名)(大正十二年三月)  
 東京帝國大學醫科  
 (東京農大)  
 小學校教師  
 成田中學校教諭(國學院)  
 (慶應)  
 東京帝國大學  
 (帝大)  
 實業(慶應)  
 東京市役所  
 南洋興業株式會社(大倉高等商業)  
 實業  
 (小川改)  
 香取忠裕 山武千代田

山田 忍 印藤公津  
 加藤北二郎 同 八生  
 伊能春夫 山武二川  
 吉岡 順 印藤中郷  
 吉田 義法 安房田原  
 竹田 正吉 印藤成田  
 熊切修二 夷限古澤  
 檜垣兼三 印藤久住  
 戸村 照學 八日市場  
 齋藤 操 印藤公津  
 三門 健一 同 本下  
 小泉 國衛 同 成田  
 三橋 監物 同 成田  
 大澤 麒太郎 同 八生  
 大塚 謹三 同 成田  
 石井 傲男 山武千代田  
 山口 忠 印藤八生  
 大須賀 誠 同 安食  
 小學校教師  
 實業  
 公吏(東京外語)  
 實業  
 大阪大森組本店設計部建築技師(横濱高工)  
 實業  
 小學校教師  
 安田銀行  
 實業  
 (中央大)  
 小學校教師  
 (東洋大)(智山大)  
 小學校教師  
 實業  
 (青柳改)  
 島 照康 東京本所  
 大木 信雄 印藤公津  
 篠原 幸次郎 同 成田  
 平山 祝 香取吉田  
 飯塚 泰亮 印藤成田  
 平山 幸一 香取多古  
 片岡 勇 印藤遠山  
 桑名 善雄 茨城那珂  
 小川 重雄 印藤中郷  
 石川 明 同 遠山

實業  
 遞信省官吏  
 實業  
 實業  
 第二十三回卒業生(卅三名)(大正十三年三月)  
 三井銀行名古屋支店(明大)  
 (帝大)  
 北海道大學農學部理學部助手(帝大)  
 日露漁業株式會社(日露協會學校)  
 平壤電氣會社(帝大)  
 日本郵船(神戸商船)  
 日本大學豫科  
 小學校教師  
 (物理學校)  
 (日本大)  
 東京鐵道局千葉運輸事務所  
 新勝寺事務員(東京主計學校)  
 竹尾 隆 印藤吉井  
 石渡 四郎 山武南郷  
 石山 堯 山武二川  
 鈴木 平 印藤公津  
 藤崎 浦治 印藤遠山  
 水野 岩雄 同 成田  
 牧野 佐次郎 同 成田  
 遠藤 與惣次 同 公津  
 加藤 韓三 同 八生  
 諏訪原 四郎 同 八生  
 渡邊 進一 同 成田  
 山内 康夫 同 成田  
 土屋 清 山武二川  
 篠田 光治 茨城金井  
 神崎 謙三 印藤遠山  
 岩内 貢 同 遠山  
 加藤 岡武 同 成田  
 谷上 勝太郎 同 成田  
 三橋 新 同 成田  
 行方 喜一 山武大總

實業  
 實業  
 (日本大)  
 (中央大)  
 東京鐵道局千葉運輸事務所  
 川崎銀行佐原支店  
 南洋瓜哇島マラン市佐伯商會  
 富山縣高岡高等商業學校在學  
 實業  
 大阪合同紡績株式會社天滿支店(米澤高工)  
 小學校教師  
 實業  
 實業(明治大)  
 (日大)  
 (四年終了者)  
 第二十四回卒業生(四拾五名)  
 實業  
 小學校教師  
 木内 基治 香取滑河  
 林 貞一 山武日向  
 高橋 忠司 印藤公津  
 佐藤 寛 香取大須賀  
 武田 有信 印藤八生  
 鳴田 滿 同 富里  
 藤崎 正義 同 遠山  
 吉川 克己 同 中郷  
 手島 寛 山武千代田  
 日暮 秀明 印藤本姓  
 小川 貞助 同 豊住  
 伊藤 清 同 富里  
 青柳 晴美 香取滑河  
 佐伯 忠夫 長生土睦  
 大三川 雄啓 香取多古  
 湯淺 義雄 印藤公津  
 黒川 富夫 同 成田  
 安達 次郎  
 (大正十四年三月)  
 (いんろは順)  
 生駒 靜雄 山武二川  
 伊藤 馨 印藤久住

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

帝國在鄉軍人會(日本大) 伊藤 汎 山武松尾  
 實業(早大) 石川仁二郎 印旛成田  
 (橫濱高工) 石川 豐 同 遠山  
 實業 (東京齒科醫專) 石田 亨 香取高岡  
 (早大) 石井 雅衛 印旛富里  
 秋田縣女子師範學校教諭(東京高師) 圓城寺次郎 同 公津  
 川崎第百銀行千葉支店 林田 武雄 同 富里  
 小學校教師 林 清風 同 遠山  
 實業 (法大) 大友 廣高 仙 臺  
 小學校教師 岡野 秋夫 印旛安食  
 千葉醫大在學 大木 丈夫 匝瑳須賀  
 實業 渡邊市左衛門 印旛成田  
 小學校教師 金子 忠治 同 中郷  
 實業 神崎 勉太郎 茨城金江津  
 小學校教師 海保 芳郎 印旛久住  
 實業 海保 香苗 茨城金江津  
 東京中村高等女學校教諭(東洋大) 神崎 武夫 印旛遠山  
 實業 勝又 勝伊 香取多古  
 日本大學齒科在學 海瀨 健爾 安房稻都  
 明治大學在學 高川 俊夫 印旛成田  
 高安愛之助 同 成田

×

日本商科醫學專門學校在學 伊藤 汎 山武松尾  
 朝鮮小學校教師 石川仁二郎 印旛成田  
 實業 石田 亨 香取高岡  
 實業 石井 雅衛 印旛富里  
 實業 圓城寺次郎 同 公津  
 慶應義塾在學 林田 武雄 同 富里  
 明治大學商科在學 林 清風 同 遠山  
 帝國電燈會社 大友 廣高 仙 臺  
 不動銀行東京兩國支店(東京商大) 岡野 秋夫 印旛安食  
 (明治大) 大木 丈夫 匝瑳須賀  
 實業 渡邊市左衛門 印旛成田  
 小學校教師 金子 忠治 同 中郷  
 實業 神崎 勉太郎 茨城金江津  
 帝國電燈會社 海保 芳郎 印旛久住  
 東京瓦斯會社(早大) 海保 香苗 茨城金江津  
 物理學校在學 神崎 武夫 印旛遠山  
 大塚驛(早大) 勝又 勝伊 香取多古  
 千華醫大在學 海瀨 健爾 安房稻都

×

田中純一郎 茨城龍崎  
 中村賢爾 印旛白井  
 內海門磨 同 八生  
 山本 愛 同 安食  
 山田 彌 同 安食  
 武士田 讓 同 成田  
 神戶 剛 同 成田  
 寺內 一郎 同 成田  
 寺內 秀雄 同 成田  
 淺井 銳次 同 成田  
 淺井 隆 同 成田  
 相田 重義 埼玉粕壁  
 秋山 龍虎一 印旛富里  
 秋山 寬 同 遠山  
 櫻井 泰 同 安食  
 木內 浩 同 成田  
 湯淺 栽樹 同 安食  
 宮內 喜夫 同 八生  
 清水 文治 山梨安都  
 新橋 重三 印旛豊住  
 關川 安世 同 成田

實業 清宮 博 印旛八生  
 第二十五回卒業生(四十四名)(大正十五年三月)  
 公吏 石橋 浩 印旛安食  
 實業 丸 芳洋 同 富里  
 (池田改) 磯部 貢 同 久住  
 實業 石橋 與七 同 成田  
 兵 役(東洋大) 石井 昌治 山武千代田  
 實業 萩原 章 同 大里  
 實業 大竹 清 本大須賀  
 日本商科醫專在學 大木 晋市郎 印旛中郷  
 中央大學法科在學 大木 得三 同 八生  
 物理學校在學 大久保 貞治 同 安食  
 實業 小川 茂 同 遠山  
 (長野縣松本片倉製絲紡績株式會社) 小川 忠雄 同 八生  
 (上田蠶絲專門) 小海川 重雄 同 久住  
 小學一教師 小川 進 同 豊住  
 明治大學在學 大須賀 信乃 同 六合  
 實業(中央大) 海保 三千三 同 久住  
 東京鐵道局千葉運輸事務所 × 川島 千秋 本大須賀  
 小學校教師 金澤 俊亮 茨城金江津  
 實業 加藤 正則 印旛中郷

僧侶

小學校教師 田村 義教 安房天津  
 小學校教師 塚本 克己 香取滑川  
 小學校教師 鶴岡 大中 石川輪島  
 小學校教師 根本 菊次 印旛豊住  
 小學校教師 中村 一 山武睦岡  
 實業 村山 信次 印旛公津  
 實業 內田 榮 山武千代田  
 實業 黑田 正信 香取多古  
 醫師 久保田 潔 印旛成田  
 新勝寺事務員 山崎 博 香取高岡  
 東京日々新聞社 山田 一雄 印旛八生  
 東京帝大在學 丸 三郎 同 公津  
 實業 松本 重雄 君津久留屋  
 實業 福田 廣 印旛安食  
 小學校教師 藤崎 廣夫 同 遠山  
 小學校教師 藤崎 傳 同 遠山  
 川崎第百銀行佐原支店 日大法學部在學 藤崎 誠一 同 豊住  
 實業 佐久間 誠一 同 豊住  
 小學校教師 佐藤 智雄 香取大須賀  
 神戶女學院教諭(東京高師臨教) 齋藤 仲次 印旛八生  
 兵 役 吉祥 照芳 東京四谷  
 小學校教師 密島 和一 同 神田

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

四〇

早大在學

僧 侶 (智山大學)

實 業

僧 侶 (智山大學)

東京帝國大學在學 (四年終了者)

實 業

第二十六回卒業生 (三十三名) (昭和二年三月)

小學校教師

(攻玉社高等業)

實 業

神戶商船學校在學

實 業

實 業

(米澤高工)

實 業

鐵道從業員

成田役場吏員

實 業

實 業

實 業

小學校教師

實 業

實 業

實 業

實 業

實 業

實 業

實 業

成田中學校助手 (東京高工)

日本商科醫學專門學校在學

東京安田銀行

(東洋大)

第一高等學校在學

第二拾七回卒業生 (參拾九名) (昭和三年三月)

實 業

實 業

實 業

林 俊吾 同 八生

岩 館 英亮 同 遠山

磯 山 茂 同 公津

飯田清太郎 香取滑川

石 川 熏 同 遠山

石 井 保 同 遠山

清 宮 清介 同 八生

泉 水 淳 同 八生

平 野 新藏 香取神崎

實 川 賢雄 同 成田

南 井 重 同 成田

楯 正 同 中郷

私立成田中學校一覽

四一

實 業

四日市築港事務所 (山梨高工)

實 業

實 業 (明治大)

實 業

小學校教師

小學校教師

小學校教師

(法政大)

東北帝國大學在學

法政大學在學

小學校教師

實 業

實 業

京都智山大學在學

京都智山大學在學

慶應義塾文科在學

日本商科醫學專門學校在學

兵 役

實 業

青山學院在學

實 業

實 業

實 業

實 業

實 業

(橫濱高工)

(東京高等蠶絲)

成田新更會書記

實 業

東京外國語學校在學

小學校教師

實 業

日本大學醫科專門部在學

小學校教師

接骨醫

實 業

小學校教師

小學校教師

小川 德英 山武手代田

大見川 正 同 中郷

小川 政己 同 同

渡 邊 操 同 成田

渡 邊 昇司 香取滑河

吉岡 一二 同 中郷

吉岡 四郎 同 久住

橫田 俊男 同 中郷

多 田 實 同 公津

高 橋 忠 同 成田

高 橋 健吉 同 成田

高 橋 重雄 同 成田

武 田 利良 同 成田

武 田 豐 同 八生

瀧 澤 利一 同 成田

村 田 榮量 安房豊房

上 野 賴榮 福島野

鷗 澤 廣吉 同 安食

葛 生 常幸 同 安食

郡 司 辰二 香取日吉

山 室 勝身 山武手代田

堀 井 克己 香取小嶋門

堀 川 和 同 滑川

富 澤 章治 同 滑川

戶 村 正作 同 滑川

小 川 貢 同 公津

小 川 英一 同 中郷

小 川 晃 同 中郷

小 倉 信輔 同 成田

大 須賀 仁 同 安食

大 竹 久直 香取大須賀

大 野 政治 同 成田

大 竹 惠司 同 富里

川 村 三郎 同 木下

香 取 不二夫 同 久住

根 本 甚三 同 豊住

中 村 三樹 同 白井

武 藤 文哉 同 永治

黑 川 正雄 同 成田

矢 萩 俊一郎 同 安食

山 田 勳 同 八生

福 田 一太郎 同 八生

私立成田中學校一覽

小學校教師	藤崎 光治	印旛遠山	鐵道從業員	細矢 三郎	印旛成田
小學校教師	小窪 仁	同 本塾	實業	戶塚 四一郎	東京豐町
小學校教師	寺內 賢治	同 成田	金子貿易合名會社	戶村 一作	印旛遠山
日本大學在學	秋葉 武夫	同 富里	實業	土井 平治	同 公津
實業	青柳 亮	同 公津	成田中學校助手	小川 利明	同 中郷
實業	齊藤 吉三	同 成田	日大豫科在學	小川 貞雄	同 成田
關西學院在學	佐藤 芳雄	同 成田	實業	小川 茂	同 成田
法政大學在學	木川 忠	山武二川	(日本大)	小倉 格司	同 成田
大日本弓道會	日暮 眞	印旛本塾	兵 役 (鐵道省千葉運輸事務所)	小澤 文治郎	同 成田
第二十八回卒業生 (六拾二名) (昭和四年三月)	平間 輝男	宮城槻本	實業	若海 登	同 遠山
南洋渡航	砂山 謙一	石川植川	兵 役	川崎 茂	同 公津
中央大學在學	鈴木 準一	栃木縣南大向	實業	金子 孝道	同 中郷
日本大學齒科在學	伊藤 武雄	印旛遠山	實業	吉田 松年	同 成田
東京商科醫專在學	伊藤 久四郎	同 安食	兵 役	谷 貞悟	同 公津
成田新更會	池田 大輔	山武千代前	實業	高橋 貞	同 公津
官吏	石橋 白	印旛公津	實業	高橋 亥年生	同 成田
	飯塚 金次	香取多古	順天堂(佐倉)	瀧澤 昇	同 成田
	羽入 一男	印旛成田	電氣學校內(高等工業學校在學)	高橋 仁	同 公津
	萩本 和	茨城金江	小學校教師	高橋 浩	千葉更科
	細野 彰	印旛富里		根本 誠	印旛成田
				鶴澤 幸雄	山武千代前

東京エレベーター會社	大野 孝	印旛安食	官吏	宮本 庫二	印旛富里
東京高等師範學校在學	大澤 新吾	同 八生	東京府農事試驗場(盛岡高等農林)	篠田 惣壽	同 豊住
實業	大木 春基	同 中郷	早大高等學院在學	平野 仲次	同 八生
法政大學豫科在學	大木 一夫	同 中郷	弘前高等學校在學	諸岡 新一	同 成田
實業	大木 勤吾	同 成田	官吏	諸岡 新一	同 成田
前高等學校在學	大島 卓	同 成田	三越株式會社	關川 順道	同 成田
成田登記所	山田 保	同 成田	實業	諏訪 原民雄	同 八生
農業大學在學	山田 正美	同 八生	東京市役所	菅 孝一	同 遠山
	山崎 要	同 公津	第二十九回卒業生 (四拾八名) (昭和五年三月)	菅 嘉夫	同 成田
	丸 盛一	同 公津	小學校教師	鈴木 覺	同 遠山
	松田 晴源	同 成田		鈴木 順吉	同 成田
	藤崎 末夫	同 遠山		鈴木 照汎	同 公津
	古郷 清	匝瑳南篠		飯田 四郎三郎	香取滑河
	寺內 良則	印旛成田		伊藤 正治	印旛中郷
	笹川 克己	香取千代田		岩館 正美	同 中郷
東京藥專在學	木村 秀明	香取小門		岩澤 美一郎	同 中郷
實業	木內 憲一	印旛成田		稻垣 昌則	同 成田
實業	木內 喜久雄	同 成田		石原 登	印旛公津
實業	木內 季男	香取滑河		石橋 芳郎	稻敷金江
	宮內 德次郎	茨城鹿島		石橋 武四郎	印旛成田

私立成田中學校一覽

私立成田中學校一覽

國士館專門學校在學  
朝鮮總督府  
高千穂高等商業學校在學  
官吏  
小學校教師  
日大在學  
實業  
東京商大豫科在學

明大在學  
東京不動銀行  
日大在學

小學校教師  
日大在學

實業  
實業  
東京市淺草區役所  
日大商科在學  
東京高等師在學  
大阪市役所  
日大在學  
實業  
海軍志願兵  
早大高等學院在學  
千葉師範二部在學  
實業  
實業

池田五郎 印旛富里  
石井秀雄 同布織  
石川英一 同遠山  
石原文雄 同富里  
石原文斌 同富里  
岩井正夫 同大森  
萩原貢 同成田  
土井茂材 同六合  
土肥輝雄 同公津  
岡野小市 同安食  
小川信夫 同八生  
小川源衛 同公津  
小川三郎 同公津  
小川源之助 同公津  
川崎英利 同公津  
神崎純一 同成田  
加瀬充雄 同成田  
多田政司 同成田  
瀧澤清 同成田  
武田敏夫 同成田  
竹尾潮 同八生

國學院大學在學  
千葉師範二部在學  
明治大學在學  
日大專門部工科在學  
成田中學校  
日大商科在學

私立成田中學校一覽

竹村安央 同富里  
成毛敏夫 同香取高岡  
村島久四 同印旛公津  
鶴澤虎雄 同中郷  
山口一 同香取多古  
山田文太郎 同印旛成田  
山田章 同成田  
丸出衛 同香取本大須賀  
丸寬二 同印旛公津  
松田保 同稻敷長竿  
藤崎忠一 同印旛安食  
藤倉肇 同遠山  
藤倉靜男 同成田  
小林清 同布織  
相田秀夫 同埼玉粕壁  
青野七衛 同稻敷金江津  
秋葉直次 同香取中村  
秋山光雄 同印旛八生  
荒木武雄 同安食  
三枝清亮 同成田  
齋藤秋次郎 同成田

四五

四四

堀井信義 香取小野門  
豐田利郎 同印旛成田  
小野幸 同成田  
加藤進 同豐住  
加勢和 同宇和島  
勝又康 同印旛成田  
高橋孝 同公津  
田中昇 同成田  
根本正二 同豐住  
根本寬 同久住  
成瀬和 同成田  
中路敬一 同成田  
中山芳久 同千葉寒川  
武藤時哉 同印旛永治  
大木忠七 同中郷  
大木市正 同中郷  
大木七繼 同中郷  
大島良一 同八生  
山田勇 同八生  
山田武夫 同成田  
山田正元 同八生

千葉醫大附屬藥專在學  
日大在學  
東京區裁判所  
日大在學  
實業  
實業  
兵役  
大正大學在學

日大在學

第三拾回卒業生(五拾五名)(昭和六年三月)  
千葉實業組合學校在學

山岸林三郎 同印旛木下  
丸建 同公津  
藤崎健造 同遠山  
福田茂 同稻敷金江津  
手島正爾 同山武下代田  
出山誠一 同印旛豐住  
相川長 同香取高岡  
秋葉忠 同香取多古  
秋山健夫 同印旛遠山  
齋藤一 同東京下谷  
佐藤寅吉 同印旛成田  
佐瀨卓 同八生  
三橋廣 同富里  
光本照元 同兼香川崎  
椎名勤 同稻敷富田  
椎野齋 同印旛富里  
篠原重明 同豐住  
諸岡武 同成田  
森田敏雄 同八生  
飯田實 同香取滑河

私立成田中學校一覽

實業

大正大學在學

廣島縣三原教員養生所  
千葉師範二部在學

千葉師範二部在學

第三十一次卒業生(五拾五名)  
(昭和七年三月)

佐藤棟太郎	香取多古
澤田良修	印旛久住
久古一	同 豊住
三橋信	同 成田
三好義政	同 公津
鹽田重雄	同 布織
椎名茂	小御門
雄島照功	東京本所
日暮充雄	印旛本塾
杉田清	八日市場
鈴木映亮	印旛中郷
清宮信之助	同 八生
伊藤彰	印旛富里
飯田作藏	同 安食
石井芳雄	同 公津
石井富明	山武千代田
石井茂雄	印旛遠山
岩澤三男	山武千代田
岩館衛	印旛遠山
岩館正二	同 遠山

早大高等學院在學

大正大學在學

四六

内田啓次郎	同 富里
小川茂	山武千代田
小川仁	印旛富里
小川正雄	山武二川
小倉八郎	印旛成田
大久保喜八郎	同 布織
大木勝	同 中郷
川崎三彌	同 公津
金子仁	同 中郷
加藤昌美	同 中郷
小泉伊之助	同 久住
小出茂雄	同 根郷
駒林清一	印旛成田
後淺敬止	同 八生
櫻井芳雄	香取小倉
鹽田林太郎	印旛布織
清水文康	山梨巨摩
鈴木福雄	印旛中郷
菅澤忠男	同 遠山
田中照完	同 公津
田谷秀雄	同 成田

千葉産業組合學校在學  
實業

千葉師範二部在學

高木善明	同 公津
武田建	同 八生
武田武雄	同 八生
寺内三郎	同 中郷
土井義邦	同 成田
野々宮茂毅	同 成田
長谷川秀吉	同 成田
長谷川正道	同 久住
長谷川能通	同 成田
長谷川勝司	同 成田
林田實	同 富里
林田光夫	同 成田
萩原儀助	山武千代田

法政大學在學

私立成田中學校一覽

四七

萩原孝	香取東篠
原正計	印旛富里
日暮靜	同 成田
藤崎昌良	同 富里
藤田知義	京都笠取
松田正夫	香取高岡
三池豊	印旛成田
三橋清	同 富里
諸岡信吾	同 成田
矢村文雄	同 公津
山崎昇平	同 公津
湯淺重雄	同 八生
蕨愛	同 公津

卒業生及生徒別郡表  
昭和七年五月現在

卒業生	計	一學年		二學年		三學年		四學年		五學年		學年別 郡別	
		B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組		
		印旛	香取	山武	千葉	市原	東葛飾	匝瑳	海上	長生	夷隈		君津
七六九	二五七	三一	二七	三〇	三一	二五	二八	二一	二一	一九	二四	印旛	二四
八一	一三	一	一	一		一	二	二	二	一	二	香取	二
六三	一七	二	三	一		一		五		三	二	山武	二
五	二		一		一							千葉	
四												市原	
二	一									一		東葛飾	
五												匝瑳	
一												海上	
五												長生	
三												夷隈	
三	一							一				君津	
七	一					一						安房	
八五	一六	一	三	二	一	一	一		四	二	一	他府縣	一
一〇三三	三〇八	三五	三五	三四	三三	二九	三	二八	二八	二五	二九	計	二九

經費

昭和六年度決算	年 度	停給	雜給	需用費	雜費	賞與	營繕費	手當金	豫備費	合計
三、四八二、九七〇			二、一六〇、〇一〇	二、四三三、八六〇	三、五九五、四六〇	二、七七七、九〇〇	一、七九九、八八〇	一		一、三七、二四〇、〇〇〇

成田高等女學校一覽

學 歷	一
教育方針及施設概要	一
沿革 略	一
昭和六年度重要記事	三
學 則	三
職員 表	六
成田山女學校卒業生人名	七
卒業生人名現況表	八
現在生徒及卒業生郡別表	二六
生徒町村別表	二六
經費統計概要	二六



和 和 七 年 度

# 學 曆

第一學期 自四月一日至八月三十一日  
 第二學期 自九月一日至十二月三十一日  
 第三學期 自一月一日至三月三十一日  
 每 月 第二、第四、土曜日大掃除

## 四 月

五 日 始業式、入學式、新入生父兄會  
 六 日 午前八時十分始業  
 中 旬 教授豫定記入  
 二十九日 天長節祝賀式  
 下 旬 身體檢查

## 五 月

上 旬 遠足四、三、二、一學年  
 二十七日 海軍記念日

## 六 月

上 旬 口腔檢查

## 七 月

十八日 第一學期授業終  
 二十日 成績發表、終業式

## 九 月

一 日 始業式  
 上 旬 授業豫定記入  
 下 旬 三、四學年志望調査

## 十 月

中 旬 校友會學藝部會  
 下 旬 遠足四、三、二、一學年

## 十一 月

三 日 明治節祝賀式  
 四 日 明治節體育デ-1  
 上 旬 縣下中等學校女子競技大會

## 十二 月

二十一日 第二學期授業終  
 二十四日 成績發表終業式  
 同 校友會雜誌原稿募集  
 二十五日 大正天皇祭

## 一 月

一 日 新年祝賀式  
 九 日 始業式  
 中 旬 教授豫定記入  
 中 旬 來學年度教科書選定

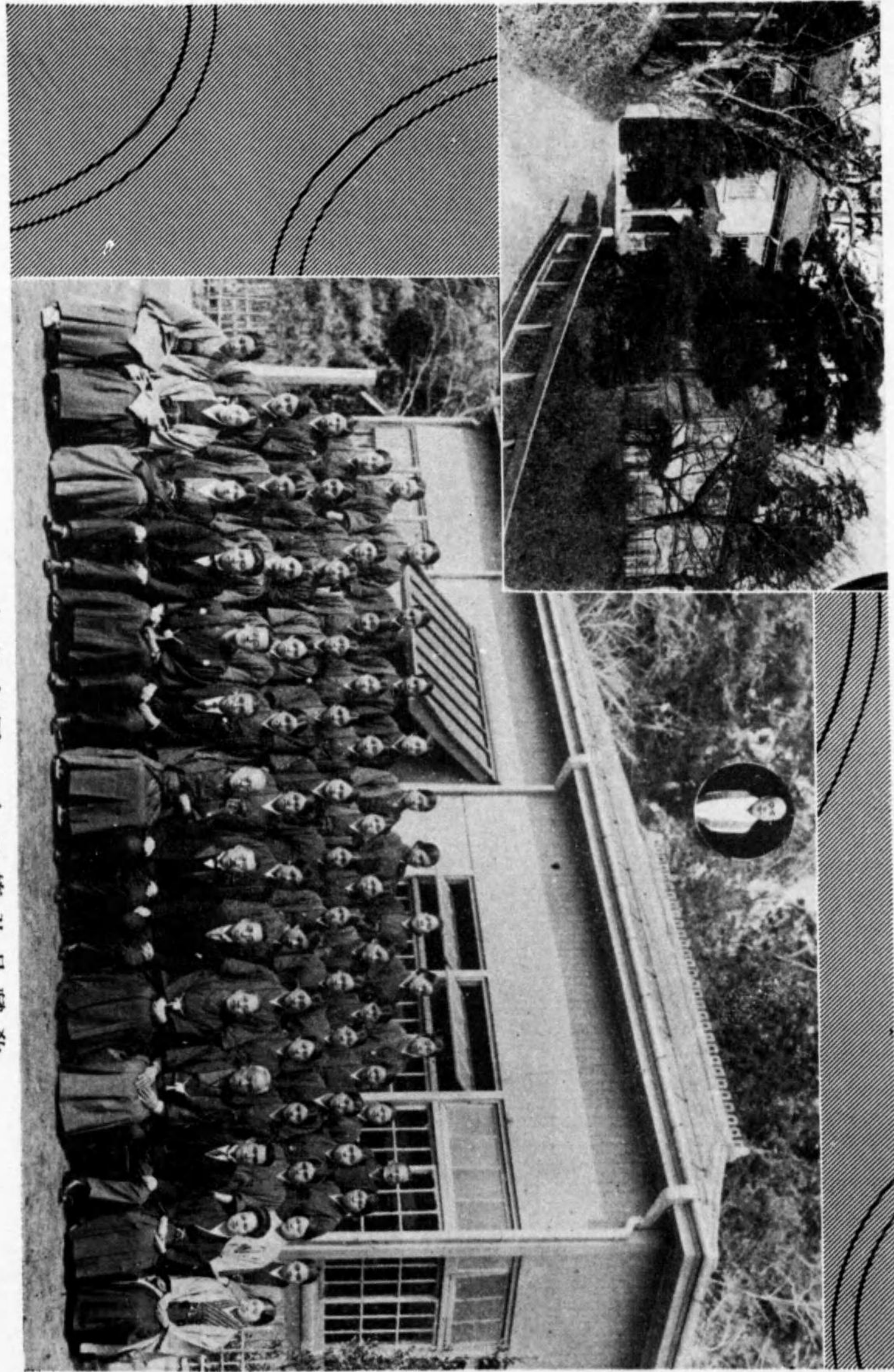
## 二 月

十一日 紀元節祝賀式  
 十三日 創立記念祝賀式  
 同 日 校友會學藝部會

## 三 月

六 日 地久節祝賀式  
 十 日 陸軍記念日  
 十二日 第三學期授業終  
 十五日 成績發表、終業式  
 十八日 證書授與式  
 未 定 入學考查及成績發表

成田高等女學校



生業卒回一十二第及員職教



第十三回卒業生寄贈

成田高等女学校々歌

笹川臨風作歌

山田耕作作曲

傳記にのりかに  
27 朝日A.C.力強(M.M.)-76.  
Konçak Yaradı

**Soprano**  
1 あ かつきのにはあは うれし と はのよののちを  
2 や りのつたはつたは うれし と 枝五百枝のつた

**Alto**  
3 か らのつたはつたは うれし と はのよののちを

**Piano-Forte**  
*mf*

あはれに  
うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

あはれに  
うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

あはれに  
うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

あはれに  
うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

うれし  
はのよののちを  
枝五百枝のつた

*sempre  
maestrosamente*

## 成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌  
山田耕作作曲

曉の榮ある光

永の夜の闇を破る

眼より覺めし乙女ら

なれの世ぞ今日の前に

美しき望は満てり

學びの窓は榮しき園生

幸ある前途いざことほがん

成田なる岡の邊に咲く

千枝五百枝萬枝の梅

雪霜を凌ぎ堪へつゝ

さきがけし色匂やかに

清き香は四方に漂ふ

學びの窓は……

幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに

御堂より森へと響く

怠るな勤めはげめど

我等をば教へ導く

澄み渡る心耳に冴へて

學びの窓は……

幸ある前途……

## 私立成田高等女學校一覽

### ◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すも雖も確實に高等女學校令に準據し、絶対に宗教的布教宣傳の機關に供せず。専ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し、學業を勵み、淑徳を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山事業の精神に鑑み質實勤儉を旨として心身の鍛錬を怠らず、以て他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を軽減するのみならず、學費支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、獎學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として手藝挿花、茶の湯、按摩を課し、體操科には薙刀を加へ形式を通じて武士道の精神を體得せしめ、音樂科にもオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、創立記念日唱歌及校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに努む。

私立成田高等女學校一覽

### ◎沿革略

(昭和七年四月現在)

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫主石川大僧正の後を承け現貫首名譽校長荒木僧正慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に専務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は大略左の如し

- 一 明治四十四年三月廿一日本校校則を制定す
- 一同 四月一日成田中學校教諭中島喜一(高等師範)校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一同 四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入試験を行ふ。
- 一同 四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の學年に分編し、同日始業式を行ふ。

私立成田高等女學校一覽

- 一 明治四十五年三月第一回卒業生を出し、千葉縣知事臨席す
- 一 明治四十四年十二月増築に着手せし講堂兼雨中體操場、理科教室普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したる
- 一 大正二年三月第二回卒業生を出す
- 一 大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
- 一 同 十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正三年三月第三回卒業生を出す
- 一 大正四年三月第四回卒業生を出せり
- 一 大正五年三月第五回卒業生を出す
- 一 大正六年三月第六回卒業生を出せり
- 一 同 十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
- 一 同 十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正七年三月第七回卒業生を出せり
- 一 大正八年三月第八回卒業生を出せり
- 一 大正八年十月中村校務主監死去
- 一 大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
- 一 大正九年三月第九回卒業生を出す
- 一 大正十年三月第十回卒業生を出せり
- 一 大正十一年三月第十一回卒業生を出せり

二

- 一 大正十二年三月第十二回卒業生を出す
- 一 大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命ぜらる
- 一 大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御選化
- 一 大正十三年二月成田山貫首荒木僧正校長の認可を受く
- 一 大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
- 一 大正十三年三月第十三回卒業生を出す
- 一 大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
- 一 大正十四年三月第十四回卒業生を出す
- 一 大正十四年三月笹川文學士校長辭任
- 一 大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
- 一 大正十四年三月校務主監佐藤國二校長兼教諭に任ぜらる
- 一 大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
- 一 大正十五年三月第十五回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月第十六回卒業生を出す
- 一 昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
- 一 昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隠退す
- 一 昭和三年三月第十七回卒業生を出す
- 一 昭和四年三月第十八回卒業生を出す
- 一 昭和五年三月第十九回卒業生を出す

- 一 昭和六年三月第二十回卒業生を出す
- 一 昭和七年三月第二十一回卒業生を出す

◎ 昭和六年度重要記事

- 四月 六日 入學式、始業式、及中野教諭の新任披露式舉行
- 四月 廿三日 生徒身体検査施行
- 四月 廿九日 天長節祝賀式舉行
- 五月 五日 全校教員生徒一同佐倉兵營及堀田伯邸見學
- 五月 七日 校長會議の爲め佐藤校長安房高等女學校に出張
- 五月 十四日 西野督學官視察
- 五月 廿六日 生徒口腔検査施行
- 六月 六日 澄宮殿下三里塚に御成りに付奉迎佐藤校長拜謁
- 六月 十日 時の記念日に付並木教諭講話
- 六月 十二日 全國高等女學校校長會議の爲め佐藤校長出京
- 七月 十九日 第一學期終業式舉行
- 九月 一日 始業式及太田教諭の新任披露式舉行
- 九月 七日 三池教諭の告別式
- 九月 九日 平山教諭の新任披露式

私立成田高等女學校一覽

- 十月 廿九日 文貞公の事蹟及滿蒙問題に付校長訓話
- 十一月 三日 明治節祝賀式舉行
- 十一月 四日 各級競技大會開催
- 十一月 九日 慰問袋二百二個發送
- 十一月 十日 教員生徒二百九名帝展見學
- 十二月 五日 教育者に御下賜の御沙汰書捧讀式舉行
- 十二月 廿四日 第二學期終業式
- 一月 一日 四方拜祝賀式舉行
- 二月 一日 曩の本校理事三橋重郎兵衛氏葬儀に職員及生徒代表にて會葬
- 二月 十一日 紀元節祝賀式舉行及建國祭に參列
- 二月 十三日 創立記念式及學藝部大會開催
- 三月 十五日 島田教諭の葬儀及終業式
- 三月 十八日 第廿一回卒業式舉行
- 三月 廿三日 入學考查の結果五十五名に對し入學を許可す

◎ 學 則

- 第一章 總 則
- 第一條 本校の修業年限は本科四箇年とす
- 第二條 生徒定員は二百人とす

私立成田高等女一學校覽

第三條 休業日左の如し

- 一、祝日、大祭日
- 二、日曜日
- 三、皇后陛下御誕辰
- 四、記念日、二月十三日
- 五、夏季休業七月廿日より八月卅一日に至る
- 六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

第二章 學科課程教授時數

第四條 本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目をす

第五條 學科課程及び教授時數は左の如し

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	人倫道德ノ要旨、作法	同上	同上	同上
國語	讀方、文法、習字	同上	同上	同上
英語	讀方、譯解、習字	同上	同上	同上
歴史	本邦、地理	外國、地理	外國、歴史	同上
地理	本邦、地理	外國、地理	同上	同上
算術	整数、小数、珠算	約數、倍數、分數、比例、代數初歩	同上	同上
理科	植物、動物、二	前學年、續、生理衛生、礦物	化學、物理、三	三物

科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
圖畫	自在畫	同上	幾何畫	同上
家事	裁縫	同上	同上	同上
音樂	單音唱歌	同上	同上	同上
體操	普通體操	同上	同上	同上
教育	同上	同上	同上	同上
計	同上	同上	同上	同上
袋物	同上	同上	同上	同上
挿花	同上	同上	同上	同上
按摩	同上	同上	同上	同上
茶湯	同上	同上	同上	同上
編物	同上	同上	同上	同上
物理	同上	同上	同上	同上
化學	同上	同上	同上	同上
生物	同上	同上	同上	同上
衛生	同上	同上	同上	同上
地理	同上	同上	同上	同上
歴史	同上	同上	同上	同上
英語	同上	同上	同上	同上
國語	同上	同上	同上	同上
修身	同上	同上	同上	同上

備考 編物袋物挿花茶湯按摩ハ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章 入學及退學

- 第六條 生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし
- 第七條 入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし
- 第八條 一學年入學志願者に就いては小學校長の内申に基づき試問及身體検査に依りて之を檢定す
- 第九條 前條の試問は小學校卒業程度に依りて之れを行ふ

第十條 第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力檢定に合格したるものたるべし

第十一條 入學を許可せられたる者は在學証書に戶籍謄本を添へて差出すべし

第十二條 (在學証書は印刷しあるを以て省略す) 保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし

第十三條 保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるべきは一里以内に在所を有し一家計を立つる者を以て代理保證人ニ定め保證人連署の上之を學校長に届出づべし

第十四條 學校長は必要ニ認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし

第十五條 保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に届出づべし

第十六條 生徒退學せんときは其理由を記し保證人連署の上學校長に届出づべし

第十七條 生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ヶ月以上出席し難き時は期間を定め休學を願出づることを得但し期間は一ケ年間を超ゆることを得ず

私立成田高等女學校一覽

第四章 修了及卒業

第十八條 各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考查して定むべし

第十九條 卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章 授業料及入學料

第二十條 一、授業料は月額金三圓とし毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したる時は其當日之を納むべし但毎年八月は之を徴收せず

二、入學志願者は入學考査料金壹圓を納附すべし

第六章 賞罰

第二十一條 品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒状を與ふ

第二十二條 學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず

- 一、性行不良にして改善の見込なし認めたる者
- 二、成業の見込なし認めたる者
- 三、出席常ならざる者

第二十三條 規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第二十四條 生徒取締に關する規程は學校長之を定む

第七章 附則

私立成田高等女學校一覽

第廿六條 本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は

學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	籍	就職年月
修身、歴史	校長	荒川照定	千葉縣	大正十三年二月
數學	顧問	菅川種郎	東京府	大正十三年五月
國語、習字	文藝	佐藤國二	滋賀縣	大正十三年九月
英語、歴史、教育	校長兼教諭	並木藤太	京都府	大正七年一月
物理、博物、地理	教諭	青木三井	長野縣	昭和六年九月
國語、習字、英語	教諭	綿貫幾和	千葉縣	昭和七年四月
圖畫、習字、英語	教諭	岡内しづ	千葉縣	昭和五年四月
家事、化學、地理	教諭	大木みし	千葉縣	昭和二年四月
裁縫、作法	教諭	小倉治子	千葉縣	昭和四年九月
裁縫	教諭	平山鏡子	千葉縣	昭和六年四月
體操	教諭	中野美津子	千葉縣	昭和六年四月
國語、歴史	囑託教師	小山滿壽	東京府	昭和四年四月
音樂	同	櫻井文吉	千葉縣	大正十五年四月
插花	同	井文吉	千葉縣	大正十四年三月
按摩	同	酒井泰作	福島縣	大正十四年三月

◎成田山女學校卒業生人名

(明治四十四年三月順) (ハ結婚ノ印)

書記	伊藤	藤崎	好
伊藤 藤崎	藤崎 好	藤崎 好	藤崎 好
石原 藤崎	石原 藤崎	石原 藤崎	石原 藤崎
幡谷 藤崎	幡谷 藤崎	幡谷 藤崎	幡谷 藤崎
長谷川 藤崎	長谷川 藤崎	長谷川 藤崎	長谷川 藤崎
長谷川 藤崎	長谷川 藤崎	長谷川 藤崎	長谷川 藤崎
戸塚 藤崎	戸塚 藤崎	戸塚 藤崎	戸塚 藤崎
小川 藤崎	小川 藤崎	小川 藤崎	小川 藤崎
小田 藤崎	小田 藤崎	小田 藤崎	小田 藤崎
泉 藤崎	泉 藤崎	泉 藤崎	泉 藤崎
吉田 藤崎	吉田 藤崎	吉田 藤崎	吉田 藤崎
田中 藤崎	田中 藤崎	田中 藤崎	田中 藤崎
杉山 藤崎	杉山 藤崎	杉山 藤崎	杉山 藤崎

私立成田高等女學校一覽

◎卒業生人名現況表

(イロハ順) (。ハ結婚ノ印 ×ハ死亡ノ印)

第一回卒業生 (明治四十五年三月) (一〇)

小學校教師 (岩瀬改)○藤崎好 印旆成田  
 (幡谷改)○平井もみ 同 成田  
 ×田中あい 同 成田  
 (上原改)○杉山かね 同 成田  
 大木りう 同 中郷  
 (丸改)○香取てい 同 公津  
 小學校教師 ○山野か代 同 成田  
 (木内改)○生田欣 同 成田  
 ×木内けい 同 成田  
 三橋たい 同 中郷

第二回卒業生 (大正二年三月) (一二)

松戸高等女學教諭 (池田改)○勝田ゆき 印旆中郷  
 池田みち 印旆成田  
 小學校教員 ○石原静 同 成田  
 (林改)○川村くに 同 八生  
 (渡邊改)○林清喜 安房湊  
 (加藤改)○竹村きん 印旆中郷

第三回卒業生 (大正三年三月) (二一)

(田中改)○横山菊子 印旆成田  
 ×竹村きく 同 富里  
 (中島改)○齊藤朝 君津青堀  
 (大友改)○石井光子 宮城仙臺  
 (小林改)○武津キム 東京牛込  
 (秋葉改)○土屋ふで 山武城東  
 (伊藤改)○澤田ひさ 印旆八生  
 ×飯泉しげ 同 成田  
 ○石原ひろ 同 同  
 (林改)○谷田部ゆき 同 同  
 (幡谷改)○師岡幸 同 同  
 (土井改)○永塚わき 同 榎原  
 ○加藤あい 同 成田  
 (吉岡改)○鈴木てい 同 公津  
 (吉岡改)○鈴木とし 同 同  
 (谷平改)○平山かね 同 久住  
 (露崎改)○荒木キク子 長生五郷

小學校教師 東京和洋裁縫學校卒業  
 小學校教師

第四回卒業生 (大正四年三月) (二八)

(成田改)○綿貫きよ 印旆佐倉  
 (武藤改)○渡邊さだ 同 永治  
 (大島改)○石橋のぶ 同 八生  
 ○大須賀ゆう 同 安食  
 (桑原改)○加藤くに 同 安食  
 (山下改)○藤崎たか 同 成田  
 (藤崎改)○茂木包 同 富里  
 ○佐竹和歌子 東京下谷  
 (宮崎改)○土屋けい 印旆成田  
 (鹽田改)○北村菊代 同 布織  
 (岩井改)○大木美津 印旆安食  
 ×土井わか 同 公津  
 ×巖くみ 同 公津  
 (綿貫改)○青柳うめ 茨城取手  
 (加藤改)○安田もみ 印旆成田  
 神戸もみ 同 成田  
 ×川島ふさ 同 富里  
 (竹村改)○鈴木しげ 同 富里  
 (根本改)○古川菊 千葉椎名  
 (並木改)○打木すづ 印旆遠山

戸板裁縫女學校卒業  
 小學校教師  
 小學校教師

東京高等師範學校保育科卒業

第五回卒業生 (大正五年三月) (二六)

武藤きみ 茨城文  
 (猪野改)○松戸その 山武源  
 (平山改)○伊藤ゑい 印旆成田  
 ○大竹たい香 取小御門  
 (大木改)○鈴木あやめ 印旆中郷  
 (黒川改)○行方りき 同 成田  
 (桑原改)○岩井なみ 同 安食  
 ○山野いく 同 成田  
 (山田改)○土井満喜 同 安食  
 (山田改)○柴宮よし 印旆八生  
 (山田改)○齋藤わか 同 豊住  
 増岡りき 埼玉藤田  
 ○秋山うめ 印旆八生  
 ○天野真知 夷剛大喜多  
 ×淺倉みつ 印旆安食  
 湯村みよ 宮城仙臺  
 (宮内改)○篠原みや 印旆八生  
 ○谷みく 同 公津  
 (磯部改)○大野イク 印旆久住

私立成田高等女學校一覽

石原 ゆう 印旛成田  
 飯倉 きく 同 成田  
 馬場 ちよ 同 宗像  
 (土井改) 佐羽内 さし 同 六合  
 小川 敬 同 志津  
 高橋 きく 香取滑河  
 × 上原 こう 印旛成田  
 野平 吉野 同 豊住  
 (野平改) 横堀 ゆき 同 豊住  
 (大三川改) 尾形 本子 香取多古  
 (大木改) 廣澤 てい 印旛成田  
 (奥澤改) 染谷 春野 同 白井  
 (山内改) 土肥 徳子 同 成田  
 山本 くに 同 安食  
 京増 たか 同 酒々井  
 (藤崎改) 相京 くに 同 遠山  
 小坂 ひめ 同 酒々井  
 圓城寺 てい 同 公津  
 齋藤 こう 同 成田  
 湯淺 うら 同 八生  
 三橋 みち 同 富里

(三橋改) 東 同 成田  
 平野 香根 市原高瀬  
 (關川改) 藤崎 鳳 印旛成田  
 鈴木 けい 東葛飾明  
 東京共立女子職業學校卒業  
 第六回卒業生 (大正六年三月) (二九)  
 × 岩館 かね 印旛遠山  
 (石原改) 原田 やす 同 成田  
 (小川改) 吉原 晃 同 八生  
 萩原 美子 同 千代田  
 渡貫 はる 同 根郷  
 (川口改) 森田 こう 同 佐倉  
 (川崎改) 齋藤 よし 同 公津  
 吉岡 豊子 同 成田  
 (高川改) 山崎 綾子 同 成田  
 (露崎改) 上原 君子 長生五郷  
 (夏海改) 岩井 千代 印旛遠山  
 大友 らく 宮城仙臺  
 (武藤改) 江口 ミヤ 印旛永治  
 × 大木 道子 同 成田  
 (大野改) 榎澤 千代 同 旭  
 (國本改) × 佐久間 さし 同 富里

東京裁縫女學校卒業

小學校教師

和洋裁縫女學校卒業  
日本女子大學卒業

戸板裁縫女學校卒業  
東京女子高等師範學校保育科卒業  
成田幼稚園保母

佐倉大石裁縫女學校卒業

女子醫學專門學校卒業  
千駄三谷鐵道病院在勤

第七回卒業生 (大正七年三月) (二七)  
日本女子大學卒業

(山本改) 鈴木 せき 同 豊住  
 山田 米 同 成田  
 山崎 たけ 同 阿蘇  
 瀧澤 よし 同 成田  
 (淺井改) 瀧 藤 ひな 同 公津  
 (相京改) 後藤 ヨシ 同 遠山  
 齊藤 ヨシ 同 遠山  
 (京須改) 徳田 菊江 同 成田  
 永野 しま 同 成田  
 (宮川改) 寺口 きよ 新湯 源  
 (篠田改) 石井 喜久 重茨城金江津  
 廣瀬 てい 印旛成田  
 諸岡 米 同 成田  
 (須藤改) 五十嵐 けよ 同 六合  
 (岩井改) 石野 ふぢ 印旛本埜  
 (岩井改) 近藤 こう 同 大森  
 (石井改) 杉野 糸い 同 豊住  
 (石川改) 日暮 てい 同 成田  
 土井 きく 千葉大和田  
 (土肥改) 鈴木 はな 印旛公津  
 土肥 なつ 同 公津

小學校教師

小學校教師

神崎 りん 印旛遠山  
 加藤 千代 香取多古  
 (大徳改) 横瀬 三枝 印旛久住  
 谷 よし 同 公津  
 (玉村改) 三橋 千代 茨城布川  
 山口 ふじ 印旛成田  
 (山田改) 岩井 よし 同 豊住  
 藤崎 いし 同 遠山  
 小林 さし 同 阿蘇  
 小坂 てる 同 酒々井  
 (後藤改) 高橋 さき 同 安食  
 (遠藤改) 石井 はる 同 公津  
 蒔 苺子 同 酒々井  
 (深山改) 押尾 さく 同 六合  
 (宮内改) 丸 きよ 同 八生  
 (宮内改) 石橋 三千江 長生一松  
 檜垣 千代 印旛久住  
 × 關川 利子 同 成田  
 諏訪原 てる 同 久住  
 鈴木 きよ 同 成田

第八回卒業生 (大正八年三月) (三二)

私立成田高等女學校一覽



私立成田高等女一學校覽

小學校教師

五十嵐 ゆき 東葛飾布佐  
石原 つや 印旛四街道  
(石上改) 梶原 主 海上瀧郷  
(汚田改) 北村 喜代 福岡城内  
長谷川 よし 埼玉小林  
岡部 雪子 三重蒲田  
(小川改) 伊藤 はつ 印旛八生  
小川 喜美 東京淺草  
小川 喜美 印旛八生  
勝田 ふみ 同 安食  
吉田改) 諸岡 勉 同 公津  
瀧澤 喜久 同 成田  
(高川改) 東 種子 安房三原  
中村 はる 印旛成田  
(中島改) 加瀬 清子 長野四寺尾  
上野 なほゑ 東京麻布  
大久保 しげ 印旛本執  
(大川改) 石橋 さい 同 成田  
(山田改) 加藤 みつ 同 豊住  
山田 満壽 同 安食  
山内 さわ 同 成田

小學校教師

(山内改) 佐野 泰子 印旛成田  
(藤崎改) 小倉 三代 千葉更科  
福田 みら 印旛成田  
(淺井改) 石岡 いし 同 成田  
(坂本改) 伊藤 はま 茨城文間  
湯淺 達 印旛八生  
島田 惠 同 酒々井  
(日暮改) 佐藤 てい 同 中郷  
清宮 かつ 同 八生  
(本橋改) 小島 こう 同 本埜  
(關川改) 原 郁 同 成田

小學校教師

東京共立女子職業學校卒業

女子美術學校卒業

小學校教師

前橋高等女學校教諭  
東京女子高等師範學校卒業  
東京共立女子職業學校卒業  
女子醫學專門學校卒業  
第九回卒業生 (大正九年三月) (三一)  
岩 館 やす 印旛成田  
(石井改) 木下 やす 同 酒々井  
(石井改) 鶴岡 タケ 同 遠山  
(伊藤改) 石井 喜代 同 富里  
(伊藤改) 野坂 てる 同 成田  
飯田 敏子 茨城八原  
(池田改) 菊地 きよ 印旛富里  
(土井改) 小出 みみ 同 公津  
(土井改) 岩井 さし 同 公津

成田高等女學校教諭

和洋裁縫女學校卒業

小學校教師

小學校教師

小學校教師  
東京津田英學塾卒業  
大阪府立原尾高女教諭

大木 めし 印旛成田  
(小川改) 藤崎 きよ 同 公津  
小川 かく 同 公津  
(小川改) 山田 静 同 八生  
香取 操 同 船穂  
(川上改) 笠井 きく 同 白井  
谷川 はな 同 酒々井  
(竹村改) 林田 きみ 同 富里  
根本 テミ 同 豊住  
(仲山改) 本多 千代 同 公津  
×字井 幾久子 同 成田  
(山田改) 塚本 喜代 同 八生  
山本 こう 山武日向  
山内 貞子 印旛成田  
(山本改) 石田 しげ 同 和田  
(福田改) 小倉 光子 同 酒々井  
小林 せい 同 白井  
寺内 三枝 同 成田  
坂田 コウ 同 富里  
宮島 頼子 同 大森  
(三須改) 高知 衣 同 川上

第十回卒業生 (大正十年三月) (二六)

杉田 はな 印旛安食  
石川 婦久 印旛成田  
伊東 さも 山武上埜  
湯淺 君代 印旛八生  
尾崎 サト 山武松尾  
(小川改) 根本 てい 印旛公津  
小野寺 千代子 同 成田  
高田 よしえ 安房稻都  
(海瀨改) 遠藤 あい 印旛遠山  
(神崎改) 吉岡 瑛子 同 木下  
(谷改) 榎垣 うめ 同 公津  
(中山改) 木村 たつ 同 成田  
中越 加津子 同 成田  
葛生 かつ 同 安豊  
(山田改) 岩瀬 布知 同 八生  
(山田改) 藤崎 勢い 同 八生  
×中野 哲子 香取高岡  
×松田 さだ 印旛成田  
×丸 浅み 同 公津  
(古川改) 湯淺 千代 東葛飾布佐

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

女子醫學專門學校卒業

○兒島 愛茨城金江津  
 (後藤改)○鈴木 印旛安食  
 ○篠田 みつ 同 遠山  
 (遠藤改)○石井 ゆう 同 公津  
 (須藤改)○富井 静子 同 六合  
 (鈴木改)○守水 好技 茨城布川  
 (鈴木改)○佐山 いく 印旛六合  
 (大正十一年三月)(三八)

小學校教師  
 東京女子高等師範學校  
 専攻科卒業  
 東京女子職業學校卒業  
 東京裁縫女學校卒業

(石橋改)○伊藤 きよ 印旛成田  
 (飯倉改)○片山 ひさ 同 成田  
 ×泰野 こく 同 公津  
 ○堀内改)○清岡 千鶴 高知津呂  
 ○大木 みつ 印旛八生  
 ○加藤 くに 同 八生  
 ○神崎 やす 同 遠山  
 ○川村 長子 同 成田  
 ○川島 まつ 同 酒々井  
 ○田中 はな 茨城龍崎  
 ○高橋 こし 印旛大森  
 (高川改)○深見 興子 安房北三原

小學校教師  
 千葉女子師範二部卒業  
 東京女子美術學校卒業

(谷改)○秋山 すい 印旛公津  
 ×増淵 才 同 富里  
 ○小倉 松 同 成田  
 ×黒田 くに 同 成田  
 ○山本 たか 同 安食  
 (山田改)○小倉 てい 同 八生  
 (野矢改)○二瓶 敬 愛媛久米  
 ○藤崎 シン 印旛遠山  
 ○藤崎 たい 同 遠山  
 ○藤崎 ふみ 同 酒々井  
 ○小坂 みめ 同 酒々井  
 ○寺本 きみ 同 八生  
 ○齋藤 たけ 市原八幡  
 ×島田 てい 印旛遠山  
 ○佐瀬 より 同 八生  
 (湯淺改)○神崎 はな 同 八生  
 ○宮崎 季子 長生八積  
 (日暮改)○西田 トミ 同 中郷

小學校教師

(泉對改)○石井 ヒロ 千葉豊富  
 菅 壽美 匝瑛棒海  
 ○鈴木 ミし 印旛成田  
 (鈴木改)○松崎 錦 秋田本莊  
 (大正十二年二月)(三九)

小學校教師  
 和洋裁縫速成科卒業

保 姆

東京共立女子職業學校卒業  
小學校教師

(林改)○腰川 八千代 同 八生  
 ○原 えつ 同 佐倉  
 ○細川 喜與 同 遠山  
 ○土井 忍い 同 公津  
 (土井改)○野平 きい 同 公津  
 ×土井 よし 同 公津  
 ○岡田 はな 東葛飾布佐  
 ○大澤 しげの 印旛本楚  
 ○大木 美代 同 八街  
 ○小野 寺シゲ 同 成田

小學校教師  
 小學校教師

○小倉 茂子 同 成田  
 (太田改)○大野 鹿子 同 公津  
 ×海保 けい 茨城金江津  
 (吉橋改)○海保 きん 印旛旭  
 ○椿 たき 香取滑河  
 (並木改)○三屋 菊子 印旛遠山  
 ○鷗澤 喜代 山武蓮沼  
 ○山本 くに 印旛八生  
 ○山本 佐多 同 和田  
 増田 温子 同 成田  
 (京増改)○小川 はる 同 酒々井  
 藤崎 まつ 同 安食  
 (後藤改)○内藤 瑞子 同 八生  
 (安達改)○藤崎 よし 同 遠山  
 ○相京 靖子 同 遠山  
 ○秋山 ツク 同 酒々井  
 ×櫻井 けい 香取小御門  
 ×島田 輝代 印旛酒々井  
 平野 江榮 同 八生

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

京都同志社在學

第十三回卒業生 (大正十三年三月) (四七)

○平山まさ 同 成田  
 ○平山はつ 同 成田  
 (石川改) ○今井たけ 印旛成田  
 岩田み 同 布織  
 石原節 印旛安食  
 ○豊田登代 同 成田  
 (土井改) ○増淵てい 同 公津  
 及川ナカ 同 公津  
 岡田けい 印旛本塾  
 ○大木まつ 同 中郷  
 (大久保改) ○大須賀ちか 同 本塾  
 (小川改) ○北村貞女 同 八生  
 ○小川ふじ 同 八生  
 綿貫綾子 同 酒々井  
 片岡さめ 同 成田  
 吉岡誠 同 中郷  
 玉村ハナ 同 中郷  
 (高槻改) ○馬場洋子 同 中郷  
 ○高橋しづの 同 中郷  
 瀧澤喜代 同 成田

小學校教師

小學校教師

日本女子大學家政科卒業

小學校教師

小學校教師

女子職業學 卒業

○中島さき 同 安食  
 ○仲山勢い 同 公津  
 (野口改) ○田中さき 同 豊住  
 ○山田かつ 同 成田  
 ○山内總江 同 成田  
 ○山口ひて 同 八生  
 ○松田ふく 同 成田  
 ○増田さき 同 成田  
 (藤原改) ○居城せつ 同 小御門  
 船橋ツネ 同 成田  
 紺谷滿技 同 成田  
 ○小泉繁子 同 成田  
 ○秋山みつ 同 八生  
 青野むつ 同 八生  
 相京タケ 同 公津  
 齊藤あい 同 遠山  
 齊藤さよ 同 遠山  
 ○佐伯さよ 同 遠山  
 ○湯淺ゆみ 同 遠山  
 ○湯淺つね 同 八生  
 ×三橋孝子 同 成田

東京女子大學卒業  
和洋裁縫學校卒業

第十四回卒業生 (大正十四年三月) (四四)

(宮川改) ○長竹幾子 同 酒々井  
 宮内はる 同 八生  
 島田清 同 酒々井  
 (平山改) ○伊藤さし 同 香取多古  
 (關川改) ○淺尾昭 同 成田  
 鈴木トシ 同 公津  
 ○鈴木つる 同 公津  
 ○菅谷さし 同 白鳥  
 ×石井かつ 同 成田  
 ×岩館はる 同 成田  
 ○飯田ちよ 同 成田  
 ○伊藤みつ 同 成田  
 石橋あき 同 中郷  
 林あき 同 成田  
 ○長谷川ぶ 同 成田  
 大澤敦 同 八生  
 岡田喜美 同 成田  
 小倉治子 同 成田  
 小倉まさ 同 成田  
 ×大木ヤキ 同 成田

小學校教師

小學校教師

櫻井女塾卒業

和洋裁縫學校卒業

小學校教師

○大木ゆき 同 八生  
 小川春子 同 八生  
 大竹かね 同 成田  
 竹尾さよ 同 成田  
 中野美津子 同 成田  
 (永田改) ○蝦原順子 同 成田  
 ○野島律 同 成田  
 ○牧野さし 同 成田  
 ○丸よし 同 成田  
 (京須改) ○汪八重 同 成田  
 藤崎けい 同 成田  
 藤倉しげ 同 成田  
 (古川改) ○吉川壽 同 成田  
 小林ハル 同 成田  
 越川富美子 同 成田  
 後藤てる 同 成田  
 後藤歌 同 成田  
 遠藤ゆき 同 成田  
 神戶せつ 同 成田  
 (手島改) ○秋山ふさ 同 成田  
 柏川さく 同 成田

私立成田高等女學校一覽

私立成田高等女學校一覽

青柳のぶ	同	公津	土岐裁縫女學校卒業	戸村ちよ	同	和田
齋藤きよ	同	公津	小學校教師	小川つぎ	同	八生
坂田のぶ	同	富里	臨時教員養成所卒業	小川みち	同	公津
木内つね	同	酒々井	女子高等學園卒業	小倉梅	同	成田
湯淺てい	同	八生	女子師範第二部卒業	小野寺アイ	同	成田
莊司つる	同	成田	女子師範第二部卒業	小倉さり	同	成田
諸岡ます	同	成田	女子師範第二部卒業	渡邊愛	同	成田
諸岡以喜子	同	成田	女子師範第二部卒業	加藤きん	同	成田
關口しげ	同	久住	女子師範第二部卒業	勝田俊	同	安食
鈴木こし	同	富里	女子師範第二部卒業	吉岡たか	同	北須賀
齋藤いさ	同	木下	女子師範第二部卒業	多田喜代	同	公津
石橋たみ	同	成田	女子師範專攻科卒業	高橋さゆり	同	香取滑河
石橋つたい	同	香取滑河	女子師範專攻科卒業	高橋さだ	同	茨城金江
石橋せつ	同	印旛中郷	女子師範專攻科卒業	野々宮みつ	同	印旛成田
石原せつ	同	富里	女子師範專攻科卒業	葛生ちよ	同	久住
石川せつ	同	富里	女子師範專攻科卒業	柳本喜恵子	同	印旛成田
大塚千代	同	白井	女子師範專攻科卒業	山崎きく	同	豊住
池田頼子	同	山武千代	女子師範專攻科卒業	淺井壽	同	成田
今井春子	同	印旛成田	女子師範專攻科卒業	麻生菊技	同	山武千代
堀江智恵	同	成田	女子師範專攻科卒業	青木こう	同	印旛本郷
			女子師範專攻科卒業	青山ま津	同	茨城千江津

日本女子大學校卒業

佐久間 かつ 印旛成田  
 佐伯智惟子 同 成田  
 (木村改) 山崎よし 香取多古  
 木下けい 印旛成田  
 龍崎しつ 同 遠山  
 湯淺公己 同 八生  
 湯淺みつ 同 八生  
 椎名静 同 大森  
 柴崎ゆき 同 大森  
 平山いち 同 成田  
 檜垣穎 同 成田  
 森谷ミネ 同 成田  
 菅谷幾世 同 成田  
 鈴木ミミ 同 成田  
 鈴木喜恵 同 船穂

女子高等學院在學

女子職業學校卒業  
 千葉高女家庭科卒業  
 千葉高女家庭科卒業  
 千葉高女家庭科卒業  
 小學校教師  
 實踐女學校專門學部卒業

家政學院卒業

小學校教師

第十六回卒業生 (昭和二年三月) (四六)

石井イワ 印旛豊住  
 石原あや子 同 富里  
 岩澤利子 同 遠山  
 岩澤かつ 同 成田  
 伊藤さみ 同 永治

女子美術學校卒業

私立成田高等女學校一覽

和洋裁縫女學校卒業

林田まさ 印旛成田  
 久保田喜美 同 成田  
 大竹ささ 同 富里  
 大久原節 同 成田  
 勝田よし 同 八生  
 梶谷みつ 同 安食  
 吉岡熏 香取滑河  
 高橋あゑ 印旛公津  
 高橋よね 同 成田  
 瀧澤由子 同 成田  
 中島こう 同 成田  
 中野雪子 香取大福  
 桑原米 印旛久豊  
 古矢春子 同 成田  
 藤倉さだ 同 成田  
 萩原あい 同 豊住  
 小倉みち 同 八生  
 (小倉改) 戸田タケ子 同 成田  
 (渡邊改) 佐藤すま 同 成田  
 渡邊よし 同 成田  
 (渡邊改) 木原ゆき 同 成田

私立成田高等女一學校覽

大妻裁縫女學校卒業  
加藤 淑 印旛八生  
片岡 てる 香取多古  
木内 いく 印旛遠山  
神崎 榮 同 遠山

(片岡改)

土岐裁縫女學校卒業

(堺改)

秋山 はる 同 八生  
秋山 テル 印旛中郷  
福田 やす 茨城金江津  
神崎 榮 同 遠山  
木内 いく 印旛遠山  
片岡 てる 香取多古  
加藤 淑 印旛八生  
寺内 八重 同 成田  
坂田 リウ 印旛富里  
齋藤 よし 同 公津  
齋藤 なみ 江 同 公津  
木内 ふじ 香取多古  
湯浅 みし 印旛八生  
×水野 愛子 同 成田  
宮田 節 同 成田  
平山 しづ 香取多古  
藤倉 貞子 印旛成田  
諸岡 琴子 同 成田

千葉高女家庭科卒業

第十七回卒業生 (昭和三年三月) (四九)

(諸岡改)

障陰女學校在學

山脇高女家政科卒業

石川 きく 印旛成田  
石川 ちか 同 遠山  
×石川 文枝 同 成田  
伊藤 ハル 同 遠山  
飯塚 まつ 同 成田  
林 花子 同 成田  
土肥 みさほ 同 公津  
鳥居 薫 同 成田  
小川 くに 同 公津  
小川 のぶ 同 中郷  
小倉 えい 同 成田  
小田垣 愛知夫 同 公津  
○大島 春江 同 八生  
×萩原 三み 同 豊住  
渡邊 つる 同 成田  
神戶 光子 同 成田  
加藤 カツエ 同 公津  
×加瀬 な美 同 遠山  
源保 富美代 茨城金江津  
多田 光子 印旛公津

(太田改)

(清水改)

第十八回卒業生 (昭和四年三年) (四七)

小學校教師

(石橋改)

池田 いく 印旛安食  
大木 はつ 同 成田  
伊藤 千代 同 八生  
稻葉 文子 印旛公津  
遠藤 くに 同 公津  
細川 喜美 同 遠山  
本多 ちよ 同 遠山  
堀井 正子 同 成田  
小野 寺キク 同 成田  
小山 マス 同 六合  
大木 貞子 同 成田  
渡邊 もと 同 成田  
勝田 まさ 同 安食

小學校教師

小學校教師

幼稚園保姆見習

(増淵改)

小學校教師

私立成田高等女學校一覽

大徳 愛子 印旛成田  
竹尾 ます 同 酒々井  
長竹 勅子 同 成田  
野口 七五三 同 豊住  
葛生 つる 同 安食  
久保庭 菊江 同 成田  
郡司 和歌子 同 遠山  
矢村 仁枝 同 公津  
矢村 美都江 同 公津  
山田 三よ 同 八生  
山本 雅子 同 成田  
山本 幸 同 安食  
丸本 千代 同 公津  
山田 英子 同 成田  
藤江 和子 同 安食  
藤崎 コト 同 安食  
圓城寺 つね 同 公津  
青木 トク 同 本塾  
×秋山 弘 同 富里  
佐久間 ふみ 同 成田  
木内 しげ 同 成田

佐倉大石裁縫女學校卒業

私立成田高等女學校一覽

小學校教師  
小學校教師

勝又千代 同 遠山  
 吉岡きみ 同 公津  
 高久繁 同 安食  
 高川春野 同 成田  
 谷本敏子 同 公津  
 根本敏子 同 豊住  
 (成島改)古池きい 同 大森  
 宇島みさほ 夷隅國吉  
 郡司秀 香取日吉  
 黒川喬 印旛成田  
 山田包子 同 公津  
 山口精 東 京  
 藤崎きく 印旛成田  
 藤崎のぶ 同 安食  
 藤崎千代 同 成田  
 越川春江 同 遠山  
 小林富子 同 成田  
 安達有年子 同 遠山  
 荒井たまほ 同 布織  
 秋山節 同 中郷  
 坂本富美代 香取滑河

東京津田英學塾在學

佐倉高等女學校補習科

第十九回卒業生 (昭和五年三月) (四七)

坂田米 印旛富里  
 菊地喜代 同 公津  
 木内きよ 香取滑河  
 湯淺きよ 印旛公津  
 三橋壽子 同 公津  
 新橋千代 同 成田  
 (白田改)柿崎キツ 山形大谷  
 日暮環 印旛成田  
 瀬尾ふく 同 安食  
 鈴木きい 同 公津  
 鈴木秋江 同 公津  
 鈴木ふち 同 成田  
 鈴木君江 同 公津  
 石井八千代 印旛布織  
 稻垣シゲ 同 成田  
 伊藤久子 同 成田  
 伊藤淵子 同 木下  
 池田百子 同 遠山  
 五十嵐はる 同 木下  
 飯岡文 同 豊住

小學校教師

土井しづ 同 公津  
 土肥こう 同 公津  
 加藤きよ子 同 中郷  
 勝田すま 同 安食  
 吉岡九重 香取滑河  
 瀧澤ひさ 印旛成田  
 武田まさ 同 八生  
 根本せつ 香取滑河  
 根本ふて 印旛成田  
 成毛喜美枝 同 豊住  
 宇佐見智意 同 中郷  
 小川志津江 同 公津  
 小川あい 同 成田  
 小川きくえ 同 成田  
 小川けい 同 遠山  
 小倉こし 同 八生  
 小高ふよ 同 公津  
 桑原あい 同 布織  
 山田きん 同 豊住  
 山田はる子 同 成田  
 X藤崎貞子 同 遠山

私立成田高等女學校一覽

女子二部

第二十回卒業生 (昭和六年三月) (四三)

藤田好 同 八生  
 後藤よね 同 八生  
 後藤正子 同 八生  
 相京サタ 同 公津  
 浅野ふみ 同 中郷  
 佐久間やす 同 成田  
 (木内改)石川よね 同 成田  
 X湯淺孝子 同 八生  
 湯淺きみ 同 八生  
 宮内たけ 同 八生  
 水野鶴子 同 成田  
 下村妙 同 八生  
 新橋美子 同 成田  
 平山はな 香取多古  
 平間きみ 同  
 廣瀬はん 同  
 泉水しま 印旛公津  
 鈴木美江 同 公津  
 鈴木かつ 同 成田  
 伊藤千代 印旛遠山

私立成田高等女學校一覽

八田羽	コウ	同	安食
長谷川	すみ	同	成田
西内	せゑ	同	成田
戸村	喜美	山武千代田	成田
豊田	徳	印旛成田	成田
土井	さし	同	成田
小川	みつ	同	成田
小川	てる	同	遠山
小倉	のぶ	同	八生
小倉	たか	同	久住
大川	登志	印旛成田	成田
原織	はる	同	本埜
海瀬	廣子	同	成田
吉岡	緑	香取滑川	成田
高津	かな	印旛成田	成田
谷	い	同	公津
久保庭	しづ	同	成田
黒川	マチ	同	成田
黒川	満	同	成田
黒澤	たけ	同	富里
山田	ゑい	印旛安食	成田

日本女子大學

第二十二回卒業生 (昭和七年三月) (四六)

山崎	よし	同	公津
山本	みち	同	安食
山本	まさ	同	成田
松田	まさ	同	成田
丸	ふさ	同	公津
古矢	茂子	同	成田
古矢	光子	同	成田
古郷	波子	同	成田
藤崎	千代	同	遠山
小泉	うめ	同	富里
浅井	しめ	同	成田
相川	しん	同	富里
秋山	トヨ	同	中郷
佐藤	芳子	同	遠山
木内	文江	同	成田
三橋	梅子	同	成田
三橋	千代	同	中郷
椎名	八千代	同	大森
澁谷	きよ	同	遠山
一鉄田	よし	同	中郷
菅沼	文	同	富里

女子職業學校在學

石川	ち	同	印旛成田
石川	も	同	成田
石橋	ふ	同	中郷
飯山	静子	同	大森
岩澤	菊枝	山武二川	成田
新田	美穂子	宮城慶來	成田
土井	さき	印旛公津	成田
大須賀	かつ	同	安食
大木	まつ	香取小門	成田
小川	トシ	印旛中郷	成田
小川	景	印旛八生	成田
小川	すい	同	公津
萩原	さし	同	豊住
渡邊	佐喜子	同	成田
渡邊	茂代	同	成田
渡邊	由子	同	成田
渡邊	せい	同	成田
川村	春子	同	遠山
田中	節子	同	成田
多田	せつ	同	公津
竹内	ふた	同	成田
葛生	ふた	同	安食

女子職業學校在學

山田	春枝	同	印旛八生
山野	うの	同	成田
前田	みや	同	大森
丸	たけ	同	公津
藤崎	ゑい	同	成田
藤崎	ヒサ子	同	成田
後藤	しみ	同	成田
後藤	まつ	同	八生
青野	茂子	同	八生
赤海	のぶ	香取高岡	成田
佐久間	正子	印旛八生	成田
佐瀬	光	同	成田
坂田	文子	同	安食
櫻井	千恵	同	成田
眞田	千倫	印旛成田	成田
木川	キクエ	安房千倉	成田
木内	ふみ	同	富里
湯浅	こう	同	八生
篠原	セイ	同	中郷
諸岡	新一	同	成田
清宮	こい	同	八生
關川	春江	同	成田
鈴木	俊枝	同	公津

私立成田高等女學校一覽

女子醫學專門學校在學

表別郡生業卒及徒生在現  
月四年七和昭

區別	郡別					計
	一學年	二學年	三學年	四學年	計	
印旛	四七	四五	四四	四一	一七七	六二一
香取	二	二	三	一	八	三〇
山武	三	一	一	一	六	一〇
千葉						四
市原						二
東葛飾						四
匝瑳						二
海上						一
長生						五
夷隅						一
君津						一
安房						六
他府縣						四
計	五五	五三	五三	四三	二〇四	七三二

表別村町徒生學通  
月四年七和昭

區別	町村別					計
	一學年	二學年	三學年	四學年	計	
成田	一九	二四	一五	一二	七〇	二四二
八生	五	一	一〇	七	二二	二四
公津	五	七	三	二	一六	二二
安食	二	八	一	一	一一	二二
本埜	一	一	一	一	四	二一
木下	一	三			四	二一
大森	三				三	二一
布織	一				一	二一
豊住	三				二	二一
久住	五				四	二二
中郷	三				二	二一
遠山	一				一	二一
富里	一				一	二一
酒々井	一				一	二一
多古	一				一	二一
千代田	一				一	二一
大總	一				一	二一
二川	一				一	二一
計	五五	五三	五三	四三	二〇四	七三二

經費概表

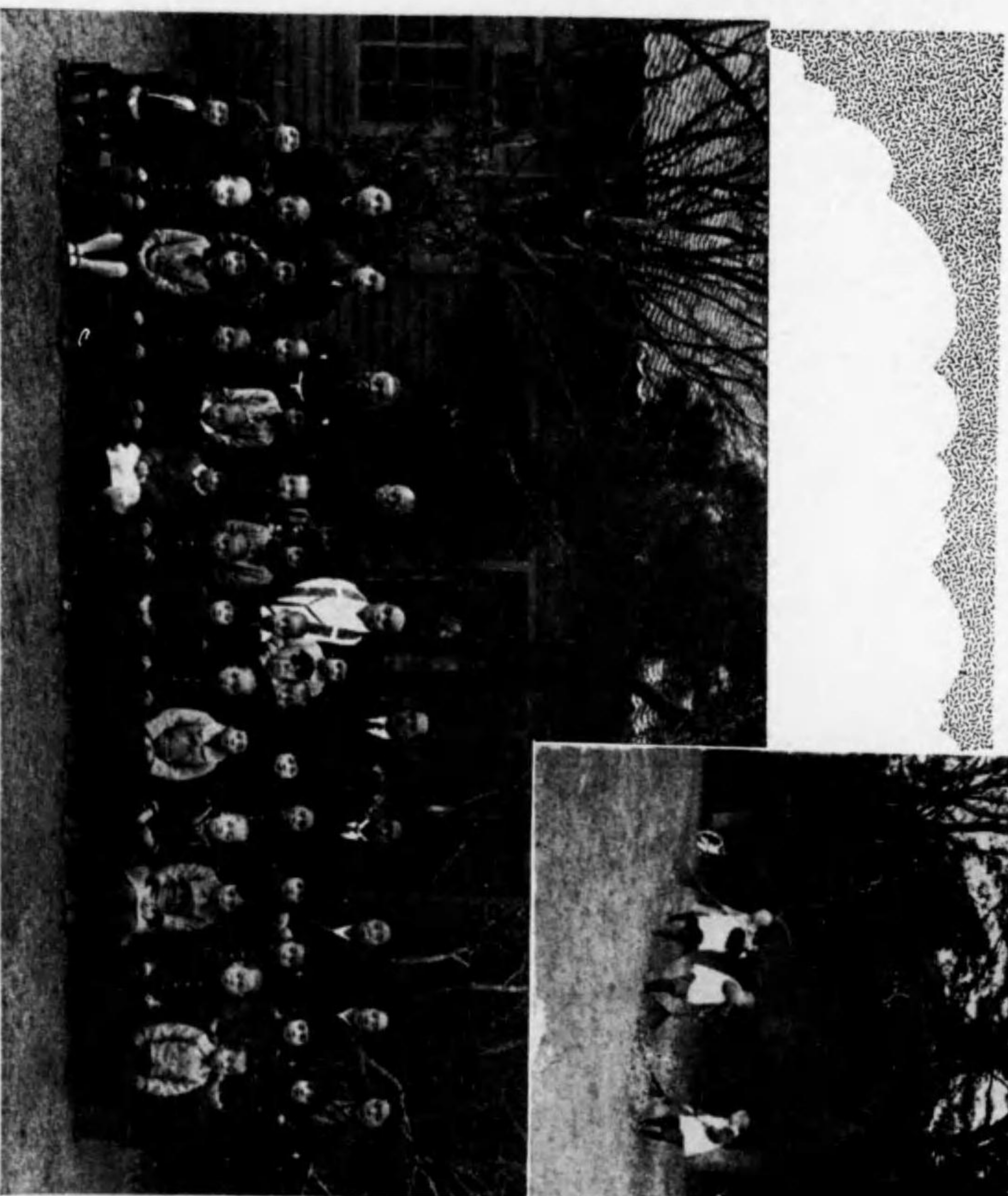
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭		
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和		
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五		
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年		
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度		
決	決	決	決	決	決	決	決	決	決		
算	算	算	算	算	算	算	算	算	算		
俸給	一三〇七六、五〇	俸給	四三三三、三一	俸給	三〇四八、六六	俸給	五五二、五六	俸給	一四七〇、〇〇	俸給	二二四七九、〇三
雜給	四〇八三、一八	雜給	一七五三、五二	雜給	三六九、〇四	雜給	一四七五、〇〇	雜給	二一三二五、七四	雜給	
校費		校費		校費		校費		校費		校費	
修繕費		修繕費		修繕費		修繕費		修繕費		修繕費	
退職給與金		退職給與金		退職給與金		退職給與金		退職給與金		退職給與金	
死亡賜金		死亡賜金		死亡賜金		死亡賜金		死亡賜金		死亡賜金	
合計	一三六四五、〇〇	合計	四〇八三、一八	合計	一七五三、五二	合計	三六九、〇四	合計	一四七五、〇〇	合計	二一三二五、七四

# 成田幼稚園一覽

沿革	一
保育課目並に休園日	三
六年入退園及年度末現員調	四
六年度保育修了幼兒數	四
職員	四
經費	四
保育料及入園料	四
修了費	四
設備の衛生的狀況	五
教授衛生の狀況	五
體育運動狀況	五
園則	五
私立成田幼稚園保護者心得	七



園児の松葉かき



職員及第二十七回保育終了者

# 園歌

大和田 建樹氏作歌  
小山 作之助氏作曲

御寺の山をあげ暮に

見わたす成田の幼稚園

園に生ひたつ撫子の

花にめくみの露しけし

我等も日々に集りて

雲雀となりて謠はまし

そのゝ恵の嬉しさを

御世の恵のたのしさを

# 私立成田幼稚園一覽

## 沿革略

- 一、認可 明治三十八年四月二十日
- 一、開園 明治三十八年五月二十四日
- 一、新築移轉 明治三十九年六月現在の新築園舎に移る
- 一、位置 園舎の位置は成田町小字向臺と稱し成田驛より東へ三丁緑の森に包まれた高燥な地域にす
- 一、敷地 參千八百八拾九坪
- 一、建坪 貳百五十餘坪
- 一、遊園 貳千九百參拾餘坪
- 一、設備の大要
  - (一)遊嬉室 (二)保育室 (三)園長室兼圖書室
  - (四)職員室 (五)應接室 (六)静養室(疊のお部屋)
  - (七)玩具室 (八)昇降口 (九)職員住宅
  - (一〇)小使室附屬建物(二)電話室廊下 其他以上の各室にす

## 年中行事

一月八日 新年始業式

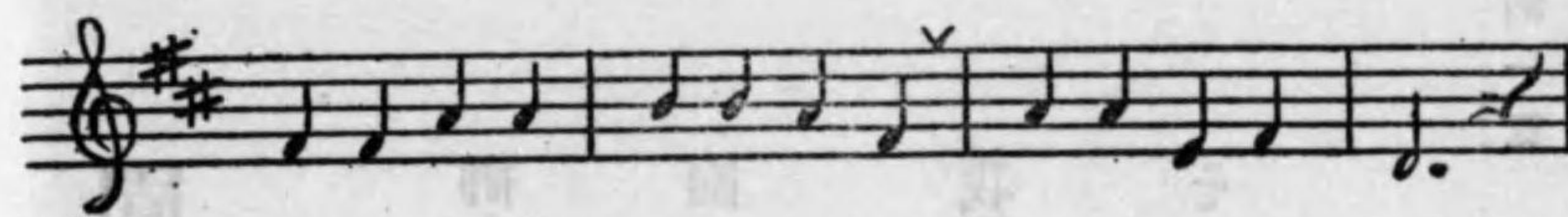
私立成田幼稚園一覽

## 保育課目並に休園日

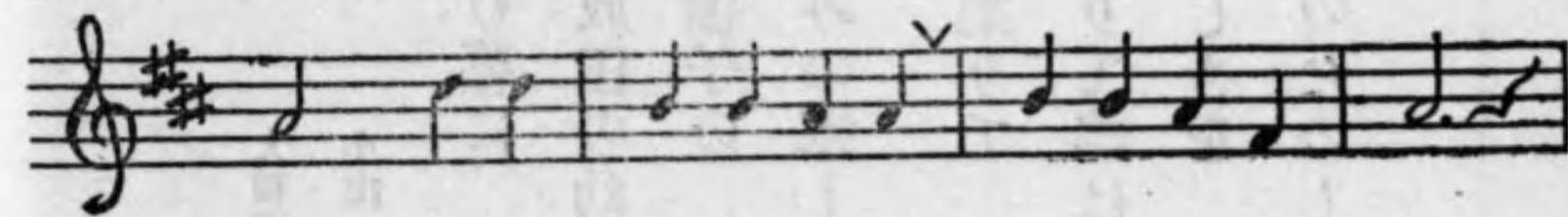
種類	課程	休園日
遊嬉類	童謡遊嬉 律動遊嬉	夏季休園 七月二十五日より八月三十一日まで
唱歌	童謡 幼稚園唱	冬季休園 十二月廿五日より翌年一月七日まで
観察	自然物其他凡てに付て	學年末休園 三月廿一日より四月三日まで
談話	童話 訓話 寓話	法會式日 七月八日
手技	細工もの	氏神祭日 七月十七日
休園	(紙細工、豆細工、自然物應用キビガラ及圖畫)	園日曜 大祭 祝日の外



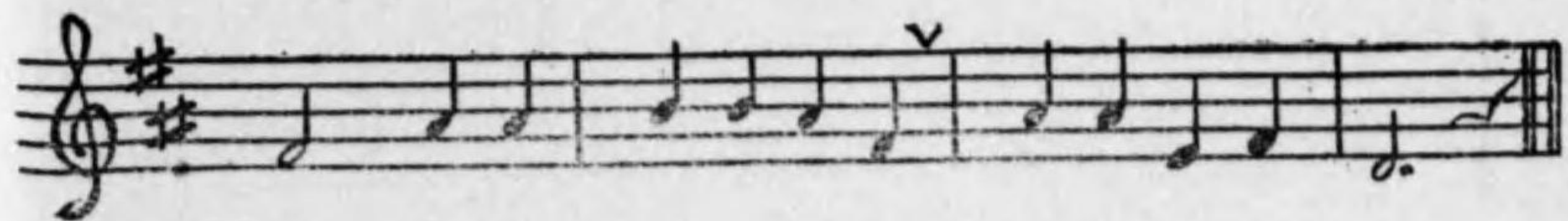
ミテラノ ヤ マヲ アケクレ ニ  
われらも ひ びに あつまり て



ミワタス ナリタノ ヨーチエ ン  
ひばりと なーりて うたはま し



ソ ノニ オヒタツ ナデシコ ノ  
そ のの めぐみの うれしさを



ハ ナニ メグミノ ツユシゲ シ  
みよの めぐみの たのしさを

昭和六年度入退園及年度末現員調

年 度	入 園		卒 業		退 園		死 亡		現 員	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和六年度	一〇	一四	一五	一六	二	五	一	一	一四	二二

右の外昭和七年四月末日調査現在幼児數

昭和六年度保育修了幼兒數

保 育 期 間	修了兒姓名		保 育 期 間	修了兒姓名		保 育 期 間	修了兒姓名	
	男	女		男	女		男	女
三年	諸岡 智恵子	同	三年	石井 和子	同	二年	諸岡 久	同
同	久保田 功	同	同	石渡 芳江	同	同	小澤 幸子	同
同	淺井 聰明	同	同	水野 綾子	同	同	若葉 幸子	同
同	古川 濤	同	同	諸岡 保枝	同	同	木内 隆	同
同	鈴木 初江	同	同	瀧澤 元	同	同	赤尾 照次	同
同	野村 芳子	同	同	古矢 穂美雄	同	同	齋藤 卓三	同
同	清水 俊彦	同	同	林 盈一	同	同	市川 榮一	同
同	鳥居 福	同	同	岸 貞夫	同	同	田中 英子	同
同	山田 章	二年	同	鈴木 邦夫	同	同	新田 久美子	同
同	石橋 康枝	同	同	竹田 榮男	同	同		同
同	大野 益世	同	同	古矢 功	同	同		同

男 三三 女 二八 合計 六一

一、修了兒

明治三十九年三月第一回保育修了式舉行二十二名の修了兒を出し昭和七年三月第二十七回の修了式を挙げ三十一名を小學校へ送り創立以來壹千餘名の修了兒を出した

一、設備の衛生的狀況

園全体が芝生の高臺であり森の幼稚園であり保育室は廣い庭を控へて南面し北に廊下があつて寒暑の調節宜しく保育室の坪數に比較して收容幼兒數少なく三千坪の庭園は全部芝生のため少しの塵も揚がらず凡ての點に於て最も衛生的設備を具す

一、教授衛生の狀況

幼兒期の衛生思想を養ふため朝來登園の際玄關に上るに先だち冬期はハタキを用ゐて足部を拂ひ夏季は玄關に備へ付けの雑巾にて足を清める事を第一として夫より手洗場にて冬は温湯夏は冷水にて手指を清め遊びに移る  
食前食後の手洗ひ口嗽ぎ室内に於けるボールド使用上より起る粉末のため室内に於けるボールドは使用を禁じ之に代はるに小黑板を作り園庭の何れへも移動し晴れたる大空の下に粉末の憂ひもなく清い空氣に恵まれて愉快な遊びの内に自由畫を描かし爪の衛生室内の清潔方法も各組年齢に應じて各自

一、職 員

一、園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして理事石川甚兵衛淺井儀助の兩理事之を補佐し淺井儀助事務理事兼會計主任を兼ね

職 名	氏 名	原 籍	就職年月
園主兼園長	荒木 照定	千葉縣	大正十三年二月
主 任	山口 政子	德島縣	大正三年十月
保 姆	若命 喜美	神奈川縣	大正十年三月
全	瀧澤 よし	千葉縣	大正七年十月
全	高田 よし	千葉縣	大正十年五月
全	山本 雅子	千葉縣	昭和三年四月
助 手	西内 せゑ	千葉縣	昭和六年四月
全	園醫 醫學博士藤崎 公道	千葉縣	昭和六年一月
全	商科 久保田 章	千葉縣	昭和六年四月

一、經 費

一金五千九百七十六圓四十四錢 昭和五年度決算額  
一金五千七百六十八圓五十錢 昭和六年度決算額

一、保育料及入園料

保育料は月額金貳圓とし二人以上通園のものは一人は全額他を半額とし入園料は徴收せず

一、体育運動狀況

に注意を拂ひ夏季幼兒の歸宅の際は汗に満たる頭部其他を冷水にて拭ひ清めて後歸宅せしめ漸次に良き習慣を養ひ且衛生に注意す

遊園は園舎を中心として四方に共通の運動場を有し春の櫻に次いで藤つ、じは咲き秋は樹木の間に紅葉が点在し園内はいつも美しく彩らるこれ等の樹木は秋を迎へて落葉の山をなし之がお掃除のため幼兒用熊手を備へ付け幼兒の庭遊びと共に幼兒は非常な喜びを以て庭の落葉を掻き集め園内落葉の整理は職員補助のものに多數の幼兒の手に依り美しく整理され体育上最もよき作業として此の遊を喜ぶ又移动式運動具を數多く備へ付け幼兒の運動に供へ又花壇のお掃除草花の手入廣き庭の鬼ごつこ等悉く幼兒の良き運動場あり又よき時を選び成田公園に引卒し長閑な楽しい遊びの内に健康第一を主義とする本園の目的に向ひ幼兒の体力増進を圖る

一、園 則

本園は滿參歳より學齡迄滿二年以上在園のものに限り入園を許し其心身の發達善良なる性情を涵養す  
入園期は四月九月の兩度とし現在六拾五名の園兒を三組に編

入年少の組は十五名以内ニす  
入園志望者には園所定の入園願書を交付し簡易なる方法にて  
考査をなし選擇の上三月末許可の通知をなし入園を許可す收  
容人員は其年度保育修了者ニ同數を決定し四月入園後事故退  
園其數を減ずるも補充せず九月の新學期に於て同様考査の上  
補充をなす

入園證書

原籍 出生地 現住所 職業 幼兒氏名 生年月日  
右は今般貴園に入園御許可相成候に付ては本人に關す  
る一切の事件拙者引受可申候也  
右保護者 千葉縣印旛郡成田町何番地  
昭和 年 月 日 何 某印  
私立成田幼稚園長荒木照定殿

經歷書項目

一、生父健否 年 齡  
一、生母健否 年 齡  
一、兄 姉  
一、弟 妹  
一、生母ノ乳 乳母ノ乳  
一、牛乳 里 子  
一、生來重病ニカ、リタルコトノ有無  
一、性質習慣ノ著シキモノ

右報告申上候也

幼兒保護者 何 某印  
昭和 年 月 日  
私立成田幼稚園御中

私立成田幼稚園幼兒保護者心得

- 一、家庭ニ幼稚園の連絡に關する事  
家庭ニ幼兒保育の連絡に付ては相互に協力するにあらざれば  
効果を得る事能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家  
庭ニ幼稚園ニは常に氣脈を通じ内外相應して保育の効を全く  
せざるべからず今彼此の連絡に關し當園の冀望を掲ぐ  
一、家庭より當園の事に付き疑義あるか又は幼兒の事に關して  
擔任保母に問合せ協議せられたき事あらば遠慮なく口頭又は  
書面にて申出でられたし  
一、父母兄弟並に直接幼兒の保育に關係ある人は時々來園して  
當園の實況を視察し之を家庭保育の參考にせられん事當園の  
最も冀望する所なり  
又春秋の頃子供のを開き保護者諸君の來會を請ふを例させ  
り一は實地保育の模様を諸君に示し又一は諸君より家庭の  
狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は  
其都度通知すべければ成るべく來會ありたし  
一、幼兒付添人に關する事

當園に於ては幼兒の付添を斷る

但往復途中の送迎は隨意たるべし

- 一、幼兒の遊嬉に關する事  
遊嬉は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものな  
れば最も自由快活に之を爲さしむるこゝ必要なれども野鄙亂  
暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付き  
ても亦能く其良否を選定し繪本の如きは色彩の良否説明せる  
字の如何に依り幼兒を害する事は恐るべき事なれば其内容を  
充分に取調べられて幼兒に與へられる様注意せられたし  
一、幼兒服裝に關する事  
幼兒の服裝は成るべく質素にして遊嬉運動等に便利なるもの  
を用ひ可成洋服又は和服は筒袖に仕立られたし  
一、幼兒の携帶品に關する事  
幼兒在園中に用ふべき器具其他總て園のものを使用する事な  
れば手拭鼻紙等必要なもの、外は幼兒に携帶せしめざる様  
致したし  
一、幼兒の往復に關する事

幼児の往復は近來自動車其他の爲に故障生じ易ければ風雨其他注意保護せられたし格別の事情なき限り必ず徒歩せしめられたし

一、幼児の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼児の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を届出てらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼児の家族に傳染病ある時は直に其病名を記して届出てられたし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘猩紅熱腸室扶斯發疹室

扶斯、虎列刺、赤痢、ジフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ちに届出てられたし

# 成田學園一覽

今日ノ務	一
平面圖	二
沿革要項	三
位置	三
建物	三
職員	四
關係事項概要	四
退園生狀況一覽	七
現在生狀況一覽	七
生活	八
入園	一一
退園	一二
教育成績	十四
經費	一五
基本金ノ蓄積	一五
感謝錄	一六

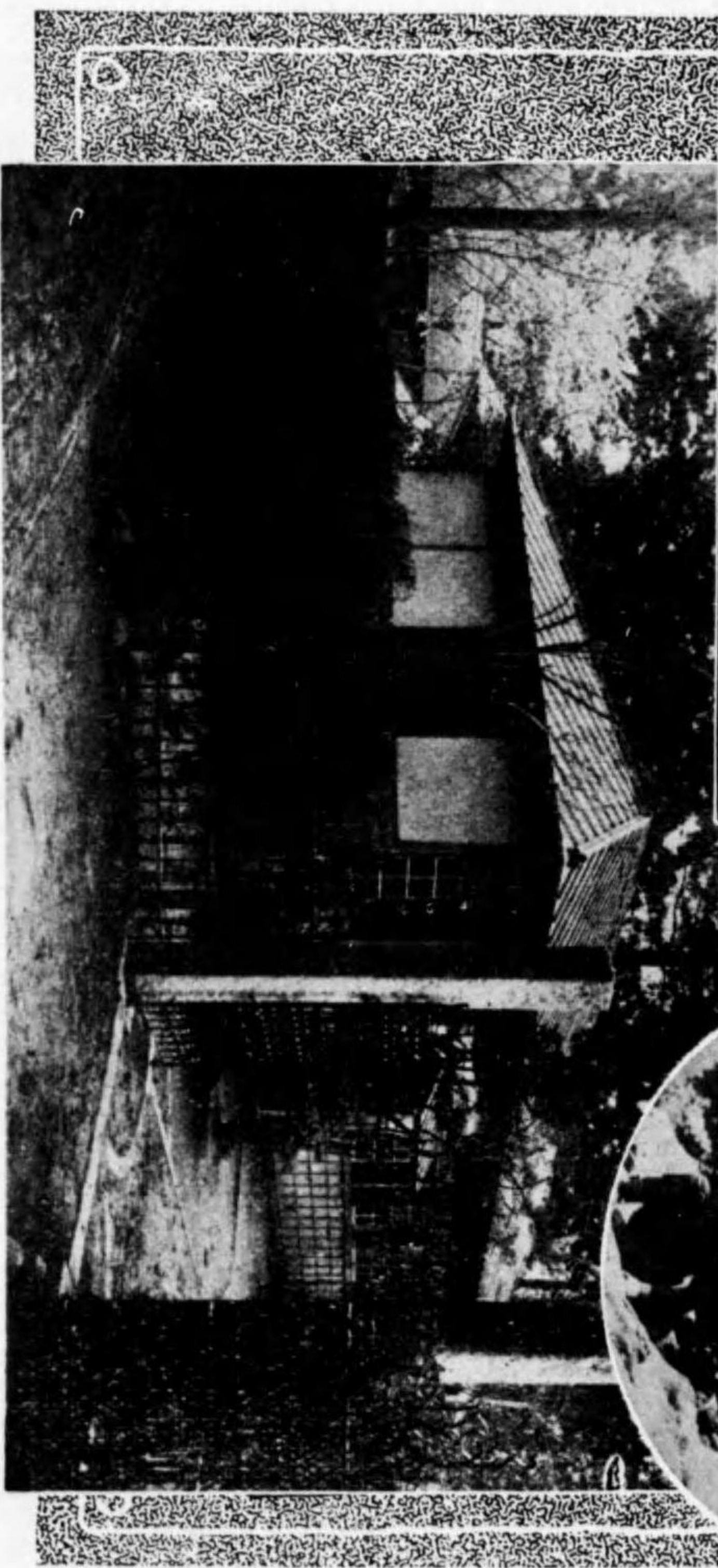
## 今日一日の務

- 一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
  - 二、今日一日父母教師の教を守り能く命に従ふ事
  - 三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
  - 四、今日一日能く自制克己し我儘なことや悪いと思ふことをせぬ事
  - 五、今日一日常に正直を旨とし決して虚偽を言はぬ事
  - 六、今日一日能く勉強し仕事を働く事
  - 七、今日一日禮儀を守り無作法の言行せぬ事
  - 八、今日一日他より受けた恩を忘れぬ事
  - 九、今日一日腹を立てぬ事
  - 十、今日一日仕事に倦まない事
  - 十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
  - 十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
  - 十三、今日一日人の悪口を言はぬ事
  - 十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
  - 十五、今日一日出来る丈多く善行を積む事
- 右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし

引網曳地の生園るけ於に濱里九十九



ノ江之島鎌倉方面修學旅行(年長班)



門正園學田成

由剛務室

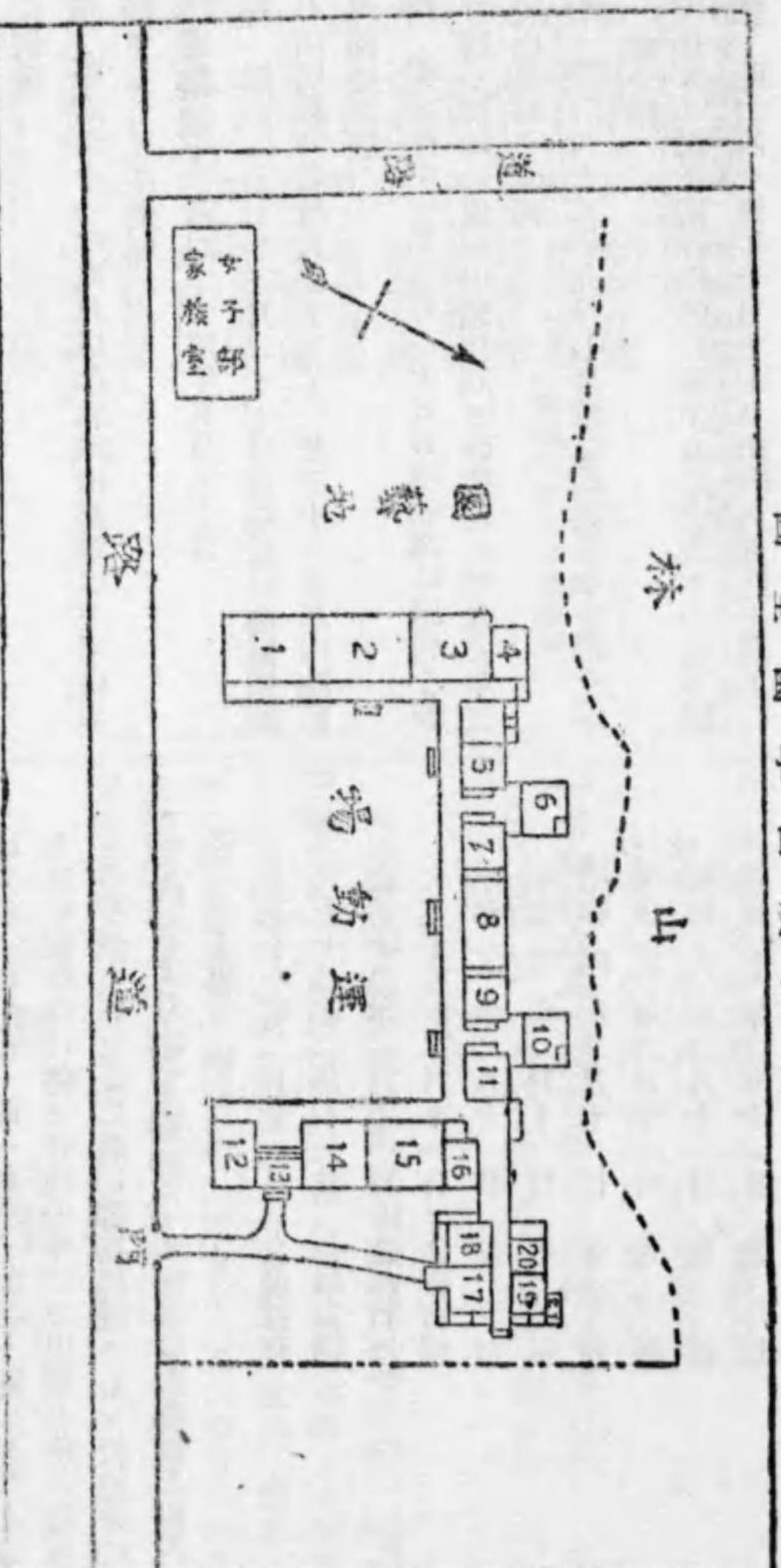


習館



音性教課

圖全園學田成立私



1	講堂	面積千二百二十五坪
2	圖書室	
3	學科教室	
4	生徒室	
5	生徒室	
6	教師室	
7	生徒室	
8	印刷教室	
9	生徒室	
10	保母室	
11	生徒室	
12	事務樓	
13	昇降口	
14	食堂	
15	炊事場	
16	洗風呂場	
17	主任室	
18	同家族室	
19	病室	
20	新入生徒室	
21	物置	總建坪二百坪



# 私立成田學園一覽

(昭和七年四月現在)

## ◎沿革要項

- 一 創立 明治十九年十一月二十八日(認可明治十九年五月二十四日)千葉感化院に稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設
- 一 組織の變更 明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更
- 一 千葉感化院建築竣工 明治二十四年五月三十日
- 一 園長更迭 明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現園長就職
- 一 移轉改稱 明治四十一年三月二十五日現在地に園舎を新築して之に移轉し同時に成田山感化院を改稱更に昭和三年三月二十五日成田學園に改稱
- 一 御膳本下附 明治四十三年九月七日教育勅語膳本並に戊申詔書膳本各一通下附
- 一 皇族御來園 明治四十四年十月十七日山階宮芳麿王殿下

久邇宮朝融王殿下 華頂宮博忠王殿下 久邇宮邦久王殿下  
山階宮藤麿王殿下 御成り被遊尙同月二十二日更に 山階宮妃殿下には御姫君安子女王殿下を御伴はせられ本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり本園よりは生徒製作に係る竹籠の中に三里塚名産の初茸を入れたるものを献上したるに直に御嘉納遊さる、旨恩命に浴したり

一 宮内省より御下賜金 本園事業御獎勵の思召を以て左の通り御下賜

- 大正十一年二月十一日 金參百圓
- 大正十二年二月十一日 金四百圓
- 大正十三年二月十一日 金四百圓
- 大正十五年二月十一日 金壹百圓
- 昭和二年二月十一日 金一封
- 昭和三年二月十一日 金一封
- 昭和四年二月十一日 金一封
- 昭和五年二月十一日 金一封
- 昭和六年二月十一日 金一封
- 昭和七年二月十一日 金一封

## 一 内務大臣より下附金品

本園事業上從來功績ありし且つ獎勵の趣旨を以て左の通り下附

- 明治四十二年二月十一日 金壹百圓
- 大正四年二月十一日 花瓶壹對(市岡紫雲作 青銅製松上ノ鶴模樣)
- 大正十一年二月十一日 金貳百圓
- 大正十二年二月十一日 金參百圓
- 大正十三年二月十一日 金壹百圓
- 昭和三年二月十一日 金壹百圓
- 昭和四年二月十一日 金壹百圓
- 昭和五年二月十一日 金壹百圓
- 昭和六年二月十一日 金壹百圓
- 昭和七年二月十一日 金壹百圓

## 一本縣知事より獎勵金

本園事業獎勵として左の通り下附

- 大正十一年一月十三日 金壹百圓
- 大正十二年三月九日 金壹百圓
- 大正十三年三月二十五日 金壹百圓
- 大正十四年三月二十七日 金壹百圓
- 大正十五年三月三十一日 金壹百五拾圓
- 昭和二年三月三十一日 金壹百五拾圓
- 昭和三年三月三十一日 金壹百五拾圓
- 昭和四年三月三十一日 金壹百五拾圓

## 私立成田學園一覽

## ◎位 置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一(電話成田百三番)にして成田山境内に在り前面成田幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約壹軒成田不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約二百米にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白雲の一家屋を見るべし、本園是れなり

## ◎建 物

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪並に建築費用左の如し

- 一 敷地面積 一千二百二十五坪
  - 一 建坪 二百坪
  - 一 建築費 一萬八千九百九十九圓九錢九厘
- 但し別に女子部家族室を有するも此の中に算入せず。  
(敷地建物明細圖は前頁に掲ぐ)

◎職員員 (○印は園内常住)

一園主兼園長	成田山新勝寺住職	荒木	照定
一主任	正八位	大友	惟誠
一會計主任		淺井	照次
一教師		鷗澤	弘吉
一教師		田中	伊八
一教師		服部	庚三
一保母		大友	静子
一保母		服部	さ子
一保母		有田	やす子
一助手		伊達	好友
一篤志園醫	醫學博士	藤崎	公道
一篤志齒科園醫		久保	田章
一篤志眼科園醫		山崎	一雄
一篤志整骨園醫		小倉	桂

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論能く園長の精神に當園職員たるの自覺により職務に従ふの外現在に於ては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的とし而かも此範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり

藤崎公道氏は御岳父關川博道氏(前篤志園醫)のあこを受けて其職に在り其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を小倉整骨醫院小倉氏兄弟は整骨外科を、山崎眼科醫院長山崎一雄氏は眼科を擔任せらる。されば入園し來る兒童は精神状態薄弱なるに共し身體亦強健ならざるもの多きにも係らず日を経るに従て健康状態良好となり稀に疾病負傷等あるも後害を遺せし者なきは當園の最も欣幸し最も誇りとする所にして前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所なり

昭和六年度本園關係事項概要

一、園生入退園の狀況

前年度繰越園生 二十名 新入園生 七名  
退園生 七名 現在生 二十名

二、園生の疾病

名	病名	治療日	名	病名	治療日
鐵也	足部腫物	自四月七日 至四月九日	政夫	掌裂傷	自五月十四日 至五月廿九日
俊郎	呼吸器	四月二十八日	健三	左眼裂傷	自五月十七日 至五月廿三日
俊郎	全	自五月八日 至五月二十七日	腹	痛	六月二十九日

弘儀	側腹腫物	自八月二十四日 至九月四日	一雄	凍傷	自二月二十六日 至二月二十七日
俊郎	呼吸器	自九月七日 至九月十四日	清	足部腫物	自二月二十七日 至二月二十七日
政夫	腹痛	自十月十六日 至十月十六日	健三	掌腫物	自二月二十七日 至二月二十七日
健三	齒痛	自十月九日 至十月二十日	茂	腹痛	自二月二十八日 至二月二十八日
清	全	自十月二十日 至十月二十日	順一	鼻疾	自二月十三日 至二月十三日
純吉	足部切傷	自十一月二三日 至十二月五日	鐵也	感冒	自二月十日 至二月十日
信彦	凍傷	自十二月五日 至十二月五日	純吉	手指刺傷	自二月二十三日 至二月二十三日
鐵也	手指ノ腫	自一月二十四日 至二月二十五日	源治	足部腫物	自三月九日 至三月九日

三、御下賜金及獎勵金等拜受

- 一、宮内省より御下賜金一封
  - 一、内務省より獎勵金壹百圓
  - 一、千葉縣知事より獎勵金壹百圓
- 右の外諸方よりの本年度寄附金合計八拾六圓あり

四、特殊事項

イ、修學旅行 今回は年長組と年少組との二班に分ち年少組は五月四日東京方面へ旅行を爲し明治神宮參拜外苑散步上野動物園見物等夕刻無事歸園、年長組は五月五日江の島鎌倉方面へ旅行を爲し夕刻歸園

ロ、臨海生活 八月三日より三週間山武郡綠海村海巖寺

住職小林祐然師の篤志により同寺の一部を拜借し生活をこゝに移し愉快の中に心身の鍛鍊を計り少なからざる好果を得たり

ハ、印刷部の擴張

當山事業年報の印刷、雜誌新更一の印刷を引受くるに至り當印刷部も追々その必要にせまられ本年度に於て著しく擴張をなせり。即ち印刷教室九坪の増築九ポイント活字十數萬本の購入、菊八頁掛及四六四頁掛ロール印刷機各一台の購入、足踏式針金綴機の購入等は其主なるものなり。しかも是等の費用は總て印刷部特別會計の支辨にかゝり一般會計よりは殆ん其補助を仰がさりし所に最も誇を感じ居る次第なり

ニ、よび名に就いて

昨年七月當園は大躰左の如き一文を撒布して町民各位に御願ひした。

昭和六年七月 成田學園

成田町々民各位様

よび名についてお願い  
當園は先年、山主が外國よりお歸りになりました時に、その記念として、成田學園を改めて頂きました。それが爲めに諸官廳では、さうに學園の名でよんで下さいますか、一番、地元で成田では、まだ學園の名が一般に通じておりません様で、誠に遺憾に存じて居ります。もつとも、永年、

私立成田學園一覽

感化院で通つて來ましたこと、て、急に改めて頂き度い申すのも、無理ではございませうが、改めてもはや大分になりますので、どうか學園の名でよんで下さい。

學園と呼ばれますの、感化院よばれますの、では、子供達にまつて、そのひびきが實に、大變にちがうので御座います。

どうか皆さん、當園の事情を御援助下さる意味でも、折角山主が、不遇な子供達をおもひやつて改めて下さつたこの學園といふ、やさしい美しい名を、どうかお用になつて頂きさう御座います。子供達一同も、そうよんで下さることに對して、その名にそむかない様に一層努むるでございませう。

序に申上げてせめて地元の皆々様の御理解を得ておき度いこと幸に町のお方には、そんな人はないので御座います。地方から参詣なごに出来た方でお子さんをおつれの方が、當園の前を御通りになるさき「こ、は子供の刑務所だよ、お前も言ふことをきかない、こ、へ入れるよ。」子供を、おさす材料に使はれるのを時々耳に致しますが、何んか心ない言葉でせう、嬉々として遊び戯むる、園生の心にこんな響を與へるでせう。私共は眼をつむり、耳を覆ひたい心地が致します。「子供の刑務所」身ぶるひする程

厭な言葉で御座います。しかし何も知らない方なら親兄弟がもてあまして教育を依頼する所ですから、そう思ふのも無理ならぬ事かも知れません。乍然それは、あまりにも皮相な、あまりにも同情のない考方。言はねばなりません。なぜならば園生の一人々々に就いて、彼等が茲にたち到りました其原因、其経路を詳細に調べて見ますならば、誰しも涙なしには居られないでございませう。先天的に精神上又は身軀上に缺陷ある者もありますが、その多くは環境の不良から來て居るのでありまして、中にも幼時温い家庭の教育を受け得なかつた者が大多數を占めて居るのであります。假令、不良が素質であり、遺傳であり、先天的であるにしても、現在子供に何の罪がございませう？況してその大部分が環境の影響であるとしたならば、之を保護し教養して、人類の水平線下から水平線上に引上げてやる事は社會の連帶責任であり、人類愛でありませう。悪童である、不良兒である。一概に排斥する事は實に心なき業なのであります。我が成田山が多額の経費を投じて當園を經營しつ、あるのもその趣旨は彼等不幸不遇なる少年をして、善良なる環境に移し家庭的温情の裡に保護教養を加へ、他日獨立自營の人たらしむる基礎を作つてやらうとする所にあるのであります。此意味に於て當園は特殊の家庭であり、學校の

延長であります。即ち純然たる教育場であつて決して子供を懲治する所ではないのであります。されば御覽の通り、いかめしいへいもなければ固い柵もなく、其他懲治的設備は何一つないのであります。事情を知らない地方の方の言葉は止むを得ません、せめて地元皆々様におかせられては、さうか彼等不幸な少年に御同情下さり又當園教養の趣旨を御理解下さつて御後援あらん事を切望致します。夫れが爲にはよく當園の實際を知つて頂かねばなりません、認識不足によつて、或は全然認識なしで所謂揣摩臆測によつて種々批評されることがあるならば、當園の甚だ迷惑する所て御座います。御暇の節さうか御參觀下さいませう、當園は悦んで其實際を御覽に入れ御説明申上ぐるで御座いませう。

昭和六年度退園生狀況一覽

名略	生有	家庭ノ	生計	退園月日	退園事由	現在成績	現在ノ職業
イ	東	遊技場	中	五月二十四日	改	善良	商店へ通勤
ロ	東	氷屋	下	五月二十五日	改	善良	石屋ニ奉公
ハ	東	會社員	下	五月二十九日	改	善良	他家ニアリテ
ニ	東	職道省員	下	五月二十九日	改	途良	活版職
							家庭ニアリ

私立成田學園一覽

本年度に於ける退園生は七名にして其數多からず。雖極めて最近に退園せしめ未だ視察中の一名を除きては全部良好の成績を持続しつ、あるは本園の最も欣快する所なり

昭和七年三月二十五日現在生狀況一覽

名略	生有	家庭ノ	生計	退園月日	退園事由	現在成績	現在ノ職業
イ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ロ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ハ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ニ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ホ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ヘ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
ト	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
チ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
リ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳
キ	東	京高	下	五月十六日	下	被	雇實 母十五歳

ル	ヲ	カ	ヨ	タ	レ	ソ	ツ	ネ
東京尋常	東京尋常	東京尋常	神奈川尋常	東京尋常	東京尋常	東京尋常	東京尋常	東京尋常
六月一日	五月十一日	四月三十日	七月六日	四月廿一日	三月廿一日	五月九日	三月十四日	三月十七日
下	下	下	下	下	下	下	下	下
染物屋	酒小賣店	建築具	被屋	居酒屋	土工	土工	被屋	被屋
父十四歳	母十三歳	父十一歳	母十一歳	父十五歳	母十一歳	父十一歳	母十三歳	母十三歳

◎園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異なる所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として児童一般の躰をなす共信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神とす故に此根本の精神に基き總ての施設及全體の方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對す

るは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雑放肆に流れざる様最注意せり然れ共本園家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督する云ふが如き方法にあらざるに便宜を主とし温き家風自然の慣例等により之を訓練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

- 日課及其説明を擧ぐれば左の如し
- 午前五時起床、直に掃除
  - 午前六時二十分 朝 拜 式
  - 一、皇室の萬歳を奉祝す
  - 二、大廟遙拜
  - 三、成田山不動尊禮拜
  - 四、各自先祖敬拜

- 午前七時 朝食
  - 自午前九時至正午 學 科
  - 正 午 晝 食
  - 自午後一時至四時 實 科
  - 午後六時 夕 食
  - 自午後六時半至同七時三十分 自 習
  - 午後七時三十分 禮 拜
  - 午後八時 就 床
- 以上の如く定むるも雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更するこゝあり

**起床** 朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ驟起せざるを得ざる習慣を作り但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

**清潔** 清潔は本園の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を檢査す

**衣類** 普通の衣類を用ゆ曾ては制服ありしも今は之を定めず朝拜式 毎朝講堂に於て之を行ひ児童に敬虔の心を養成せんが爲め職員先特に敬虔的態度を持し最も嚴肅に之を行ふ

**訓話** 一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就褥前不動尊禮拜の時之をなせ共平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何かなれば職員は生徒と起臥を同し行住座臥の間之が師たり父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨とすればなりされき個人に對しては機會を捕へ之に投じて其児童に適切に徹底的に訓話をなす

**食事** 常に兒童の營養状態に留意し滋養に富める物を選び居るを以て中流家庭に劣る事なし特に先年より試みたる玄米食

(三分搗、園内に動力精米機を設備し純無砂にて精米す)は保健上好結果を示しつゝ、あり而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本園の生活は總てに於て「共に」いふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

**學科** 概ね小學校令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間(但雨天又は冬期は午後に及ぶ事あり)の授業をなす但特に重きを讀方書方綴方算術球算等の實用學科に置き尋常科を卒業せし後尙向上の見込ある児童にして且品行最早差支なし認めらるゝ時は上級の學校へ通學せしむる事あり目下新更學院普通部に三名通學中なり

**實科** 農業、活版印刷及簡易なる手工を課す但冬期は農業を行はず耕地は目下三段歩を有す印刷部は創設後日尙淺く未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し主として新勝寺關係の印刷物を以て其實習材料に充て生徒中嗜好性能之に適せる者を撰びて習得せしめつゝ、あり園内に於ける實科に對しては生産的職業的技藝を興へ實社會に出て直に夫に依て自活し得るものを撰ばざる可らずと論ずる者あり本園固より考量したる事にして今回印刷部創設の如きも其一端なるが三四の業務を設備したりして到底全生徒の個性嗜好に悉くせしむる事

至難にして強て職業を狭き範圍に押込む嫌あり殊に學園に  
適する授業者たる人物を得る事困難にして施設繁多なる割合  
に好果を収められざる遺憾あり依て本園は教育終局の目的を  
主眼とし身體の鍛鍊精神の訓練特に勤勞性の養成を目的とし  
單に以上の三課を設くるのみ尤も年齢其の他の關係よりして  
在園中職業を興ふるの必要ある者に對しては當町内の家を撰  
み之に委託して本園より通勤其職業を見習はしむることあり

娛樂 兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に教化の目的  
を遂げんし娛樂には相當の意を用ふ

一、庭球フットボール及少年野球 娛樂に供する外體力  
養成にも資せんし之等設けたるに一同は喜びて之を  
遊び晴天の日は殆んど其遊び時間を之に費し居れり

一、圓球盤 ビンボン、カラム雨天の日には之にて遊ぶ  
一、ラヂオ 生徒室の一にスピーカーを設備し主として  
その子供の時間を生徒の時間となしをれり

一、生徒圖書室 此所に有益なるお伽雜誌、寫眞、繪畫等  
を置き兒童の閲覽に供す尙時々圖書館より拜借し來り此室  
にて閲覽せしむ

一、自由園藝 一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、

箱庭作り等自由に園藝の樂を味はしむ

一、散步遠足及旅行 毎月一日十五日二十八日及日曜日の午  
後不動尊に參拜終つて散歩せしむ又附近神社佛閣の參拜  
水泳船遊魚釣蕨狩茸採栗拾ひ或は單なる山遊び等にて數々  
山野を跋渉し郊外に遠足し娛樂に兼て體力養成を計り或は  
臨時に汽車電車等に乗じて遠方への修學旅行をなす

一、四大節及本園記念日 當日は祝賀式後種々なる餘興をな  
して一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂みなし居れり

一、角力 園内に土俵を設け夏期は殊に盛にこらしむ尙毎年  
九月に於て素人大角力あり生徒も出場せしむるを習ふ

一、誕生祝 園長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生  
徒一堂に團樂し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童  
に一日の休暇を興へ早朝不動尊に參詣其立身出世を祈らし  
め本園よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又特  
に御馳走を供す

一、五月節句 柏餅にて茶話會を開く

一、降誕會及義士祭 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀  
を行ひたる後園生の相談になる趣向によりて餘興をなす  
右の外生徒目が時節により流行によりてなす遊戯例へば  
輪廻し獨樂歌留多双六陣取鬼事將基五目(其他種々)等は太

抵自由に任かし濫に拘束を加へざるのみならず多くの場合  
職員之に加はるを常とす

賞罰 總て普通の家庭生活状態を同せしむる希望なるが故  
に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本園  
の記念日にして當日は多くの賞與を興ふるを例とするも平日  
は格別なる善行ある場合の外は賞與を實行せず

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績  
を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員  
の意見を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

おやつ 毎日を興ふ尙特志の人々より時々菓子等を生徒  
に寄贈せらるゝことあり又園長手許より生徒を慰めよきて特  
に珍菓水菓子等送り來ること數々なるのみならず園職員へ他  
より贈られたる菓子等も大抵生徒に分與するを以て實際に於  
ては間食の度數割合に多き方にして是等の方法は總て一般家  
庭の兒童生活と異なることなし

◎ 入 園

一、年 齡 滿七歳以上十六歳未滿(何れの地何れの家庭よ  
り依頼せらるゝも差支なし)

一、謝 絶 一、白痴 二、不具者 三、病者

四、不良程度のあまりに深き者

一、手 續 本園の教育を依頼せんときは學校の通信  
簿を携へ保護者來園のこゝに 但し遠隔の地に在る方は郵送相談  
せらるるも差支なし而して愈々入園の節は當園所定の書式(別  
に印刷せる用紙あり、それに記入のこゝ)による書類を戸籍謄  
本を差出さるべし

一、在園費 在園中は在園費として左記の通り毎月三日まで  
に前納するを要す

但し家計の都合上左記の金額を納め得ざる方には其一部若  
しくは全部を本園に於て補助す

- 一金拾圓 滿七歳より十歳まで
  - 一金拾貳圓 滿十一歳より十三歳まで
  - 一金拾參圓 滿十四歳より十六歳まで 以上
- 備考 入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり又前  
記の書類と雖も依頼人の希望によりて本園に於て代書するも差支  
なし入園の際は書籍文具衣類寝具等現に所有するものを持參の事  
保証人は戸主にして身元確實なるものを撰定せられたし

新に入園生ある時は先づ入園前の非行に對し懇篤訓誡を加へた  
る後本園生活の要項を知らしめ最早不動明王の恵により全く生  
れ更りたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを  
諭し講堂に於て入園式を行ひ本園生活の人となりしむ

◎退園

生徒の改善を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度、第二園外に使用し時々金銭を携帯せしめ毫も不都合なきとき、及日常の操行右半年以上乃至一年間同様に持續するべきを以て改良生と認め退園せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得て本園より直に本人の性行に適當する職業見習の家へ紹介し就業せしむるこゝになし居れり此場合に於ても其家庭及周圍に十分の注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり

本園の最も心勞するは實に此の退園後の成績効果なり何となれば在園中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとすも退園後の環境若しくは動機により動もすれば逆戻りをなし其効果を破壊せらる、恐あればなり故に本園に於ては退園後の成績効果に對し周到なる注意をなすと共に油断なく左記の保護觀察をなす

第一本園職員の視察 第二本園書面の往復

就中書面の往復は本園の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる効果あり尙事情の許す限り退園者は親

戚様の關係を持續し行く事に努力し居れり

左記は退園生より最近の手紙二三なり(原文のまゝ)

先日は御手紙有難拜見致しました皆々様には御丈夫との事安心致しました私は二十五日は行く爲朝早く起て見ましたら雨があまり降るのでやむかと思つて居りましたが午後一時頃まで降つていたのでとうと行く事も出来ませんでした近い所に乗り物が有ますれば乗つて行きましたがなにしろ不便な所ですから自轉車で行くよりほかはないのです私としては行たくてたまりませんでした先生様皆々様も二年もあわないのでそちらに行たいのは山々です先生初め皆々様もさぞ私を待つて下さつたのでせう私も前の日に行けばよかつたのですが煎餅のほろがいがいそがしかつたので行く事も出来ませんでした

どうぞ先生悪く思はないで下さい私は二時頃から行と家の人に行きましたらおそいから今度行けといわれしかたなくあきらめました又近中に行ける時も有ますのでせうからその時はかならず行きたいと思つて居ります先生もさぞ私を心配して居りますのでせうから早くいつていろくと安心させたいと思つて居ります只今私が務めて居ります煎餅屋は大へん大きくやつて居り私も十月頃からなつて居りますので只今では大へんなれて参りました私も煎餅屋になるつもりで一生懸命でなつて居りますから御安心下さい又其の後休が有りましたら行きますそちらのほうを思はない日はないくらいです今頃は鼻でもやつているかしらなにをやつて居るかといろくと頭にうかばれる事が時々あります先生私の事は安心して下さいかならず皆様

に安心させたいと思つて居ります

かならず先生様に御おんになつた事はわすれや致しません只今は務たりしているが爲時々行く事も出来ませんが今に時々行ける時節もくるでせう

それまで時々行けなくも悪く思はないで下さいですけども近い中に行きたいと思つて居ます

くわしいことは行きました時お話ししますまづはこんなわけですから皆々様によろしく話してゆかれなかつた事はゆるして下さい

先生皆々様御身大切にして下さい

さようなら

時 哉

昭和七年三月二十六日

拜啓

其後は御無沙汰致しました

此頃はめつきり暖くなり眞實に春らしくなりました其の後も先生始め皆々様にはさぞ御壯健の御事と拜しますが御何ひ致します私も丈夫で暮して居りますから御安心下さいそれから此の間は誠に御馳走様で御座いました眞實においしゅう御座いました

又此の度私事三月二十七日に卒業證書と精勤證書を買ひましたそれから今度は別の所に千葉市の理髮屋が店主と徒弟が大勢集りまして二百人位いる中で優良なる徒弟の表彰式を行ひました二百人位いる中に二十六人表彰されました最も職人さ徒弟ですけれど其中に二十六人の中に幸に私が表彰されました表彰状と銀カップを頂きました五ヶ年勤続者と云ふ事ですすが優良でなければ表彰されません家で

私立成田學園一覽

は親方の弟さんと私が頂きました早く先生に此の喜を御聞かせましたと思つて居りましたが何しろ月末と休が過ぎた許りでひまが有ませんで途おそくなつてしまひました誠に申分けがありませんでしたこれで先生にも御喜びを御傳へして喜んで頂けると思ひますと嬉しくてたまりませんそれでは今度御らんに入れます

では時節柄なほ一層先生始め皆々様御身體を大切に さようなら

昭和七年三月三十一日 篤 好

手紙に添へてお金まで下さいまして眞に有難う御座います

手紙は廿一日の朝参りまして汽車の都合で名古屋を午前〇時一分の東京行に乗つて行く事に決めました

私は今名古屋で手紙を書いて居ます

東京驛に九時四十分に着きますのですぐ〇〇新報の叔父さん處へ行きます

唐津のおばさんから頼状が行つて居ますのできつさ宜しくいくと思ひます

名古屋では奉公致して居たのでは無く知つて居る人の所に情を明かして居させて貰つたのです

私は先生に親切にして戴くと全く涙が出る程嬉しいのです私は一本立に成つて今まで父とは離れて居たが少しでも當にして居ましたのが亡くなつた以上自分で生活して居かなければそれが胸一杯で來年海軍へ入らうと思ひますがどうでせうか落ちついた所にどうか返事を下さい

私立成田學園一覽

發着時間に切迫して居ますればこれにて御免下さい  
成 樂

◎教育成績

明治十九年開園以來入園生二百十六人なるもあまりに古き分は音信自然に絶えて現況を詳に爲し難し依て便宜上左記の如く  
明治三十四年以降を掲げたり

自明治三十四年三十一一年間生徒状況一覽  
(昭和七年三月末日調)

一、成績

改善者	一二四	成績未定	七
不詳	七	現在生	二〇
不成績	七	計	一六五

二、入園時教育程度と年齢

程度	年齢		計
	以下九歳	10	
不就學	一	四	一五
一	七	二	一三
二	二	一	三
三	一	一	二
四	一	一	二
五	一	一	二
六	一	一	二
七	一	一	二
八	一	一	二
九	一	一	二
計	一六五	一九	一八四

三、入園時保護者と年齢

計	年齢						
	高二以上	高一	零六	零五	零四	零三	零二
一三	一	一	一	一	一	一	一
一五	一	一	一	一	一	一	一
一〇	一	一	一	一	一	一	一
二一	一	一	一	一	一	一	一
二二	一	一	一	一	一	一	一
二八	一	一	一	一	一	一	一
二二	一	一	一	一	一	一	一
二二	一	一	一	一	一	一	一
二二	一	一	一	一	一	一	一
三五	一	一	一	一	一	一	一
一六	一	一	一	一	一	一	一
一五	一	一	一	一	一	一	一
計	一六五	一九	二五	二六	二〇	一六	一六

四、保護者の職業

計	保護者			
	祖父母	其他ノ家族	家ノ保護者	ナキ者
一三	二	四	一	一
一五	二	一	一	一
一〇	一	一	一	一
二二	二	一	一	一
二六	二	一	一	一
二二	二	一	一	一
二四	二	一	一	一
三四	二	一	一	一
一六	一	一	一	一
一五	一	一	一	一

農 業	二
古 商	二
諸 職	一
官 吏	二
會 社	二
飲 食	二
荷 車	一
被 備	一
山 守	一
芋 堀	一
相 場	一
下 宿	一
牧 畜	一
漁 業	一
家 工	一
鐵 場	一
無 職	一
金 業	一
植 業	一
醫 業	一
寫 真	一
技 術	一
自 動	一
遊 藝	一
其 他	一
計	一六

五、改善退園者現況

農 業	一
諸 職	一
學 生	一
印 刷	一
諸 工	二
飲 食	二
洋 服	二
會 社	一
活 動	一
被 備	一
學 校	一
鐵 道	一
自 動	一
計	一六
自 轉	一
寫 真	一
其 他	一
家 庭	一
死 亡	一
不 詳	一
今 計	一四

私立成田學園一覽

◎經費

本園には嚴密なる豫算なし云ふ事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし嚴に濫費を防ぐ事は勿論なり之雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況んや厘錢に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりて必要な費途を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信頼を與へて濫りに細小の監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は隨に豫算を限定する以上において更に頗る便利を極め居れり左に記載するは本園最近の決算なり

- 一金六千五百四十四圓九十一錢 昭和四年度
- 一金六千四百四十六圓〇七錢 昭和五年度
- 一金五千二百九十參圓五十二錢 昭和六年度

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を

作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮獎勵も茲に存するを知らるも本園より進んで寄附金を受けるに方法を探るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金壹萬壹千參百四拾九圓八拾四錢三勸業債券拾圓券六十四枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す但し各團體より寄贈せらるゝ雜誌等は之を略せり

- 一金五圓也 諸岡惣吉殿 (成田)
- 一金參圓也 佐藤重太郎殿 (成田)
- 一金五圓也 稻橋八生殿 (成田)
- 一金拾圓也 河井勇殿 (成田)
- 一金五圓也 紺谷房吉殿 (成田)
- 一金五圓也 足立留吉殿 (成田)

- 一金拾圓也
- 一金五圓也
- 一金拾圓也
- 一金貳拾五圓也
- 一金參圓也
- 一御菓子澤山
- 一御菓子澤山
- 一理髮(毎月一回)

- 大木茂夫殿 (東京)
- 諸岡惣吉殿 (成田)
- 佐藤靜雄殿 (成田)
- 黒川かつ殿 (成田)
- 關川善道殿 (成田)
- 若松分店殿 (成田)
- 藤本三郎殿 (成田)
- 平澤晃殿 (成田)

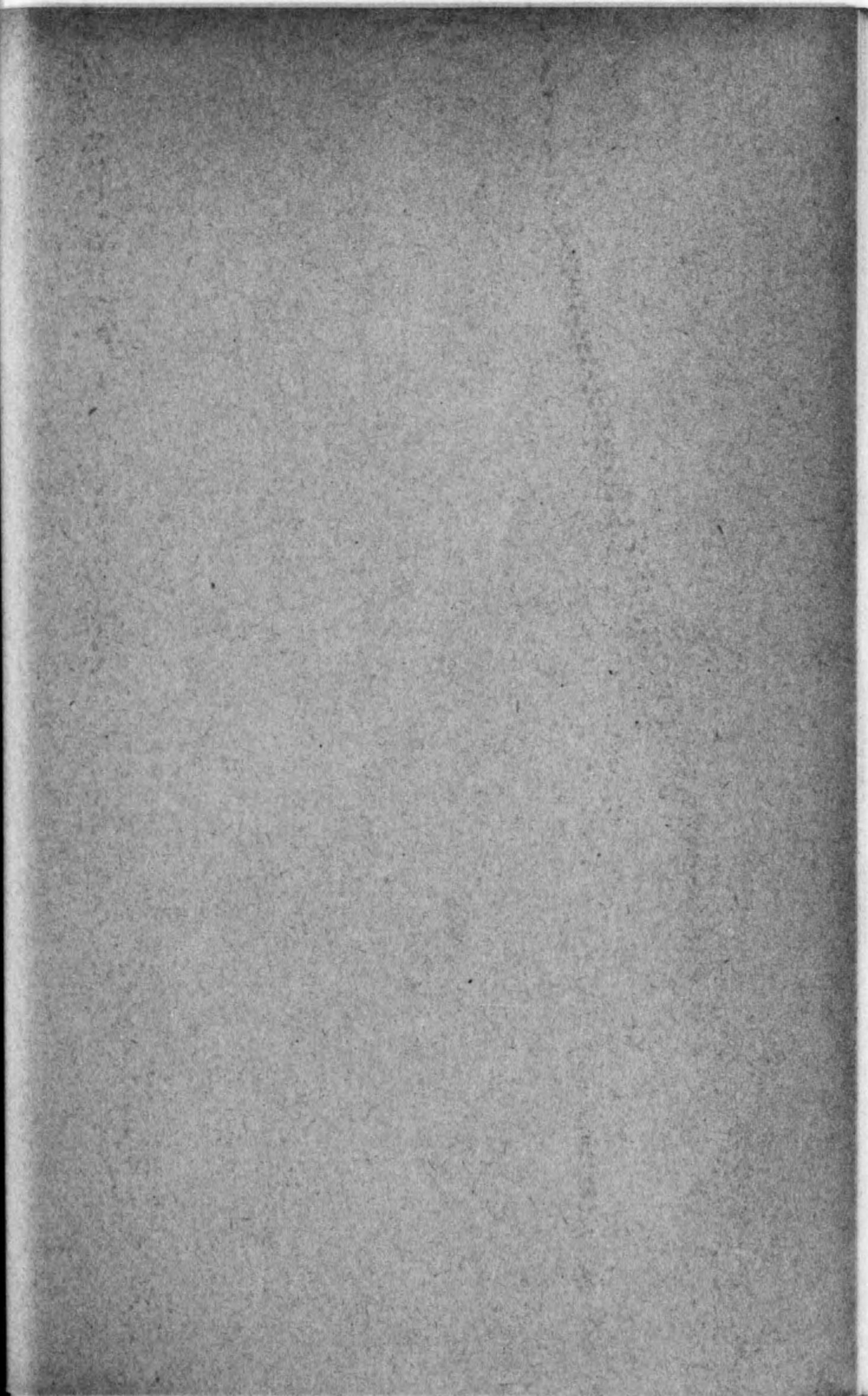
成田圖書館一覽

圖書館事務體系	一
明治縮刷大藏經物語	二
館勢要綱	三
沿革略	三
建物及敷地	四
經費	五
職員	五
閱覽統計	六
私立成田圖書館規則	六
成田圖書館圖書貸出規則	七
情報	八
本縣成田圖書館圖	九
書分類表の新制	九
本館と小学校との連絡	九
主要錄事	一〇
圖書寄贈者芳名	一〇
雜誌新聞寄贈者芳名	一一



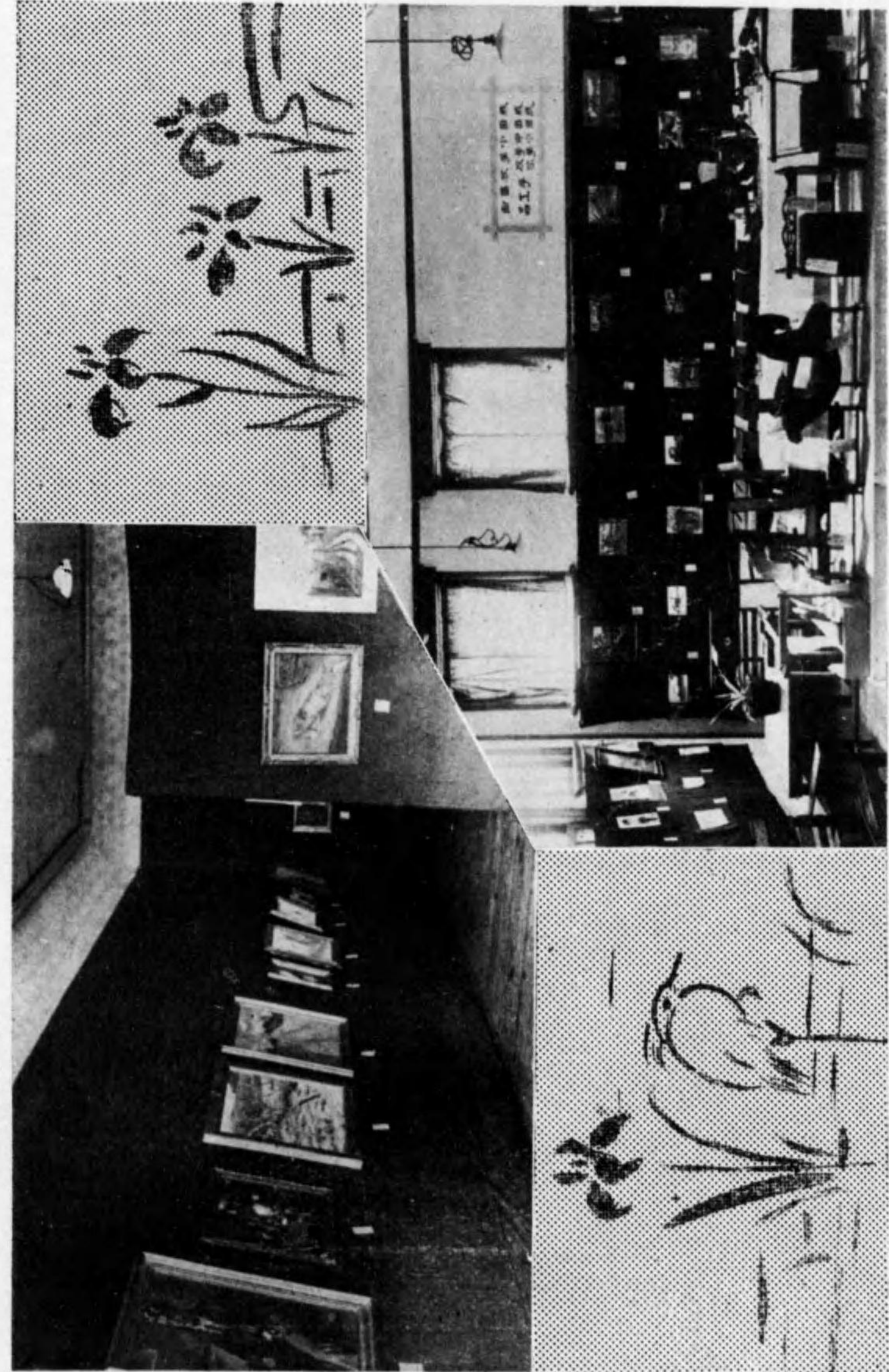
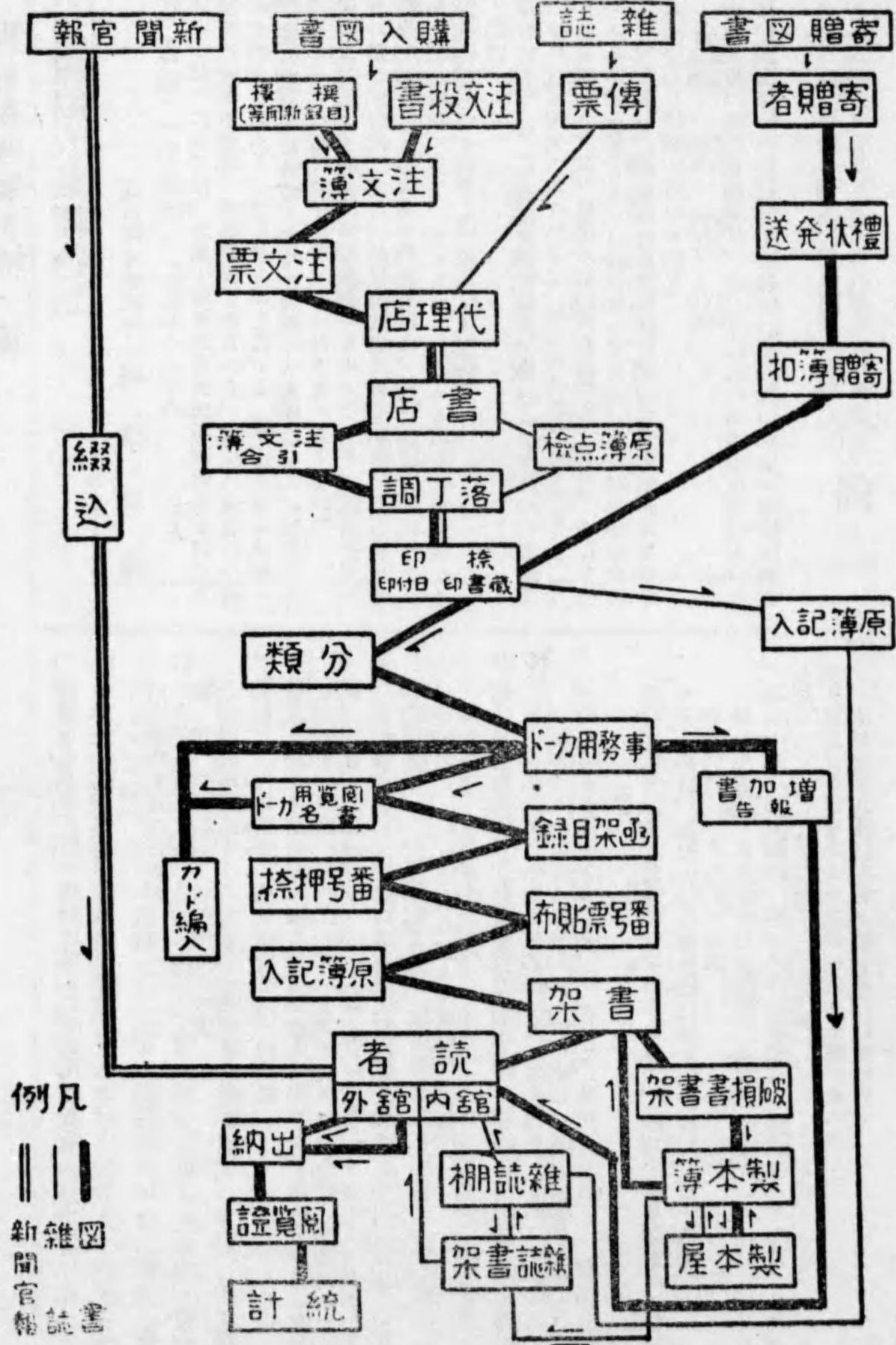


成田圖書館



# 圖書事務體系

一冊之本圖書館來者之路經たをりす



東京市立中央図書館

圖書手工品展覽會

明治縮刷大藏經物語

成田圖書館顧問 高津親義

『大正一切經』に就ては、大正十四年三月國民新聞紙上十回に亘り、徳富蘇峰氏が例の筆致で詳述されてあるから、篤學の讀者は今尙記憶せられて居るであらう。然も其先驅をなせる『明治縮刷大藏經』の出版は、既に半世紀に及び、之れに關與せる人々は殆んど他界せられて、生殘者としては當時最年少者であつた老生一人となつた。其出版縮刷は今日より視れば實に貧弱のものであるが、西南役で不換紙幣濫發の跡始末時代、殊に一般經濟狀態は頗る幼稚。當時資治通鑑、佩文韻府を刊行せる神明前の書肆泉市は、終に閉店の餘儀なきに至つた。斯の如き時代に於て、兎に角アレだけのものを刊行完成せる當事者の熱意と勇氣には敬意を表せねばならぬ。

(一) 大藏の印行は、支那に於て宋元明の三藏、朝鮮にては例の事實的高麗版あり。中に就て宋元二版は經卷式。明本及高麗本は書冊式である。我國にては維新前までは、遺憾ながら例の黄葉版一本で、夫れも明本の覆刻であるが、實質としては幾分劣つて居る。例の鐵眼師獻身の努力の賜ものであるが、何分同師獨力の經營で、資力關係が累を爲し終尾に及んで少しく缺點が認められる。

(二) 明治大藏經刊行の眞の首唱者は、教部省時代の島田蓉根翁であつたと記憶する。明治十一年頃から目論見はあつたが何分大事業で持廻りの結果、院長 山東眞砥、和歌山縣人、陸奥宗光の幕僚、幹事 色川誠一、茨城縣人、色川三郎兵衛の親族

會計 永井泰次郎、和歌山縣人、山東氏の幕僚、以上の三氏に由りて此事業は遂行された。

(四) 更に學的方面に於ては

總裁 福田行誠、當時増上寺貫首、三條山珍藏天下一品の麗宋元三本借用關係、委員長 飯島道實、擔當祕書部録内録外等、此人を得たるは斯業に於て國寶的存在であつた。邦人開藏者の爲めに句讀點の新設。祕書部の獨立及録内録外の新入藏。編纂法の大改正。其他舊譯難讀書等、一切老先生を煩はした。次に幹事として全藏句讀の任に當れる人々は、實相圓隨、大小乘諸經全部、高津親義、大小乘律全部及祕書部中知津部、芦津實全、大小乘論全部、櫻木谷慈慈、雜部及緊急應援、以上幹部、外に校合委員約四十人、各宗撰出、校合は四藏對校に付四人を一組となし、麗藏を臺本と爲し、宋元明三本對校異同揭示

(五) 當時經濟界は未だ幼稚時代なりしを以て、印刷製本等非常なる緊縮主義を取り、結局天地より爲霜に至る四十帙、四百十八冊、載録部數 千九百十六部、同 卷數 八千五百三十四卷

明治十三年四月始業、同十八年七月完了、滿五年三月を以て此洪業を成就した。老生は此盛業に一臂を添へたることを光榮とする。尙語るべき話題は豊富であるが茲には只其一端に止め置く。昭和七年五月同圖書館學事報告の巻端に於て

私立成田圖書館一覽

(昭和七年三月末日現在)

館勢要綱

創立 明治三十四年一月十一日  
開館 同三十五年二月一日  
位置 千葉縣成田町成田  
建物坪數 延 三百三十坪餘  
敷地 千二十八坪  
經費(豫算) 一万一千圓  
藏書 十万二千二百十二冊  
職員 七名  
閱覽人員(一日平均) 百三十五人

本館概要

沿草略

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す、現在地は本堂の東に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑はず、されど茲に遺憾とするは、もともと本館閱覽室は圖書館として建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水産物品評會開催に際し、其會場に貸與されたものにして、其後故石川貫首の歐米より歸朝せらる、や僧正の發意により、斷然圖書館を開設するに決し、茲に洋行記念として本館は生れたり。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書齋のもの約七千餘、合計一萬五千冊を移して免も角開館。當時は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閱覽室の四圍に書架を羅列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閱覽人の増加と共に職員も増し三十五年六月には和漢書分類假目錄完成、次いで

私立成田圖書館一覽

三十八年二月より館外貸出を開始、爾來年を逐ふて蔵書増嵩愈々書庫の必要を痛感し、三十九年三月書庫新築、四十年六月九日之が落成式を舉行し此日を以て本館永遠の記念日とすに至る。

蔵書も四十一年に及んで四万冊を超えれば茲に印刷目錄の切要を感じ四十三年十月和漢書分類目錄第一編を刊行し、更に大正三年三月第二編の印刷目錄を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閱覽人の便宜を圖る、降つて大正十三年館長石川僧正物故するに及び直に現貫主荒木僧正後を襲ふて館長となり、同年八月前館長の遺文庫約一万四千冊の移管あり、近くは昭和五年七月豫てより印度哲學の權威者として其名ありたる故木村泰賢博士遺愛の文庫約一千冊（主として洋書）を購入したるを以て蔵書愈々十萬を越え隨つて隣村への團體貸出及小學校學級出張閱覽は固より、當地各教育機關への移動文庫等も逐次敢行し得るに至りたることは一に内容の充實に依るもの云ひ得べく、斯くして彌々地方文化の進展に寄與するに益々その機能を發揮せんを欲す。

◎建物及敷地

本館 木造 延百十五坪餘  
書庫 煉瓦造 延九十坪

附屬建物 木造、煉瓦造 延百二十五坪餘  
敷地 千二十八坪

建物は沿革中に述べた如く、所謂舊物利用のものなれば、決して誇り得べき態のものではない。勿論、改造を要する時機に到達してゐるものであるが、圖書館は學校と異り、年々定員の壓迫を感じるに似つた如く、目に見へての現實難いふことはない。然しながら圖書館もその至寶である書庫に至つては寧ろ學校に於ける教室のそれよりも遙かに増加率の甚しいものである。學校に於ける學生生徒の應募率は、時に多少の消長はあるけれども、圖書館に於ける蔵書の増加に至つては、古往今來消長のあり得べき筈はない。隨つて本館の如きも、比較的古き閱覽室よりも、より新しき書庫の方が現實に困難を感じつ、あるに云ふも、つまり如上の理由に基く所以である。

一昨年、この應急の緩和策として臨時書庫を設けたのであるが小規模の爲僅々一兩年にして既に充満、眞に燒石に水の感がある。

頭記の「本館」を稱するは、主として一二階閱覽室及事務席をいふのであつて、「附屬建物」に於けるは、應接室閱覽人休憩所使丁室、及宿直室、住宅三棟等を指すものである。

尙、敷地は相當廣く、而も樹木鬱蒼稍々暗きに失する程であ

るが、實に庭園的美觀を保つに充分である、

◎經費

○昭和六年度決算額

- (一) 職員給、雜給 五、一八三、〇〇
- (二) 需用費其他 一、三〇二、一二
- (三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等) 三、四七一、〇〇
- (四) 營繕費 五〇二、二八
- 計 一〇、四五八、四二

○昭和七年度豫算額

- (一) 職員給、雜給 五、二〇〇、〇〇
- (二) 需用費其他 一、五〇〇、〇〇
- (三) 圖書費 三、五〇〇、〇〇
- (四) 營繕費 六〇〇、〇〇
- (五) 臨時費 二〇〇、〇〇
- 計 一一、〇〇〇、〇〇

◎藏書

○昭和六年度増加書  
和漢書 一千八百三冊  
洋書 二十一冊  
計 一千八百二十五冊

私立成田圖書館一覽

○昭和七年三月末日現在圖書數

和漢書 九万七千二百三十三冊  
洋書 四千九百七十九冊  
合計 十万二千二百十二冊

日本の出版界が世界有数の地位にあるは、近時日本文化の發展と共に相關事象として刮目するに價するものがある。然し、出版率が多いから強ち良書ばかりは限らぬ。況んや近來の如くスピードデーから感覺的に神經が尖端化して來るに於ては出版價値もこれに伴つて行く傾向がある。隨つて出版率の多い割合に不滅の良書といふのが尠くなつて來てゐる。これに反して數年前洪水の感を呈した謂はゆる圓本が次第に昇格して近時は一圓半乃至二圓、三圓或はそれ以上の豪華的な大事業類の出版を勇敢に企てる様になつて來てゐる。この爲に圖書館もしてこの趨勢を念頭に置いて選擇をする。隨つて購入書の概観としては單行書に比して叢書、全集、辭彙類が比較的購入價値を高めるのは當然である。尙こ、に本館としての特異な点は宗教殊に佛教關係の圖書雜誌を購入せねばならぬ立場にあることである。然し、これはそうするのが又當然の性質であり義務であつて、斯くてこそ將來益々宗教地にある圖書館としての眞價を高める所以であるまいか。現に當館所蔵の雜誌の如き既存の雜誌のみ丈でも其存在價値は遠く全日本に知られ、先刻「潮

「書房」より出版された「佛教論文總目錄」を繕いて見ても、本館所蔵の雜誌が相當大量範圍に亘つて登載され、これに依つて成田へ目指して來る佛教學徒が年を遂ふて其數を増して行くといふ狀勢にある。この一瑣事を以てしても如何に圖書館の特色が社會に與ふる貢獻の大なるかは臆測するに難くはない。勿論、小額の購人費はいへ、特色にのみ重點を置いて一般大衆を顧ぬといふ偏重主義にあらざることを附記する。

職員

Table listing staff members: 館主兼館長 荒木照定, 顧問 高津親義, 司書 成田善亮, 同書 高田定吉, 司書補 小川益藏, 事務員 海瀬健示, 助手 武士田文哉

事務の單位は早く良く、又總般的には少數員數を以て大能率を示すといふのがオフィスの要針と見る。これは單り圖書館のみでなく汎ゆる方面の事務に亘つて通用性のものであらう。ところが、圖書館の事務は内省的で而も極めてデリケートな能力を要する爲め兎角能率に影響を來す怖れがある。そしてそ

の反面には、健康問題も認識せねばならない。この間に處して、本館の如き圖書館の内容及成績に對し比較的僅少の職員を以て事務の大に當りつゝ、あるといふは仕事そのものに全幅の興味を感じ得る所以に外ならぬ。

昭和六年度 閱覽統計

Table showing reading statistics by category: 種類 (種別), 館内 (内館), 館外 (外館), 合計 (合計), 百分比 (百分比). Categories include 隨筆、雜誌、神學、哲學、文學、歷史、地理、統計、法律、醫學、藝術、工業、農業、銀行、海軍、兒童、綜合.

閱覽人員職業別

Table showing reading statistics by profession: 種類 (種別), 館内 (内館), 館外 (外館), 合計 (合計), 一日平均 (一日平均). Professions include 學生、官吏、實業、婦人、兒童、其他.

私立成田圖書館規則

第一條 本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智德啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス
第二條 何人ニテモ滿十二歳以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得
第三條 本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

四五月六七八九十月十一月十二月

午前八時

午後九時

十一月十二日

午前九時

午後八時

第四條 本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々揭示ス
第五條 本館内ノ圖書閱覽ハ總テ無料トス
第六條 圖書閱覽希望者ハ圖書閱覽證ヘ申請ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ書冊ヲ借受クベシ
第七條 貸附圖書ノ員數ハ求覽人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過グルヲ得ズ但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス
第八條 借受ノ圖書ハ閱覽室外ヘ携帯スルコトヲ得ズ
第九條 過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ
第十條 本館ノ規則ニ違背シ又ハ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

- 第十一條 閱覽席ヲ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別テアレバ限リニ他席ヲ侵スベカラズ
- 第十二條 閱覽所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ
- 第十三條 何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラル、トキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ支辨ス
- 第十四條 凡ソ公衆ノ閱覽ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ
- 委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ
- 委託ノ圖書ハ厚ク保護スト雖モ不幸火難盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任ゼズ
- 第十五條 館外圖書貸出規則ハ別ニ之ヲ定ム 以上

◎成田圖書館圖書貸出規則

- 第一條 本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ
- 一、圖書帶出願書ヲ差出スベシ(用紙ハ本館交附)
- 二、圖書帶出願書ニハ本館ノ承認セル保證人ヲ要ス
- 三、帶出料金壹圓ヲ豫納スベシ
- 四、成田中學校、成田高等女學校、成田學園、成田幼稚園、新更會ノ教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
- 五、新勝寺徒弟詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同學校長ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス

- 六、四、五項ノ場合ニハ帶出料ヲ要セズ
- 第二條 本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス
- 第三條 帶出有効期間ハ一ケ年トス
- 第四條 貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ三冊以内洋裝書ハ一冊トス
- 第五條 貸出期間ハ一週間以上三週間以内ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム
- 第六條 期限ニ至リ尙續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
- 但他ニ圖書ノ借覽ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 第七條 特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ
- 第八條 帶出權ヲ得タルモノニシテ他所ヘ轉居シタル場合又ハ改名シタル場合ハ其都度届出ヅベシ
- 第九條 保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ
- 第十條 左記ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
- 一、大部ノ圖書
- 二、各學科ノ事案、辭書、類書、書目、新聞
- 三、館内閱覽人ノ請求多キ圖書
- 四、貴重高價ナル圖書
- 五、新刊圖書ハ二ヶ月乃至三ヶ月後定期刊行書雜誌類ハ裝釘ノ上ニアラザレバ貸出セズ

- 第十一條 借覽期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尙返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニ依リ再ビ之ヲ許可セザルベシ此場合ニ於テハ帶出圖書ノ代金ハ保證人ニ辨償セシムベシ
- 第十二條 借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ
- 第十三條 圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス
- 第十四條 圖書帶出ヲ中止セントスルトキハ其旨届出ヅベシ
- 但帶出料ハ返戻セズ
- 第十五條 圖書帶出有効期間満期トナリ引續キ希望ノモノハ再ビ帶出願書ヲ差出スベシ 以上

情報

◎本縣圖書館圖書分類表の新制

圖書館の分類表並に事務様式の統一に關する問題は、屢々當事者間に論議されてゐるが一般に其實行性の乏しいこゝは洵に遺憾とするものである。

然るに本縣圖書館協會が主体となり、差當り縣下圖書館分類表の統一を期する目的を以て千葉、野田、銚子、成田の各圖書

館より實行審査委員を擧げ、昭和六年十二月より調査研究を重ねた結果、漸く完成の域に達し得たことは欣幸とする處である。

この種の企劃はその聲こそ夙に全國に於て謳歌されては居れこれが實行に着手したのは實に異數の特例として誇るに足るものと思ふ。

やがて實施の曉は縣下圖書館目錄の体系が統一され、當事者も閱覽者も共に利便を増すべきは疑を容れぬ處である。

◎本館と小學校との連絡

讀書の被吹まふ點については、成人間に之を力むるよりも寧ろ幼年の時代より書物に親しむの習慣を胚胎せしむるの要あるは、今更言を俟たない事柄である。それについては先づ圖書館と小學校との連絡を第一に考へなければならぬ。

この點を本館は深く考慮し、先年來小學校と協定の結果、差當り五年級以上の學童を、各級交替にて、殆んど隔日位に登館せしめ、約二時間自由讀書の良習を養成し、一方智識を涵養する傍ら、圖書館の實際智識を體得せしむるの方法を講じつゝ、あるが、其結果成績頗る良好である。

歐米諸國にては既に、實行し居る處も多々ある模様なるが、我國としては未だその例稀にして、小學校圖書館の極めて幼弱なる現今、大いに各地通俗圖書館の進んで實行すべき性質のものであらうと思ふ。

主要錄事

昭和四年四月十九日 主任高井親海氏辭任。  
 六年四月十九日 故木村泰賢博士文庫整理着手。  
 五月三日 新更會主催新更學院文學部開講。  
 六月六日 日本童話聯盟成田支部主催の『子供大會』開催。  
 六月十四日 新更學院文學部第一學期終講。  
 七月十八日 第二學期開講。  
 九月八日 第三回本縣圖書館協會總會開催。  
 九月廿五日 第四回縣主催圖書館講習會開催。講師は文部省  
 九月廿六日 圖書館講習會所講師 太田爲三郎氏。  
 九月廿七日 圖書及館内整理施行  
 自九月廿八日 至十月七日

昭和六年年度圖書寄贈者芳名

青森縣立圖書館	石川縣立圖書館	印旛郡國語研究會	大塚篤三
淺井儀助	石川甚兵衛	上原虎之助	小川益藏
淺草寺教學部	石橋武四郎	江波戶治義	大和田齋眼
淺野同族株式會社	岩佐善太郎	大倉邦彦	小野寺欽吾
荒浪市平	岩本水明樓	大阪府掃度課	海軍協會

十月四日 新更學院第一回特別講演會開催。  
 十一月廿一日 讀書週間行事として郷陽會第二回洋画展。併せて  
 十一月廿三日 彫塑特別展。成田中學。女學校。小學校  
 十二月七日 縣圖書館協會主催 第一回分類表統一調查會を縣  
 圖書館に開催參加。  
 十二月十四日 日本圖書館協會發起的滿洲軍慰問圖書募集に着手。  
 昭和七年十一月十八日 縣圖書館協會主催 第二回分類表統一調查會を  
 縣圖書館に開催參加。  
 一月廿一日 滿洲軍慰問圖書募集締切  
 一月廿二日 滿洲軍慰問圖書二百三十四冊、雜誌四百九十二冊  
 帝國圖書館宛發送。  
 二月七日 日本童話聯盟成田支部主催の童話會開催。  
 二月十日 當町主催建國祭に因む講演會開催。  
 二月廿二日 縣圖書館協會主催第三回分類表調查會を本館に  
 二月廿三日 開催。

學習院圖書課	小林力彌	高田芳枝	東京天文臺
鎌田共濟會	近藤紀念海軍財團	高津かな	東京府
上山勸太郎	西郷從德	高橋病院	東京府學務部社會課
川口貴一	埼玉縣立圖書館	拓務省拓務局	東京物理學校
川瀨一馬	堺市役所	竹本伊一郎	東京帝國大學
川村昌助	堺市圖書館	田村實	東洋協會
川村太助	佐々木基	築紫熊七	東洋文庫
榊原昌助	佐原中學校	智山派教化事業聯盟	東洋文庫
簡易保險局	佐原町役場	千葉縣學務部	鳥取縣立圖書館
木島莊太郎	三共株式會社	千葉縣教育會	富山市立圖書館
木村善吉	鹽谷孝治郎	千葉縣圖書館	內閣統計局
協同調會	下宮皇學館	中央報德會	永井義憲
京都帝國大學圖書館	神宮皇學館	朝鮮總督府通信局	奈良女子高等師範學校
京橋圖書館	新更會	重陽會支部	成田信藏
金融研究會	水村陽太郎	坪井德光	西宮市立圖書館
宮內省圖書寮	生命保險會社協會	帝國人造絹糸株式會社	日本繪画出版業組合事務所
黑田亮	全國無盡集會所	帝國水難救濟會	日本興業銀行
慶應義塾豫科會	泉瑞敏正	帝國水難救濟會	日本赤十字社
京城心理學報發行所	相馬半治	寺內博物館	日本佛敎學協會
啓明會事務所	大日本生產黨	東京市電氣局	忍頂寺務
神戶高等工業學校	台北高等商業學校	東京市電氣局	函館圖書館
弘法大師御遠忌事務局出張所	臺灣總督府圖書館	東京市電氣局	
互尊文庫		東京市電氣局	

私立成田圖書館一覽

初谷	豐作	二	藤山工業圖書館	二	水野葉舟	一	陸軍省
濱野	照貫	一	辨理士會	二	村山吉松	一	陸軍大臣官房
光丘	文庫	一	寶仙寺	一	文部省社會教育局	四	陸軍試驗場
日比谷	圖書館	二	本多元俊	二	山口圖書館	一	林業試驗場
被服	協會	一	前田侯爵家	一	山口論助	二	露西亞通信社
福田	了介	一九	增田榮	一	山本堂書店	三三三	露西亞通信社
豐山	宗務所	一	丸熊太郎	一	山中進治	二	渡邊千治郎
藤崎	源一郎	一	三浦博智	二	有終會	一四	以上
藤崎	公道	七	三浦義道法律事務所	一	賴山陽先生百年紀念會	一	

六昭和年度和雜誌新聞寄贈者芳名 (毎号寄贈者のみを掲ぐ)

明るの家社	明るの家	内 觀	潮田健二	新聞及新聞記者	クリチツク
石川縣立圖書館	邦文外國雜誌	日本及日本人	英語青年社	海瀨健示	高知縣立圖書館
石川縣立圖書館報	三田評論	邦文外國雜誌	英語青年	檄 檄	高知縣立圖書館報
石川甚兵衛	三 越	邦文外國雜誌	大阪教育研究所	九十九	神戸市立圖書館
外交時報	石川富士雄	邦文外國雜誌	教育パンフレット	海防	神戸圖書館增加書月報
經濟情報	れきしとちり	邦文外國雜誌	大阪出版社	海防	高野山時報
國民	上原虎之助	邦文外國雜誌	英文大阪每日學習費	海防	高野山時報
國民學會雜誌	國民教育	邦文外國雜誌	大阪商船株式會社	海防	國民精神
大日本國防義會々報	南 柯	邦文外國雜誌	大竹又次郎	海防	國民精神

時事新報成田專賣所

時事新報	而眞會	密宗學報	實業之世界	實業之世界	宗教の日本	宗教の日本	十善會	十善會	修驗社	修驗社	淨化會	淨化會	淨土研究會	淨土學	新興社	新興社	新勝寺收納方	日本勸業銀行月報	神變社			
鈴木德治	藝術共和國	須田寬治	週刊朝日	生活社	凡人の力	清觀發行所	清 觀	全國無盡集會所	無盡通信	淺草寺社會部	淺草寺時報	大小タイムス出版所	小タイムス	大タイムス	大連圖書館	書 香	拓務省拓務局	拓務時報	高田定吉	東京毎夕新聞	高田芳枝	
話方研究	婦人俱樂部	智山公論社	智山公論	智山派宗務所	智山派宗報	智山派宗報	智山派宗報	千葉縣社會課	千葉縣社會課	千葉縣社會教育協會	千葉縣社會教育協會	千葉縣消防新聞	千葉縣消防新聞	千葉縣統計協會	統 計	千葉縣圖書館	千葉縣圖書館	千葉縣圖書館協會	千葉縣圖書館協會	千葉縣圖書館協會	千葉縣農會	
愛 土	千葉高等女學校	松 嶺	朝鮮總督府	調查月報	朝鮮總督府圖書館	朝鮮の圖書館	土筆社	帝國水難救濟會	帝國水難救濟會	帝國圖書館	帝國圖書館	天理圖書館	天理圖書館	東京朝日新聞調查部	讀書標	東京科學博物館	自然科學と博物館	東京金物新報	東京金物新報	東京堂書店	東京堂書店	
東京市養育院	東京市養育院月報	東寺教報社	東寺教報	東洋協會	東 洋	特許公報	特許公報	鳥取縣立圖書館	鳥取縣立圖書館	行方喜一	經濟知識	奈良縣立圖書館	奈良縣立圖書館	成田孝子	婦女界	成田高等女學校	校友會雜誌	成田中學校	成田中學校	成田信	幼年の國	日本弘道會

立私成田圖書館一覽



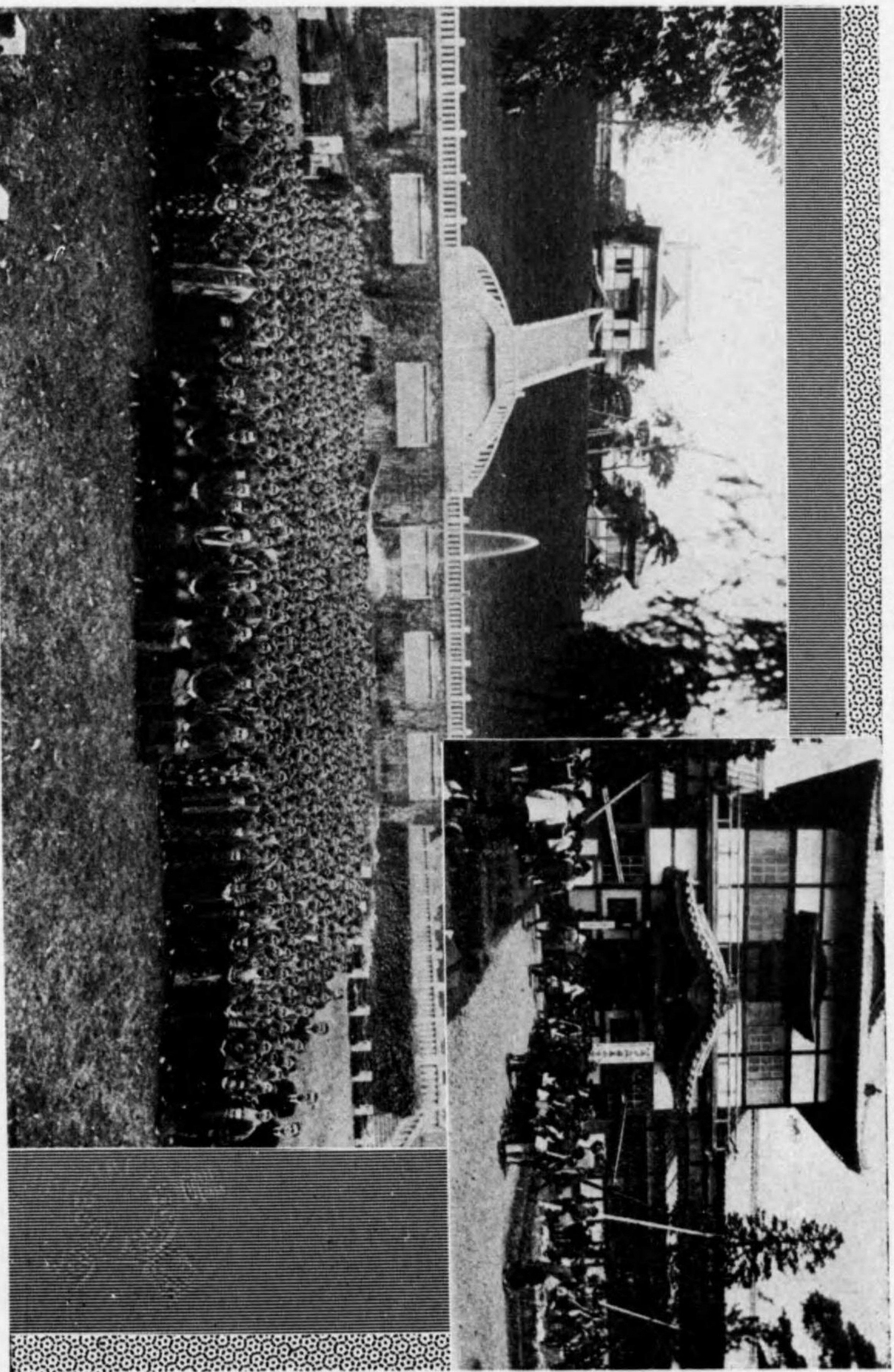
私立成田圖書館一覽

- |             |            |          |        |           |
|-------------|------------|----------|--------|-----------|
| 弘道          | 千葉醫學會雜誌    | 房總新聞社    | 日本思想   | 龍谷大學眞宗學教室 |
| ぼんだね社       | 治療及處方      | 房總新聞     | 森江書店   | 眞宗學々報     |
| ぼんだね        | 治療藥報       | 房總日日新聞社  | 三寶     | 隣人の友社     |
| 日比谷圖書館      | 東京醫事新誌     | 房總日日新聞   | 山中進治   | 隣人の友      |
| 東京市立圖書館と其事業 | 日本消化器病學會雜誌 | 法華會      | 安房同人   | 早稻田大學校友會  |
| 藤崎公道        | 日本婦人科學會雜誌  | 法華會      | 謠曲界發行所 | 早稻田學報     |
| 結核          | 皮膚科及泌尿器科雜誌 | 前橋市立圖書館  | 謠曲界    |           |
| 細菌學雜誌       | ミューンヘンネル   | 前橋市立圖書館報 | 養正時評社  |           |
| 兒科雜誌        | ゲチニツシエ     | 滿鐵社員會    | 養正時評   |           |
| 實驗治療        | オツメ        | 協和       | よろこび會  |           |
| 社會醫學雜誌      | ヘンシユリク     | 無水庵      | よろこび   |           |

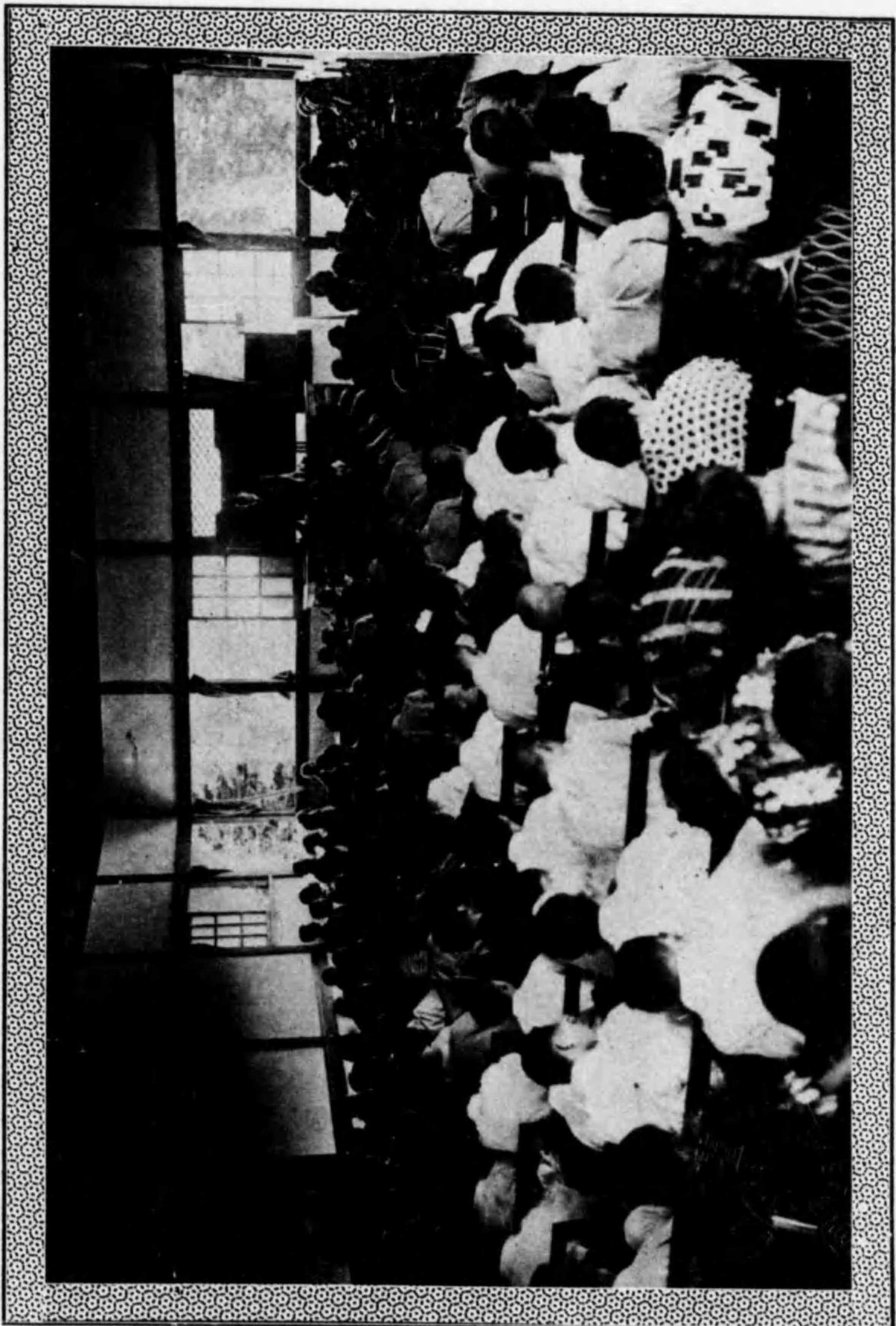
新更會一覽

趣意書	一
會則	二
役員及職員	三
平面圖	五
事業報告	六
新更學院普通部學則	十六
新更學院普通部職員	十七
支部分布現在數	廿二
會員分布現在數	廿三

會覽展術美藏所山田成回一第



生講聽會習講子女回一第



## 新更會一覽

### 趣意書

新更會は、成田山現首荒木照定師の純意に依り昭和三年六月五日を以て發會せられたる修養團體である。

現今我國の世相が頗る不安の状態に陥りつゝ、あるこゝは識者の等しく痛嘆する所である。蓋し明治末葉以來、國民精神の上一種の暗影を生じ來り爲めに人心漸く輕佻懶惰に流れ上下反目し同胞離反するの傾向日々に強く、延いて國民的團結力の上に甚だ面白からざる結果を生ずるに至つた。これ蓋し我國の長き模倣文明に依る一の惡結果云ふべきものにして、今や我國は、正に模倣時代より一步創造の時代に入らねばならぬのである。

畏くも今上陛下は朝見式の御詔勅に「創造ニ勗メヨ」此の御詞を下し賜はつた。此御詞は實に現代の我國民の向ふ所を明らかに指示しにられたものである。吾人は此の聖旨を体して國民意識の向ふ所を明らかにし、社會人心の不安を除去して、茲に新日本の文化を創造建設し、以て聖慮を安んじ奉るこゝを勗めねばならぬのであつて、本會設立の所以も亦茲にある。

凡そ一國風教の刷新、精神の振興は、健實なる教育にまたねばならぬ。然るに従來我國に於ては、教育は單に學校教育のみを指すものなるが如く考へられ、學校以外の教育の甚だ重大なる事を看過するの傾向いよ／＼濃厚なり、従つて教育は知識偏重主義に流れ、健實なる人格の養成は日々に退歩し、遂に社會的不安を惹起するに至つたのである。

蓋し、健實なる人格の涵養、社會の精神的覺醒は、是等學校に於ける知的教育のみに依頼すべきものではなく、日常生活に於ける社會的交渉の過程に於て、各自の修養練磨に依つて達成せらるゝものである。社會に於ける吾等人間の關係は、之を教育的に見るならば、必ず教へ教へらるゝ所の關係にあるものにして、社會教育の重大なるこゝは茲に存するのである。従つて學校生活を終りて此の社會生活に第一步を乗出せる所の所謂成人(青年)に對する教育は最も重大である。何となれば、彼等青年は、社會の教へ教へられる所の世界に入りて、其の社會教育の一要素を構成する所の人々なるが故である。かくて此成人教育なるものは、漸く近時世人の注意を喚起し來れるのであるが、この成人教育なるものは、主として知的なる學校教育を

補ふと同時に、社會へ出て社會教育の一要素となり教育的活動を開始するにいたる所の成人を對象として、社會生活上に必要な精神的訓練を爲し、知的人格よりも「正しき國民」にしての人格を養成せんとするものにして、國民精神の振興も亦是の如き教育の力にまつこと甚だ大である。

新更會々則

- 第一條 本會ハ健全ナル皇國傳統ノ思想ト鞏固ナル宗教的信念トノ下ニ國民精神ヲ作興スルヲ以テ目的トス
第二條 本會ハ新更會ト稱ス
第三條 本會ハ第一條ノ目的ヲ達成スル爲ニ左記事業ヲ行フ
一、合宿講習會ノ開設、會員相互ノ精神的團結向上ノ爲ニ指導者ト會員トノ寢食ヲ共ニスル講習會ヲ毎年二回以上開催ス
二、成人講座ノ開設、會員ノ研究修養ノ爲ニ隨時講義會ヲ開催ス
三、修養講演會開催、會員及一般公衆ノ爲隨時講演會ヲ開催ス
四、郷土史料ノ陳列、史料中文書ニ屬スルモノ又ハ歴史、

技藝ニ關スルモノヲ努メテ蒐集シ新更會館ニ陳列シテ會員及公衆ノ閱覽ニ供ス
五、雜誌及圖書ノ刊行配布、本會ハ月刊雜誌「新更」及其ノ他ノ圖書ヲ刊行配布ス
六、圖書閱覽及貸出、成田圖書館利用ニ關スル各般ノ施設
七、會館ノ貸與、本會ノ目的ニ適合スル各般ノ集會等ニ本會館ヲ貸與ス、但シ長期ニ渉ラサルコト
八、其他第一條ノ目的遂行ノ爲ニ必要ナル事業ヲ行フ
第四條 本會ノ會員ハ左ノ三種トス
正會員、成規ノ手續ヲ經テ入會シタル者
贊助會員、篤信者ニシテ本會ノ目的ヲ翼賛スルモノ
名譽會員、高僧名士ニシテ本會ノ特ニ推薦シタルモノ

- 第五條 本會々員タラントスルモノハ會員二名以上ノ紹介ニ依リ理事會ノ承認ヲ要ス
第六條 本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク
一、總裁 一名
一、會長 一名
一、理事 八名(内二名ヲ常任理事トス)
一、評議員 若干名
一、顧問 若干名
一、主幹 一名

一、幹事 三名(内一名ヲ常任幹事トス)
一、書記 若干名
第七條 總裁ハ成田山貫首ヲ推戴ス、會長理事ハ評議員中ヨリ互選ス

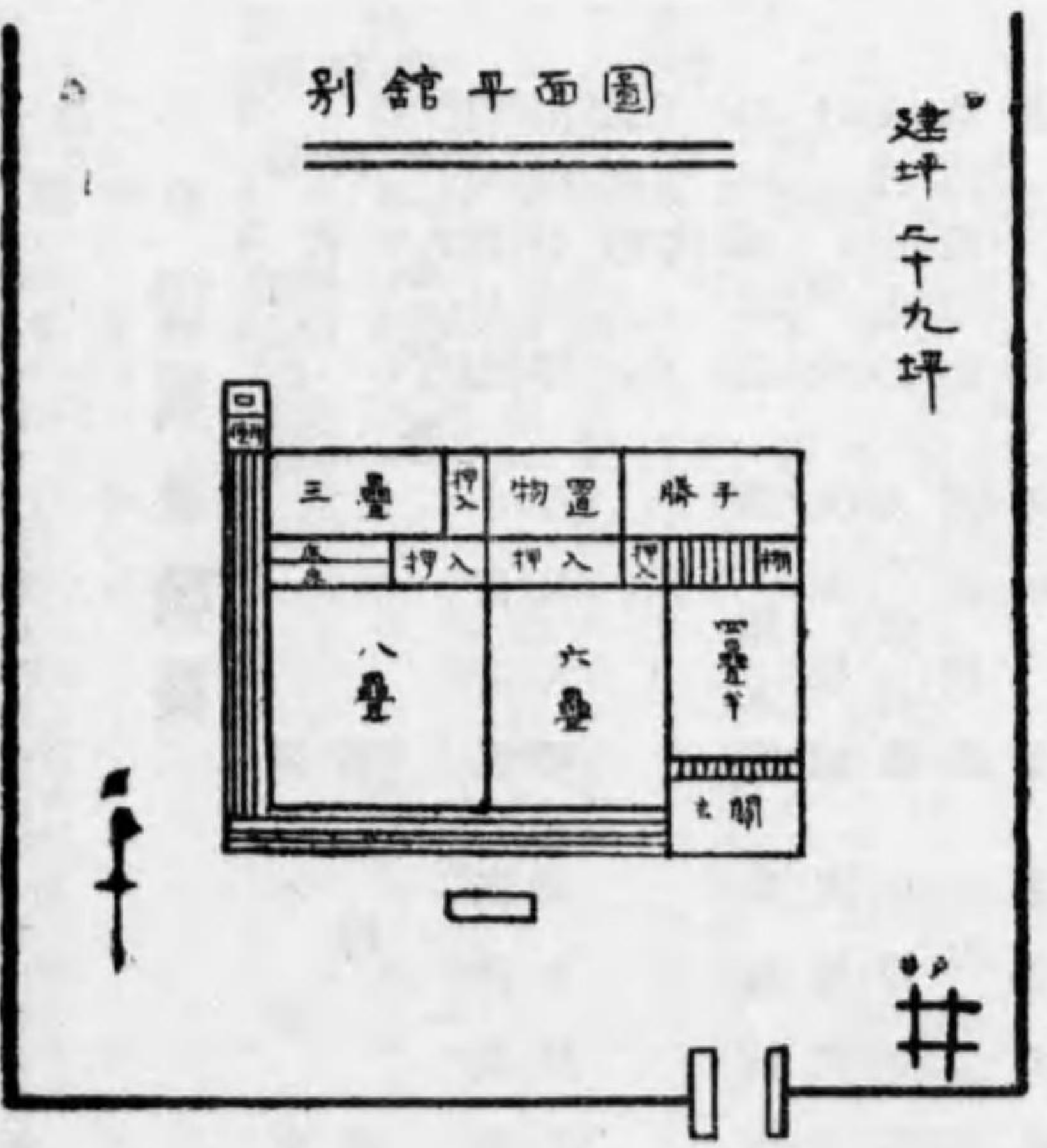
役員及職員

Table listing officers and staff members including 總裁 (成田山貫首), 會長 (荒木照定), 理事 (小野寺弘), and various staff members like 岩館熊太郎, 大友惟誠, etc.

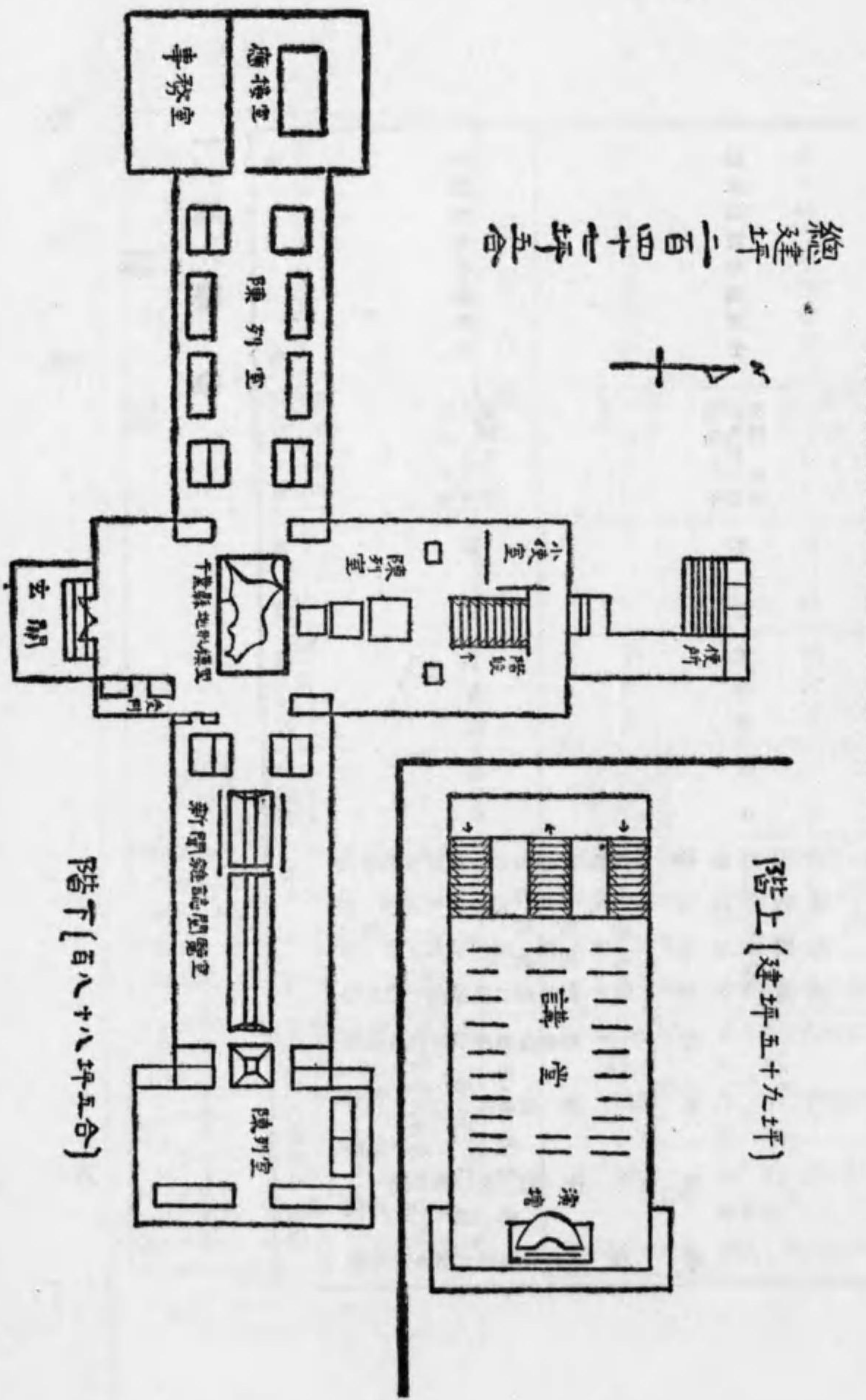
新更會一覽

秋山照英	佐藤國二	木内民雄
木内喜右衛門	三橋金太郎	官田半左衛門
官崎廣	平山清助	諸岡勝太郎
關川藤右衛門	兒玉五郎	
顧問	澤田五郎	
主幹		
幹事(○印常任幹事)		
大竹照真	渡邊和一	○神崎照惠
諸岡市郎左衛門		
書記		
石橋廣	羽入一男	大野政治
給仕	海瀬三郎	

別館平面圖



本館平面圖



一、講習會

會名	月日	主催	場所	聽講者	講師	講座
第四回青年講習會	昭和六年 自八月二日至 同十二月八日	本會	本會館	五〇	高橋正 增田觀 兒玉五 澤田九 廣田亮 吉田泉 佐藤城 中山國 山崎雄 細山常 瓜生久 瓜生末 瓜生吉	國體 人格 國民 的的 修信 會業
第五回青年講習會	昭和六年 自八月八日至 同八月三十一日	本會	本會館	四五	神崎照 大崎照 諸岡左 渡邊和 澤田五 澤田一 澤田五 澤田一	青年 指導 社會 衛生

二、夏季大學

講習會名	月日	主催	場所	聽講者	講師	講座
第六回青年講習會	昭和七年 自三月三日至 同三月三十一日	本會	本會館	二 三	佐藤川 石山崎 中山崎 大田時 高島昭 廣岡之 廣岡重 小笠原 高野健 伊藤正 伊藤實 秋山實 佐藤五	日本 本國 歷史 の魂 に就 農作 租稅 社會 生活 の根 本精神
第一回女子青年講習會	昭和六年 自十一月三日至 同十二月三十一日	本會	本會館	一 四 四 五 四 四	加藤昇 高野健 伊藤正 伊藤實 秋山實 佐藤五 澤田五	婦人 生活 の修 養生理 の衛生

講習會名	月日	主催	場所	聽講者	講師	講座
第三回新更夏季大學	昭和六年 自八月二日至 同八月八日	本會	本會館	二 三 九 一 六 七 二 提 出 數 券 = 依 ル	中島德 加藤慶 矢吹樹 加藤樹 高作樹 春野徹 芝田心 水野九 白鳥十 兒玉九 小川太 東野太 四王延 滿川天 澤田五	社會生活 の形態 と精神 新日本 の思想 社會教 育の精 神 大佛の 教本 校制の 本質 教育の 中心と しての 教育の 意義 東方上 の教育 史の演 進 現下不 況に就 我國の 地位

計	無公事僧軍商工農學教						職
	務	員	侶	人	業	業	
	職	吏	員	侶	人	業	郡
二						二	東葛飾
六						六	千葉
一						一	市原
一九二	一	二	二	九	三	六	印旛
二五	一					一七	香取
四						四	海上
七		一				五	匝瑳
五						四	山武
一						一	長生
一						一	君津
一五						二	安房
四						三	茨城
二六三						一二	計
	三	三	三	九	三	一四	

職業別 (八月四日)

計	無公事僧軍商工農學教						職
	務	員	侶	人	業	業	
	職	吏	員	侶	人	業	郡
五						四	東葛飾
八						六	千葉
一						一	市原
一九九	一	三	八	三	九	八	印旛
一九						一五	香取
四	一					三	海上
九		二				四	匝瑳
一六		二				五	山武
一						一	長生
一						一	君津
一五		一				二	安房
四						三	茨城
二八二						一〇	計
	一	五	九	七	九	一七	

職業別 (八月三日)

計	無公事僧軍商工農學教						職
	務	員	侶	人	業	業	
	職	吏	員	侶	人	業	郡
二						一	東葛飾
一〇						六	千葉
							市原
一七二	一	二	一	九	三	四	印旛
一四						一九	香取
四						四	海上
九		二				五	匝瑳
六						二	山武
二						二	長生
一						一	君津
一五		一				二	安房
四						三	茨城
二三九						一一	計
	三	二	三	九	三	二九	

職業別 (八月二日)

計	無公事僧軍商工農學教						職
	務	員	侶	人	業	業	
	職	吏	員	侶	人	業	郡
二二						二〇	東葛飾
三九						三一	千葉
四						四	市原
一・二二〇	一	二	八	五	二	四	印旛
一〇六						八四	香取
二五	二					二三	海上
五三		五				二六	匝瑳
五八		二				三一	山武
八						八	長生
七						七	君津
一〇二	三					七	安房
二八						四	茨城
一・六七二						六	計
	二	二	九	五	二	一三	

(聽講券提出數ニ依ル。以下皆同)

第三回新更夏季大學聽講者職業別一覽表 (八月二日ヨリ八日マデ)

新更會一覽

職業別 (八月五日)

計	無公事僧軍商工農學教					職 郡
	務	侶	業	業	生	
三					三	東葛飾
四					四	千葉
一					一	市原
一六七	二二七	五三三	五二四	八九		印旛
一三			二	一		香取
四	一			三		海上
一〇			六	四		匝瑳
一五			一	四		山武
一				一		長生
一	一					君津
一五	一	一	二			安房
四				四		茨城
四				四		海上
二〇五	一三三	二九三	三一〇	三八		計

職業別 (八月六日)

計	無公事僧軍商工農學教					職 郡
	務	侶	業	業	生	
四					二二	東葛飾
七					五二	千葉
一					一	市原
一八六	一一二	四六〇	四一〇	五四		印旛
五				二	一三	香取
二					二	海上
六				二	四	匝瑳
六				二	四	山武
七				一	二四	長生
一					一	君津
一四				一	二二	安房
四					四	茨城
二四七	一一二	五六〇	四一一	五二		計

職業別 (八月八日)

計	無公事僧軍商工農學教					職 郡
	務	侶	業	業	生	
三					三	東葛飾
二					二	千葉
一五四	一一二	二〇七	一三三	六五三	七	印旛
一二					一一	香取
三					三	海上
五					五	匝瑳
四				三	一	山武
一					一	長生
一					一	君津
一五				一	二	安房
一五	一			一	二	茨城
四					四	茨城
一九九	一一三	三〇七	一三〇	八八	三九	計

職業別 (八月七日)

計	無公事僧軍商工農學教					職 郡
	務	侶	業	業	生	
三					三	東葛飾
二					二	千葉
一五四	一一二	二二九	三三三	六三三	七	印旛
八					八	香取
七				四	三	海上
六				二	四	匝瑳
一					一	山武
一					一	長生
一	一					君津
一五	一	一	二			安房
四					四	茨城
四					四	海上
二〇五	一一三	二九三	三一〇	八八	三八	計

新更會一覽



第三回新更夏季大學聽講者郡別一覽表

郡	東葛飾	千葉	市原	印旛	香取	海上	匝瑳	山武	長生	君津	安房	茨城	計
職	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二
一日平均	三・〇	五・六	〇・五	一七四・〇	一五・〇	三・六	七・六	八・〇	一・一	一・〇	一四・二	四・〇	二三八・八
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二
八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五
計	二二	三九	四一	二二〇	一〇六	二五	五三	五八	八	七	一〇二	二八一	一六七二

三、研究會

會名	月日	主催	場所	參加者	課題
俳句會	每月二十五日	本會	本會館	二〇(平均)	作句講評
短歌會	每月第一日曜	本會	本會館	二五(平均)	作歌講評

四、講演會

會名	月日	主催	場所	聽衆	講師	講題
支部出張講演會	昭和六年三月一日	本會	八街町二州小學校	一〇〇	高神覺昇	宗教の出發點
同	三月四日	同	久住小學校	五〇	神崎照惠	宗教の青年と處女
同	三月八日	同	遠山小學校	一〇〇	澤田五郎	農村の青年と處女
陸軍紀念日講演會	三月十日	同	本會館	五〇〇	後藤大佐	印度獨立運動に就て
支部出張講演會	三月十五日	同	茨城縣阿波村小學校	五〇〇	吉植庄亮	日露戰爭回顧談
同	同	同	山武郡松尾町女學校	二〇〇	澤田五郎	農業經營に就て
同	三月二十一日	同	西久住支部小學校	一〇〇	澤田五郎	農村青年の自覺
同	三月二十五日	同	豐住小學校	七〇	神崎照惠	婦人々家庭
同	三月二十八日	同	公津小學校	一〇〇	澤田五郎	農村振興論
同	三月三十一日	同	富里小學校	二〇〇	兒玉九郎	青年の自覺
同	四月八日	同	遠山小學校	一〇〇	佐藤國二	我とは如何なるものか
同	五月十日	同	根郷小學校	一〇〇	片山長雄	國體に就て
同	八月十日	同	久住小學校	一〇〇	神崎照惠	日本主義の權化補正
同	八月二十四日	同	根郷小學校	一〇〇	佐藤國二	社會連帶意識
同	八月二十八日	同	山武郡大平村小學校	一〇〇	佐藤國二	國民精神に就て
同	同	同	同	同	同	青年の修養

支部出張講演會	九月十三日	本會	君津郡飯野小學校	一五〇	澤田五郎	清	文明心
同	九月十九日	同	本會館	二〇〇	佐藤恒二	南支事情	
新更學院講演會	十月四日	同	成田圖書館	七〇	石川富雄	古事記に就て	
副業指導講演會	十月十二日	同	本會館	七〇	伊藤公平	平安朝史に就て	
支部出張講演會	十一月十五日	同	本大須賀村小學校	二〇〇	高野覺昇	トマト加工に就て	
同	十二月十三日	同	久住村小學校	二五〇	澤田五郎	農村青年の修養	
同	十二月十八日	同	本會館	四五〇	赤地濃	農村振興	
同	十二月二十日	同	茨城縣大須賀	三〇〇	滿川龜太郎	滿洲事變に就て	
同	十二月二十七日	同	更科村小學校	一〇〇	吉植庄亮	滿洲問題と食糧自給に就て	
同	昭和七年一月八日	同	本大須賀村小學校	二五〇	佐藤清勝中將	滿洲問題	
同	一月二十三日	同	中郷村小學校	二五〇	兒玉五郎	滿洲問題	
同	一月二十七日	同	川上村小學校	二五〇	兒玉九郎	滿洲問題	
建國祭講演會	二月十日	同	成田圖書館	七〇	石川富雄	建國祭に就て	
支部出張講演會	二月七日	同	富里村小學校	一五〇	兒玉九十	滿洲問題	
同	二月十三日	同	中郷村小學校	五〇	永野健	トマト栽培について	

五、新更學院 (文學部)

同	二月二十日	同	八街村三州小學校	六〇	廣岡城泉	新日本の青年
同	二月二十一日	同	茨城縣浮島村小學校	二〇〇	兒玉九十	滿洲問題
同	三月十五日	同	茨城縣阿波村小學校	三〇〇	佐藤清勝中將	滿洲問題
同	三月二十日	同	久住村小學校	一五〇	兒玉九十	滿洲問題
同	三月三十一日	同	遠山村小學校	二〇〇	佐藤國二	日本青年の使命

新更學院文學部	自昭和六年六月六日至十一月三十日 毎夕六時開講 日曜祭日休業	本會	成田圖書館	一五名	增田正照 岩崎真男 神崎照正 高井照正 川崎照正 廣川通海 石富五郎 佐藤健次 大石健次 三山門談	國民道徳論 (獨逸語) 佛敎概論 佛敎史 日本宗敎史 平安宗敎史 古事記講讀 增鏡講讀 春秋左傳講讀 論語講讀 英語講讀
---------	--------------------------------	----	-------	-----	---	--

### 新更學院普通部學則

#### 第一章 總則

第一條 本學院普通部ハ新更會ノ趣旨ニ基キ短期間ニ中等程度ノ諸學科ヲ教授シ兼テ日本臣民トシテノ德性ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第二條 本學院普通部ハ修業年限ヲ一ケ年トス

第三條 一年ヲ三學期ニ分ツ  
 第一學期 四月十日ヨリ 七月三十一日マデ  
 第二學期 九月一日ヨリ 十二月二十五日マデ  
 第三學期 一月十日ヨリ 三月二十日マデ

第二章 學科課程、授業時間及休日  
 第四條 學科課程及授業時數左ノ如シ

國語	佛	教	身	時數	一	學	年
				課	一	程	年
三	一	佛	典	講	讀	中	學
課	二、三、四、五	學	年	程	年	年	年

漢文	三	中學一、二、三、四、五學年ノ
英語	四	中學一、二、三、四、五學年ノ
數學	二	代數、幾何
歷史	二	本國、外國、地理、地史、理史
地理	二	本國、外國、地理、地史、理史

第五條 休日ハ左ノ如シ  
 大祭祝日 日曜日  
 春期休業 四月一日ヨリ 五月三十一日ニ至ル  
 夏期休業 九月一日ヨリ 九月十五日ニ至ル  
 冬期休業 十二月二十一日ヨリ 二月十日ニ至ル

第三章 入學、退學、授業料、罰則

第六條 本學院普通部ニ入學シ得ベキ者ハ滿十四才以上ノモノトス

第七條 入學志願者ハ規定ノ入學願書ニ履歷書及戶籍抄本ヲ添ヘテ差出スベシ

第八條 入學許可ヲ得タル者ハ在學證書ヲ差出スベシ  
 保證人ハ父兄、親戚ノ一家計ヲ立ツル者又ハ身許引受人

### 新更學院普通部職員

院長	荒木照定
主幹	澤田五郎
幹事【常任】	神崎照惠
幹事【常任】	大竹照真
幹事	諸岡市郎
幹事	渡邊和一
書記	石橋廣一
書記	羽入政治
書記	大野治
授業科目	【昭和六年度開講ノ分】
修身	澤田五郎
國語	石橋廣一
漢文	神崎照惠
英語	大竹照真
數學	【代數 幾何】
歷史	大野治
地理	寺野政一
佛地	峰川照賢
佛外講話	渡邊和一
佛外講話	諸岡市郎
商業	諸岡市郎

ニ限リ當該生徒在學中ニ係ル一切ノ事項ニツキ其責ニ任ズベキモノトス

第九條 退學セント欲スル者ハ保證人連署ヲ以テ出願スベシ

第十條 授業料ハ毎月一圓トス 但シ八月ハ授業料ヲ徵收セズ

第十一條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ除籍ス  
 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ミナシト認メタル者  
 二、引續キ一ケ年以上欠席シタル者  
 三、正當ノ理由ナク引續キ一ケ月以上欠席シタル者  
 四、出席常ナラザル者

第十二條 生徒ニシテ規則命令ニ違反シ學院内ノ風紀ヲ害シ又ハ生徒ノ本分ニ背キタル者ハ其ノ輕重ニヨリ左ノ懲戒ヲ加フ

加フ  
 誹責、謹慎、停學、退學、

第四章 試驗、卒業

第十三條 試驗評點ハ凡テ一科目一百點ヲ以テ滿點トス

第十四條 平均點六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ修了證書ヲ授與ス

第十五條 一學年ヲ通ジテ合格シタル者ヲ卒業トシ卒業證書ヲ授與ス

成田町	普通郡昭和七年入學生徒表	酒々井町	遠山村	櫻井金藏
大木勇	大木正作	同	公津村	青柳吉
奥村銀	奥村正也	成田町	酒々井町	相正治
杉井雅	杉井雅也	同	成田町	加藤榮三
小林良	小林良吉	同	成田町	普通郡第二學年生徒表
伊達好	伊達好吉	同	同	渡邊正司
加藤藤	加藤藤好	同	同	坂上倉之助
正木健	正木健安	同	同	同
安原祐	安原祐雄	同	同	同
齊藤春	齊藤春夫	同	同	同
遠藤春	遠藤春夫	同	同	同

六、展覽會

會名	月日	主催	場所	觀覽者	内容	容	出品點數
新更洋齒會	自同八月八日至同八月八日	本會館	本會館	四、〇〇〇	軸物三十二本、刀劍物三十二本、能面三十二點、卷物古寶經十二點、漆器、陶器十二點、其他十二點	一五〇	一八
第一回成田山所藏美術展覽會	自四月十二日至五月十八日	本會	本會館	四三、〇四七	同上	一五〇	一八

七、映畫會及音樂會

會名	月日	主催	場所	觀覽者
母と子供の會	昭和六年三月六日	本會	成田幼稚園	三〇〇
陸軍紀念日映畫會	昭和七年三月十日	在本郷軍人會	小學校々庭	二、〇〇〇

八、出版物

書名	著者名	發行所	發行日	發行部數	種目
大乘佛教の根本精神	高井觀海	同	二月十日	二〇〇	パンフレット
史學上より見たる我國の地位	兒玉九十	同	同	同	同
亞細亞太平洋及日本	滿川龜太郎	同	同	同	同
續方の指導に就いて	水野葉舟	同	同	同	同
日本國体論	澤田五郎	同	同	同	同
月刊新更	新更會編纂	同	一月一日	三〇〇〇	同
現代日本の研究	同	同	每月十日	三・七〇〇	同
我國の農業恐慌と其の打開策	法學博士 東郷 實	同	昭和七年二月五日	五〇〇	圖誌
戦争か平和か	陸軍中將 四王天延孝	同	二月十日	二〇〇	パンフレット

現下の不況に就いて 東洋史上に於ける 滿鮮の地位 社會生活の形態と精神 社會統制としての教育 教科書を中心としたる 小學校教育に就て 新日本と思想問題	文學博士 小川郷太郎 文學博士 白鳥庫吉 東洋大學長 中島徳藏 文學博士 春山作樹 文部省圖書局長 芝山徹心 文學博士 矢吹慶輝	二月十日	新更會刊行部	二〇〇	パンフレット
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同

九、圖書運用

年度	貸出者	閱覽人	圖書冊數	内容
昭和六年七月 至昭和七年三月	印旛郡 成田町 住里村 久部部 中久部 山崎村 富田村 遠藤村 安根村 八木村 阿蘇村 和田村 須賀村 大須賀村 千葉城 全		一 一七 一五 一四 一〇 一六 一四 一五 一四 一五 一八	青年ノ修養及一般 知識ノ修得ニ適 ルモノ

十、會議

會名	月日	主催	場所	参加者	課題
第一回支部長會議	昭和六年十一月八日	本會	本會館	三〇	一、本會支部の事業に就て 二、本會支所と青年團在郷軍人會 青年訓練所との關係 三、本會支所と産業組合町村農會同業 組合との關係に就て 四、此の學特に本會の努力を傾注すべ き教化運動に就て
第二回支部長會議	昭和七年三月六日	本會	本會館	三五	一、講習生募集に關する件 二、圖書運用に關する件 三、(新更)誌利用に關する件
評議員會	昭和六年五月二十五日	本會	本會館	三七	一、會則改正 二、理事改選
理事會	九回	本會	本會館		



258.2  
101

昭和七年六月十五日印刷  
昭和七年六月三十日發行

【非賣品】

編輯人兼

淺井照次

千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人

大友惟誠

印刷所

成田學園印刷部  
千葉縣印旛郡成田町四百二番地

發行所

成田山新勝寺

258.2  
別冊  
101



終